幼児教育学科

2024 年 4 月 1 日　更新

2024 年 5 月 24 日　更新

2024 年 9 月 12 日　更新

2025 年 5月 14 日　更新

科目名	日本国憲法	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	わたなべ　のぶひさ 渡辺　演久
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	PUL11101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	憲法はなぜ存在するのかを理解し、憲法は国家権力を縛ることによって、人権を保障していることを説明していく。また子どもの権利条約などの国際法や教育基本法との関連性についても講義していく。最終的には子どもにまつわる憲法上の諸問題について考えられる講義とする方針である。
到達目標	１．憲法の制定目的について説明できる。 ２．主権者として政策を選択する力を身につけている。 ３．子どもの人権について理解している 。
学位授与方針	幼児教育学科（　2,3,4　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	ガイダンス、憲法はなぜあるのか（立憲主義）	予習	憲法の前文を読む
			復習	憲法の目的を理解する
第２回	内容	憲法は素晴らしいが、何の役に立つのだろう？（憲法は誰に遵守義務があるのか）	予習	憲法は誰を縛っているのか調べる
			復習	憲法尊重擁護義務について理解する
第３回	内容	戦後の日本はへそによって作られた（日本国憲法の制定過程）	予習	民間の憲法案を調べる
			復習	民間の憲法案がどう反映されたかを理解する
第４回	内容	天皇の給料はお仕事にみあっているか（象徴天皇制）	予習	女性天皇、女性宮家ついて調べる
			復習	現在の皇室をとりまく状況を理解する
第５回	内容	ウルトラマンは地球を守るために戦う？（平和主義と自衛隊））	予習	平和のための戦いはありうるのか考える
			復習	平和主義について理解する
第６回	内容	自由が先か、平等が先か（法の下の平等）	予習	一票の格差とは何か調べる
			復習	選挙制度について理解する
第７回	内容	大岡政談にみる黙秘権と無罪の推定（刑事司法における人権保障）	予習	冤罪事件について調べる
			復習	無罪推定の意義について理解する
第８回	内容	言論の自由は「言いたいことを言う権利」ではない（言論の自由）	予習	民主政治には何が必要か調べる
			復習	言論の自由の意義を理解する
第９回	内容	教育の主体は国家？それとも国民？（教育を受ける権利）	予習	学校教育の誕生について調べる
			復習	教育を受ける権利について理解する
第 10 回	内容	幸福追求権の中身と自己決定（幸福追求権）	予習	トランスジェンダーについて調べる
			復習	幸福追求権が人権の源になりうることを理解する
第 11 回	内容	参政権があるだけでは民主主義とはいえない（参政権と民意）	予習	自分の選挙区の選挙結果を調べる
			復習	多数が民意とは限らないことを理解する
第 12 回	内容	統治機構は人権を守る手段である（法の支配）	予習	国家を支配しているのは誰か考える
			復習	法の支配について理解する
第 13 回	内容	国会と国会議員の実像（立法機関）	予習	国権とは何か調べる
			復習	三権分立について理解する
第 14 回	内容	内閣と議員内閣制の不思議（内閣）	予習	憲法の行政について読んでおく
			復習	行政権の範囲について理解する
第 15 回	内容	まとめとレポート作成	予習	憲法にまつわる新聞記事を調べる
			復習	憲法の視点から政治問題を考える

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポート作成後にまとめと講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：レポート・課題（　90%）、授業態度【積極的参加】（　10　%）
教科書	『憲法のおもしろさ第３版』（山本聡・渡辺演久、北樹出版）
参考文献	授業内で適宜紹介する
補足事項	新聞記事等を通じて子どもをとりまく人権状況を取り上げるので、新聞などの報道に興味をもってほしい。

科　目　名	体育実技	単 位 数	1	授業時間数	４４	担当教員	きたほら　つだ 北洞・津田
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	DMB11101	授業形態	実技	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	本講義では、生涯にわたって運動・スポーツと親しむための基礎的技能の習得、正しい知識、実践方法について学ぶとともに、運動・スポーツを通して他者との関り方について考えることをねらいとする。また、将来幼児教育者として必要な幼児の運動あそびに関する知識、技能、さらに子どもの指導や援助の技術について理解を深めることを目的としている。
到達目標	1.運動・ダンス・スポーツに親しむための基礎的技能を習得している。 2.自己の身体に関心をもち、健康の維持・向上を実践していく知識・方法を習得している。 3.運動・ダンス・スポーツを通して協調性・社会性を身に付けている。 4.幼児教育者として必要な幼児の運動遊びに関する基本的な知識と技能を習得している。
学位授与方針	幼児教育学科（　3,4　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	からだの調整力を育むからだ遊びといろいろなハイハイ（四足移動）	予習	乳幼児期におけるハイハイの必要性を調べる
			復習	授業内容をGoogleクラスルームで復習する
第２回	内容	マット遊びⅠ：マットを道具とした遊び	予習	教科書等でマット遊びを調べる
			復習	授業内容をレポートにまとめて提出する
第３回	内容	マット遊びⅡ：回転遊び	予習	回転遊びを教科書等で調べる
			復習	授業内容をレポートにまとめて提出する
第４回	内容	レクリエーションスポーツⅠ：ソフトバレーボール	予習	ソフトバレーボールのやり方を調べる
			復習	授業で体験したことをレポートにまとめる
第５回	内容	跳び箱遊び１：台として遊ぶ	予習	跳び箱遊びについて教科書等で調べる
			復習	台として遊ぶ跳び箱遊びの内容をまとめる
第６回	内容	跳び箱遊びⅡ：腕立て開脚跳び越し	予習	腕立て開脚跳び越しの跳び方を調べてくる
			復習	腕立て開脚跳び越しのポイントをまとめる
第７回	内容	ボール遊び１：一人遊び	予習	ボール遊びの遊び方を教科書等で調べる
			復習	ボールの一人遊びをまとめる
第８回	内容	ボール遊びⅡ：ペアでパス、転がしドッヂボール	予習	子どものボールゲームを調べる
			復習	ボールもペア遊び・ドッヂボールをまとめる
第９回	内容	レクリエーションスポーツⅡ：バスケットボール	予習	バスケットボールのルールについて調べる
			復習	バスケットボールで使う体力をまとめる
第10回	内容	縄遊びⅠ：短縄遊び	予習	短縄と使った遊びを調べる
			復習	授業で行った短縄遊びをまとめる
第11回	内容	縄遊びⅡ：長縄遊び	予習	長縄を使った遊びを調べる
			復習	授業で行った長縄遊びをまとめる
第12回	内容	身近なものを使った遊び１：新聞紙、レジ袋	予習	新聞紙とレジ袋と使った遊びを調べる
			復習	授業で行った遊びをまとめる
第13回	内容	レクリエーションスポーツⅢ：バドミントン	予習	バドミントンのルールを調べる
			復習	バドミントンで使う体力をまとめる
第14回	内容	巧技台遊び１：器具の名称を覚える、基本の動き	予習	巧技台の器具の名称を教科書で調べてくる
			復習	巧技台の基本の動き方をまとめる
第15回	内容	巧技台遊びⅡ：色々な使い方	予習	巧技台の使い方を教科書で調べてくる
			復習	授業で行った動きをまとめる
第16回	内容	さまざまな動きについて	予習	幼児期の運動の意義について教科書を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第17回	内容	幼児の運動あそび① 遊びの工夫について	予習	幼児期の運動発達について調べておく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第18回	内容	幼児の運動あそび② 幼児指導の想定、実践	予習	指導法について教科書を読み、要点を確認する。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第19回	内容	いろいろな用具を使った運動あそび ボール、フープ、縄を使った運動あそび	予習	用具を使う遊びについての留意点を調べておく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。

	第 20 回	内容	リズミカルなダンス① グループワーク：作品創り	予習	幼児期のダンスの意義について教科書を読んでおく。
				復習	授業内容をノートにまとめる。
	第 21 回	内容	リズミカルなダンス② グループワーク：作品のブラッシュアップ	予習	前回の授業内容を思い出し、アイディアをまとめる。
				復習	授業内容をノートにまとめる。
	第 22 回	内容	リズミカルなダンス③ グループワーク：発表	予習	発表に向け練習。
				復習	創作過程を振り返り、感想や反省を記入する。
	予習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。				
課題へのフィードバック	課題に対するレポートや小テストの解答提出に関しては、Google classroom 上で評価をフィードバックする				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（10%）、レポート・課題（50%）、作品・発表（　　%）、実技（20%）、授業態度【積極性　】(20%)				
教科書	乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび～からだとこころを育む指導法（宮下恭子・茗井香保里編、大学図書出版）				
参考文献	脳を鍛えるじゃれつき遊び（正木建雄・井上高光・野尻ヒデ、小学館）				
補足事項	授業の資料を Google classroom にアップするので、Google classroom を使える環境を整えること。実技の際は、指定のジャージを着用のこと。また実技はレクリエーション以外、基本的に「裸足」で行うので、ストッキングを脱いでくること。第 1 回の②③野外環境実習（夏・冬）に参加する際に関わる各諸経費については、全額学生負担となる。				

科　目　名	体育実技	単 位 数	1	授業時間数	４４	担当教員	しおざき 塩崎　みづほ
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	DMB11101	授業形態	実技	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	本講義では、生涯にわたって運動・スポーツと親しむための基礎的技能の習得、正しい知識、実践方法について学ぶとともに、運動・スポーツを通して他者との関り方について考えることをねらいとする。また、将来幼児教育者として必要な幼児の運動あそびに関する知識、技能、さらに子どもの指導や援助の技術について理解を深めることを目的としている。
到達目標	1. 運動・ダンス・スポーツに親しむための基礎的技能を習得している。 2. 自己の身体に関心をもち、健康の維持・向上を実践していく知識・方法を習得している。 3. 運動・ダンス・スポーツを通して協調性・社会性を身に付けている。 4. 幼児教育者として必要な幼児の運動遊びに関する基本的な知識と技能を習得している。
学位授与方針	幼児教育学科（　１・２・５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第１回	内容	次にあげる３つのコースから選択できる。（第 10 時限までは共通） ①　平常コース ②　スキー実習（3 月下旬 3 日間） （②に係る費用は全額学生負担。） 履修方法、受講上の注意事項等について説明	予習	シラバスを読み、本授業のねらい、内容について把握する。
				復習	授業をもとに履修方法を決める
	第２回	内容	いろいろなウォーミングアップの実践と検討 幼児の体操、オリジナルウォームアップづくり	予習	幼児期の体操について１つ以上調べてくる
				復習	本時の内容をノートに記入する
	第３回	内容	鬼あそびについて考えよう	予習	鬼あそびについて３つ以上あげ、ルールを記入してくる
				復習	鬼あそびの意義についてまとめる
	第４回	内容	米袋を使った遊び	予習	米袋を作成してくる
				復習	米袋の遊びをまとめ、一つ新しい遊びを考えてくる
	第５回	内容	ダンス①　「走るー止まる」	予習	ストレッチをする
				復習	本時の内容の振り返りとまとめノートを作成する
	第６回	内容	ダンス②「集まるーとび散る」	予習	前時のウォームアップの実践をする
				復習	本時の内容の振り返りとまとめノートを作成する
	第７回	内容	ダンス③　「リズミカルな動き」 歌詞と曲のリズムをとらえたダンス	予習	童謡の曲について調べてくる
				復習	本時の内容を、意義とステップ、感想にまとめる
	第８回	内容	縄を使った遊び	予習	縄遊びの箇所の教科書を読み、１つ以上遊びを選んでくる
				復習	本時の内容を、年齢ごとに遊びを分ける
	第９回	内容	マットを使った遊び	予習	マット遊びの箇所の教科書を読み、安全面の配慮についてまとめる
				復習	本時の内容をもとに予習の箇所を見直す
	第 10 回	内容	巧技台を使った遊び	予習	巧技台の歴史、使い方について調べてくる
				復習	本時の内容をノートにまとめる
	第 11 回	内容	跳び箱を使った遊び	予習	幼児期の跳び箱遊びについて調べる
				復習	本時の内容をノートにまとめる
	第 12 回	内容	フープを使った遊び	予習	フープの特性についてまとめる
				復習	本時の内容を年齢ごとに遊びを分ける
	第 13 回	内容	ボールを使った遊び①幼児期の遊び	予習	幼児期のボール遊びの意義について調べる
				復習	本時の活動内容をまとめる
	第 14 回	内容	バドミントン	予習	バドミントンのルールについて調べる
				復習	本時の内容をノートにまとめる
	第 15 回	内容	バスケットボール	予習	バスケットボールの歴史、ルールについて調べる
				復習	本時の内容をまとめる
	第 16 回	内容	ソフトバレーボール	予習	バレーボールの歴史、ルーr について調べる
				復習	本時の内容をノートにまとめる
	第 17 回	内容	ダンス④「曲に合わせたダンスの創作」	予習	幼児と一緒に踊りたい曲を探す
				復習	本時の活動、動きをまとめる
	第 18 回	内容	ダンス⑤「ダンス発表の練習」	予習	動きを考えてくる
				復習	本時の活動、動きをまとめる
		内容		予習	発表のリハーサルをする

	第 19 回		ダンス⑥「ダンス発表会」	復習	仲間の作品のまとめ、創作過程からの振り返りをする
	第 20 回	内容	運動遊びの指導法① 「ルールのある遊びの指導実方法」	予習	ルールのある遊びの指導法について考えてくる
				復習	指導の仕方をまとめる
	第 21 回	内容	運動遊びの指導法② 「ルールのある遊びの指導実践」	予習	実際の指導をイメージして言葉かけを考えてくる
				復習	実践した感想、反省点を記入する
	第 22 回	内容	行事について考える　運動会、お遊戯会の企画について考えてみよう	予習	園で行われる行事について書き出す
				復習	行事の意義についてそれぞれまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	ノートやレポート課題の提出の際、コメントを記入して返却する。 発表の際は、講評をする。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（20%）、作品・発表（30%）、実技（30%）、授業態度【積極的参】(20%)				
教科書	『乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび　からだとこころを育む指導法』(宮下恭子他編著、大学図書出版)				
参考文献					
補足事項	実技の際は、原則指定のジャージを着用のこと。 ２）の野外環境教育実習（冬）に参加する際に係る各諸費用については、全額学生負担となる。				

科　目　名	体育講義	単 位 数	1	授業時間数	１６	担当教員	つだ　まきこ 津田　麻希子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	DMB11102	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	心身の健康保持増進は、豊かなライフスタイルを送る上で必要不可欠である。健康と運動との関わりに関する正しい知識を身に付け、理解を深めることを目的とする。また、自身の身体の仕組みについて知識を深め、自らの健康維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことを狙いとする。
到達目標	１．　健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身に付けている。 ２．　各年齢に適した食事や運動実践方法について理解をしている。 ３．　自己管理や、子どもの健康・運動の援助指導を適切に行えるよう、基礎知識を習得している。
学位授与方針	幼児教育学科（１、３、４）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	受講上の留意事項について 現代社会と健康、食事について考える	予習	教科書 p5～18 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第２回	内容	心の健康と運動、対処法について	予習	教科書 p21～26 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第３回	内容	青年期の性、性教育について	予習	教科書 p27～32 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第４回	内容	運動と健康、体力について	予習	教科書 p35～50 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第５回	内容	トレーニングの基礎理論	予習	教科書 p51～56 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第６回	内容	スポーツ傷害と応急処置、実践法について	予習	教科書 p57～63 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第７回	内容	乳幼児の体育について	予習	教科書 p65～75 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第８回	内容	まとめ	予習	今までの授業内容を見直す。
			復習	講義内容を全て見返し、理解を深める。

予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	小テストや復習問題等で解説をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、レポート・課題（２０％）、作品・発表（　　％）、実技（　　％）、授業態度【積極的参加】（３０％）
教科書	『大学生のための体育講義-今日つくる未来・今日を生きる知恵-』（茗井香保里他、推敲舎）
参考文献	必要に応じてプリントを随時配布。
補足事項	授業は 11 月頃より開始予定、毎回教科書とプリント、ノートを必ず持参すること。

科　目　名	体育講義	単 位 数	1	授業時間数	１６	担当教員	しおざき 塩崎　みづほ
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	DMB11102	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	健康や運動に関する情報があふれている現代社会。それらに対応していく力をつけることが望まれる。よって、本講義では健康・運動・体力について正しい知識を学び、自ら健康の維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことがねらいである。
到達目標	１．健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身に付けている。 ２．各年齢に適した食事や休息、運動実践の方法について理解している。 ３．幼児教育者としての自己の健康管理、子どもたちの健康・運動の援助指導を適切に実践できる基礎的知識を習得している。
学位授与方針	幼児教育学科（　１・３・４　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	受講上の留意事項について 現代社会と健康	予習	教科書 1 を読んでくる
			復習	p. 10 について調べてまとめる
第２回	内容	食事と健康　食事について討議しよう	予習	教科書 2 を読んでくる。前日の食事内容をメモしておく。
			復習	p. 20 について調べまとめる
第３回	内容	心の健康　運動との関わりについても考えてみよう	予習	教科書 3 を読んでくる
			復習	運動の及ぼす効果についてまとめる
第４回	内容	青年期と性　感染症について知ろう	予習	教科書 4 を読んでくる　感染症について調べてくる
			復習	p. 34 について調べ、まとめる
第５回	内容	運動と健康、体力について	予習	教科書 5 を読んでくる
			復習	教科書 6 について読み、本時の内容と照合しまとめる
第６回	内容	トレーニングの理論と実践	予習	教科書 7 を読み、トレーニングの目的を考えてくる
			復習	トレーニングメニューを考え、実践しそれについての考察をまとめる
第７回	内容	応急処置について	予習	教科書 8 を読み、熱中症についてまとめる
			復習	p. 64 について調べまとめる
第８回	内容	生涯にわたる健康、運動について討議しよう	予習	教科書 9、10 を読んでくる
			復習	8 回目までの内容を振り返り、考察する

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	毎時の復習問題について解説する 質問に関しては、コメントすると同時に授業内にて説明をする
成績評価	試験期間における定期試験：実施（〇)）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（60%）、レポート・課題（20%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【積極的態度】(20%)
教科書	『大学生のための体育講義　今日つくる未来・今日を生きる知恵』(茗井香保里編著、推敲舎)
参考文献	『健康づくりのための運動科学』(鵤木秀夫編、化学同人) 『大学生の健康・スポーツ科学』(大学生の健康・スポーツ科学研究会編、道和書院)

補足事項	授業は 11 月頃より開始（詳細は掲示にて知らせる） 毎回教科書を持参し、復習課題を提出すること

科　目　名	カレッジリテラシー	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しおざき　とねがわ　ほりうち 塩 崎・利根川・堀 内
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11109	授業形態	講義	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授　業　の 内　　容	この授業は、広い意味での「教養」を身につけるためのものである。授業を通して、短期大学の教育に必要となる基礎学力や学ぶための姿勢、レポートの書き方、プレゼンテーションの工夫等について講義、およびグループワークを行う。また、本学の建学の理念を理解し、特色を持った保育者像を描くための講義を行う。
到 達 目 標	１．短期大学における基礎学力、学ぶ姿勢を身につけている。 ２．本学の建学の理念を理解し、特色を持った保育者像を身につけている。 ３．社会人としてのマナーや礼儀作法を身につけることができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　２・３・５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	【塩崎①】 授業ガイダンス 自己紹介スライドを作成する	予習	シラバスを読み、授業の概要を捉える
			復習	本時の活動を振り返り、まとめる
第２回	内容	【塩崎②】自己&他己紹介、交流会ワーク スライドの発表、学科交流会のグループワーク	予習	スライドを完成させる
			復習	交流会で必要な事柄をまとめる
第３回	内容	【塩崎③】大学での学び１　レポート作成について レポート作成の仕方について学ぶ	予習	関心のあるニュースを見つけ、そのニュースの要旨をまとめる
			復習	本時の学びを参考にレポートをまとめる
第４回	内容	【塩崎④】大学での学び２　文献検索 図書室の利用方法と文献検索、引用の書き方について	予習	文献検索の仕方について調べてくる
			復習	レポートを完成させる
第５回	内容	【塩崎⑤】大学での学び３ レポート発表とグループディスカッション	予習	自分のレポートの発表の仕方を練習する
			復習	仲間の意見から自分が学んだことをまとめる
第６回	内容	【堀内①】言葉遣いと人間関係のマナー	予習	社会人として必要な基礎力について考えてみる
			復習	授業内で見つけた課題について取り組むこと
第７回	内容	【堀内②】電話のマナー、手紙・はがきのマナー	予習	言葉遣いについて自分を顧みる
			復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみること
第８回	内容	【堀内③】職場のルール、来客応対・席次のマナー	予習	社会人として働く姿を想像してみる
			復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみること
第９回	内容	【堀内④】箸使い・食事のマナー	予習	箸を準備、持ち方を確認する
			復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみること
第 10 回	内容	【堀内⑤】立ち居振る舞い	予習	鏡に姿を映し、姿勢や歩き方を確認する
			復習	全５回を振り返り社会人としての基礎力をつける
第 11 回	内容	【利根川①】女性の生き方・働き方とジェンダー① 著名な女性の半生を学ぶ	予習	女性の生き方・働き方について考える
			復習	講義で取り上げた人物をまとめ、『建学の心』に目を通す
第 12 回	内容	【利根川②】女性の生き方・働き方とジェンダー② 建学の心と保育をテーマにスライドを作成する	予習	『建学の心』を読む
			復習	『建学の心』を読み、スライド内容を作成する
第 13 回	内容	【利根川③】女性の生き方・働き方とジェンダー③ 建学の心と保育をテーマにスライドを作成する	予習	『建学の心』を読み、スライド内容を作成する
			復習	スライド内容を作成する、発表の準備をする
第 14 回	内容	【利根川④】女性の生き方・働き方とジェンダー④ 建学の心と保育をテーマにスライドを発表する	予習	スライド内容を作成する、発表の準備をする
			復習	スライド発表の振り返りをする
第 15 回	内容	【利根川⑤】女性の生き方・働き方とジェンダー⑤ スライド発表を振り返る	予習	スライド発表の振り返りをする
			復習	授業を振り返り、自分の保育観について考える

予習に要する学習時間：概ね　60　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　120　分を目安とする。

課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題や小テストのフィードバックを行う 演習時に模範解答を示し説明・指導する。レポートは添削をして返却する。発表については講評をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（50%）、作品・発表（30%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加】(20%)
教科書	『建学の心』冊子 『大学生の学習テクニック第３版』森靖雄、大月書店
参考文献	『新生活教養』(近喰晴子他、建帛社)『保育のマナーと言葉』(長島和代編、わかば社) 『大学１年生からの社会を見る眼のつくり方』森靖雄、大月書店

補足事項	卒業および資格取得のための必修科目なので、全員が履修すること。 塩崎５回、利根川５回、堀内５回

科目名	カレッジリテラシー	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	関（せき）・利根川（とねがわ）・堀内（ほりうち）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11109	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（ ）
授業の内容	この授業では、短期大学の教育に必要となる基礎学力や学ぶための姿勢、レポートの書き方、プレゼンテーションの工夫等について講義、およびグループワークを行う。また、本学の建学の理念を理解し、特色を持った保育者像を描くための講義を行う。
到達目標	１．短期大学における基礎学力、学ぶ姿勢を身につけている。 ２．本学の建学の理念を理解し、特色を持った保育者像を身につけている。 ３．社会人としてのマナーや礼儀作法を身につけることができている。
学位授与方針	幼児教育学科（ ２・３・５ ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画

第１回	内容	【関①】 授業ガイダンス 自己紹介スライドを作成する	予習	シラバスを読み、授業の概要を捉える
			復習	本時の活動を振り返り、まとめる
第２回	内容	【関②】自己&他己紹介、二部生交流会ワーク スライドの発表、学科交流会のグループワーク	予習	スライドを完成させる
			復習	交流会で必要な事柄をまとめる
第３回	内容	【関③】大学での学び１ レポート作成について レポート作成の仕方について学ぶ 交流会振り返り	予習	関心のあるニュースを見つけ、そのニュースの要旨をまとめる
			復習	本時の学びを参考にレポートをまとめる
第４回	内容	【関④】大学での学び２ 文献検索 図書室の利用方法と文献検索、引用の書き方	予習	文献検索の仕方について調べてくる
			復習	レポートを完成させる
第５回	内容	【関⑤】大学での学び３ レポート発表とグループディスカッション	予習	自分のレポートの発表の仕方を練習する
			復習	仲間の意見から自分が学んだことをまとめる
第６回	内容	【堀内①】言葉遣いと人間関係のマナー	予習	社会人として必要な基礎力について考えてみる
			復習	授業内で見つけた課題について取り組むこと
第７回	内容	【堀内②】電話のマナー、手紙・はがきのマナー	予習	言葉遣いについて自分を顧みる
			復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみること
第８回	内容	【堀内③】職場のルール、来客応対・席次のマナー	予習	社会人として働く姿を想像してみる
			復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみること
第９回	内容	【堀内④】箸使い・食事のマナー	予習	箸を準備、持ち方を確認する
			復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみること
第 10 回	内容	【堀内⑤】立ち居振る舞い	予習	鏡に姿を映し、姿勢や歩き方を確認する
			復習	全５回を振り返り社会人としての基礎力をつける
第 11 回	内容	【利根川①】女性の生き方・働き方とジェンダー① 著名な女性の半生を学ぶ	予習	女性の生き方・働き方について考える
			復習	講義で取り上げた人物をまとめ、『建学の心』に目を通す
第 12 回	内容	【利根川②】女性の生き方・働き方とジェンダー② 建学の心と保育をテーマにスライドを作成する	予習	『建学の心』を読む
			復習	『建学の心』を読み、スライド内容を作成する
第 13 回	内容	利根川③】女性の生き方・働き方とジェンダー③ 建学の心と保育をテーマにスライドを作成する	予習	『建学の心』を読み、スライド内容を作成する
			復習	スライド内容を作成する、発表の準備をする
第 14 回	内容	【利根川④】女性の生き方・働き方とジェンダー④ 建学の心と保育をテーマにスライドを発表する	予習	スライド内容を作成する、発表の準備をする
			復習	スライド発表の振り返りをする
第 15 回	内容	【利根川⑤】女性の生き方・働き方とジェンダー⑤ スライド発表を振り返る	予習	スライド発表の振り返りをする
			復習	授業を振り返り、自分の保育観について考える

予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。

課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題や小テストのフィードバックを行う 演習時に模範解答を示し説明・指導する。レポートは添削をして返却する。発表については講評をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ %）、レポート・課題（５０%）、作品・発表（３０%）、実技（ %）、授業態度【授業参加】（２０%）
教科書	『『建学の心』冊子 『大学生の学習テクニック第３版』森靖雄、大月書店
参考文献	『新生活教養』(近喰晴子他、建帛社)『保育のマナーと言葉』(長島和代編、わかば社) 『大学１年生からの社会を見る眼のつくり方』大学初年次教育研究会、大月書店
補足事項	卒業および資格取得のための必修科目なので、全員が履修すること。 関５回、利根川５回、堀内５回

科目名	キャリアデザイン	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	茗井（めい）・大熊（おおくま）・塩崎（しおざき）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11106	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（ ）
授業の内容	本授業では、自らのライフキャリア（人生生活全般）を形成するための智慧、それをキャリアデザイン（人生設計）することに関する内容を扱う。また、ライフキャリアに関する基礎知識、キャリア発達理論を学び、自らの課題を発見して実践的に活用できる力の育成をめざす。さらに、現在社会人として活躍している多様な先輩のキャリアについて聞き、２年次より始まる就職活動に向け、自分自身の職業生活についてイメージしていく。
到達目標	１．自己理解、他者理解を深めている。 ２．キャリアデザインの基本と方法について理解している。 ３．修得した知識を実践的に活用できる ４．資格や免許を活かして働いている先輩方の人生やキャリア、働き方等を参考に、自分のキャリアについて考えることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（ ２・５ ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスを読んでくる。該当資料を読む。
			復習	本時の学んだことをまとめる
第２回	内容	自己紹介とハンセンの４L 理論 9/25	予習	自己紹介の内容を考える
			復習	授業での学びをノートに書き、４L と人生をまとめる
第３回	内容	自己分析とライフラインチャート 10/2	予習	自分の人生の出来事をノートに書いておく
			復習	ライフラインチャートから、自分の考える幸福についてノートにまとめる
第４回	内容	シャインのキャリアアンカー8 分類 10/9	予習	教科書や参考資料からキャリアアンカ―の言葉の意味を調べておく
			復習	シャインについて調べノートにまとめる
第５回	内容	資格を活かして働いている先輩から学ぶ ① 企業	予習	代表的なキャリア教育の基礎理論について調べておく
			復習	本授業から学んだことをノートにまとめる
第６回	内容	秋草の卒業生から聞く保育の仕事	予習	保育の仕事についての質問を考えてくる
			復習	本授業で学んだこと、先輩へのメッセージとしてまとめる。
第７回	内容	資格を活かして働いている先輩から学ぶ ②病児保育室で働く	予習	看護で働く先輩への質問を考えてくる
			復習	本授業で学んだこと、先輩へのメッセージとしてまとめる
第８回	内容	キャリア教育の基礎理論 パーソンズ、スーパー、サビカス 11/6	予習	job と work の違いについて調べておく
			復習	自分の仕事の価値をどこに置くか、ノートにまとめる
第９回	内容	クランボルツの計画的偶発性学習理論 11/27	予習	クランボルツについて調べておく
			復習	自分のプランドハプスタンスをノートにまとめる
第 10 回	内容	トランジションとシュロスバーグの４S 理論 12/4	予習	一般的な人生の転機の兆候や特徴について調べておく
			復習	自分の人生の転機を振り返りノートに書く
第 11 回	内容	リアリティーショックとキャリアショック 12/11	予習	リアリティーショックとキャリアショックの言葉の意味を調べておく
			復習	これらのショックから立ち直る方法を考える
第 12 回	内容	外的キャリア、内的キャリア 12/18 グループディスカッションを通して考える	予習	自分の働く理由をノートに書いておく
			復習	自分の社会での役割は何なのかというテーマから、ディスカッションの内容をまとめる
第 13 回	内容	自己課題とキャリアプランニング 1/8	予習	キャリア形成における自己課題をノートに書いておく
			復習	大学での学びを活用して自己課題を解決するためのアイデアをノートにまとめる
第 14 回	内容	人生設計のまとめ、 行動し、失敗を重ねて前進する力 1/15	予習	これまでのマイ講義ノートを読み返しておく
			復習	これまでの授業を振り返り、学びと感想をマイ講義ノートに書きまとめる
第 15 回	内容	学科行事	予習	教科書とこれまでのマイ講義ノートを読み返しておく
			復習	これまでの授業を振り返り、学びと感想をマイ講義ノートに書きまとめ、その考えを第三者に伝えられるようにする

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	マイ講義ノートを集め、コメントを書き入れて返却する 振り返りのフォームを集め、次の時間等にて教員からコメントを行う
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート・課題（60%）、授業態度【 積極的参加】(40%)

教科書	『大学生のキャリアデザイントレーニング』（稲本恵子、晃洋書房） 『大学生の学習テクニック第３版』森靖雄、大月書店
参考文献	『大学生のための実践キャリア・デザイン』（藤木清、くろしお出版）
注意事項	必修科目の為全員が履修すること

科目名	キャリアデザインⅡ	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	茗井（めい）　香保里（かおり）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11106	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（　　）
授業の内容	本授業では、自らのライフキャリア（人生生活全般）を形成するための智慧、それをキャリアデザイン（人生設計）することに関する内容を扱う。また、ライフキャリアに関する基礎知識、キャリア発達理論を学び、自らの課題を発見して実践的に活用できる力の育成をめざす。
到達目標	１．自己理解、他者理解を深めることができる。 ２．キャリアデザインの基本と方法について理解できる。 ３．修得した知識を実践的に活用できる
学位授与方針	幼児教育学科（ 2，3，5 ）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画				
	第１回	内容	オリエンテーション、キャリアデザインとは 構成的グループエンカウンターの実践	予習：シラバスを熟読する 復習：本時のグループ活動についてノートにまとめる
	第２回	内容	自己紹介とハンセンの４L 理論	予習：自己紹介の内容を考える 復習：授業での学びをノートに書き、４L と人生をまとめる
	第３回	内容	自己分析とライフラインチャート	予習：自分の人生の出来事をノートに書いておく 復習：ライフラインチャートから、自分の考える幸福についてノートにまとめる
	第４回	内容	シャインのキャリアアンカー8 分類	予習：教科書や参考資料からキャリアアンカ―の言葉の意味を調べておく 復習：シャインについて調べノートにまとめる
	第５回	内容	キャリア教育の基礎理論 パーソンズ、スーパー、サビカス	予習：代表的なキャリア教育の基礎理論について調べておく 復習：教科書の該当ページを熟読する
	第６回	内容	キャリアプラン、キャリアパス、ライフキャリア発達	予習：言葉の意味を調べておく 復習：授業を振り返り自分の課題としてノートにまとめる
	第７回	内容	ライフキャリア発達課題	予習：教科書の該当頁を熟読する 復習：授業を振り返り自分の発達課題についてノートにまとめる
	第８回	内容	外的キャリア、内的キャリア	予習：job と work の違いについて調べておく 復習：自分の仕事の価値をどこに置くか、ノートにまとめる
	第９回	内容	クランボルツの計画的偶発性学習理論	予習：クランボルツについて調べておく 復習：自分のプランドハプスタンスをノートにまとめる
	第 10 回	内容	トランジションとシュロスバーグの４S 理論	予習：一般的な人生の転機の兆候や特徴について調べておく 復習：自分の人生の転機を振り返りノートに書く
	第 11 回	内容	リアリティーショックとキャリアショック	予習：リアリティーショックとキャリアショックの言葉の意味を調べておく 復習：これらのショックから立ち直る方法を考える
	第 12 回	内容	卒業生から聞く保育の仕事	予習：自分の働く理由をノートに書いておく 復習：自分の社会での役割は何なのかというテーマから、ディスカッションの内容をまとめる
	第 13 回	内容	自己課題とキャリアプランニング	予習：キャリア形成における自己課題をノートに書いておく 復習：大学での学びを活用して自己課題を解決するためのアイデアをノートにまとめる
	第 14 回	内容	人生設計のまとめ、 行動し、失敗を重ねて前進する力	予習：これまでのマイ講義ノートを読み返しておく 復習：これまでの授業を振り返り、学びと感想をマイ講義ノートに書きまとめる
	第 15 回	内容	健康に生きること、人生、命	予習：教科書とこれまでのマイ講義ノートを読み返しておく 復習：これまでの授業を振り返り、学びと感想をマイ講義ノートに書きまとめ、その考えを第三者に伝えられるようにする
	予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。			

課題へのフィードバック	マイ講義ノートを集め、コメントを書き入れて返却する
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（60%）、授業態度【　積極的参加】(40%)
教科書	『大学生のキャリアデザイントレーニング』(稲本恵子、晃洋書房)
参考文献	『大学生のための実践キャリア・デザイン』(藤木清、くろしお出版)
注意事項	必修科目の為全員が履修すること

科　目　名	基礎教養講座	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	せき　ほか 関　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11107	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	この授業では、短期大学での学修に必要な学力の向上を図りつつ、社会人として求められるスキルと教養を身につける。そして、多様な価値観に触れることで、広い視野で物事を捉え、考える力を養う。保育者養成にかかわる幅広い領域から横断的なアプローチを行い、専門的な学びに対するモチベーションを高めていく。
到達目標	１．主体的に大学生活を送る姿勢を身につけている。 ２．自分の関心領域について、具体的に説明することができる。 ３．社会人として生きていくために必要な基礎教養を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　１・２・５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	授業ガイダンス／classroom の使い方【関】 短大保育者養成課程での学びと資格取得の概要【関】	予習	学生便覧及びシラバスを読んでおく
			復習	学生便覧を読む
第２回	内容	幼児の音楽とピアノ・学園歌について【鹿戸】	予習	子どもの歌について調べる
			復習	授業で取り上げた曲の練習をしておく
第３回	内容	入学前ワークブックの振り返り【丸橋】	予習	ワークブックを見直す
			復習	ワークブックを完成させる
第４回	内容	ニュースを読み解く／入学前ワークブックの振り返り【伊澤】	予習	興味を持ったニュースについて自分なりの考えをまとめる
			復習	授業を振り返り、ワークブックで取り上げた新聞記事について自分の考えをまとめる
第５回	内容	心理学への招待【三好】	予習	心理学とはどのような学問か調べる
			復習	授業前後でどのようにイメージが変わったか考える
第６回	内容	人と関わる～対人関係の心理学【大熊】	予習	自分が人と関わるときに大切にしていることについて考えておく
			復習	自身の対人関係について，振り返る
第７回	内容	入学前ワークブックの振り返り【丸橋】	予習	ワークブックをよく読み、復習をする
			復習	間違えた箇所を見直して覚える
第８回	内容	メディアで学ぶ社会福祉【志濃原】	予習	社会福祉に関するマンガや映画を調べる
			復習	関心のあるマンガや DVD 等を鑑賞する
第９回	内容	マティスの絵画に学ぶ幼児の造形【小口】	予習	幼児の表現（造形）に関する文献を読み、要旨をまとめる
			復習	マティスやピカソなど、授業で取り扱った芸術家の作品を鑑賞する
第 10 回	内容	道徳教育について考える【松木】	予習	自分が受けた道徳授業について振り返る
			復習	授業で学んだことをまとめ、更に調べる
第 11 回	内容	体を動かす楽しさを感じよう～エクササイズ色々【塩崎】	予習	事前に配信された資料に目を通しておく
			復習	運動効果についての記録をまとめる
第 12 回	内容	作ってみよう！手作りおもちゃ【丸橋】	予習	伝統的な昔のおもちゃについて調べる
			復習	製作したおもちゃの遊び方をまとめる
第 13 回	内容	欧米の保育の紹介・保育の質について【小山】	予習	欧米の保育について調べる
			復習	保育の質の向上に向けた取り組みについてまとめる
第 14 回	内容	絵本から学ぶインクルージョン【関】	予習	好きな絵本を１冊図書館で借りて読んでおく
			復習	借りた絵本についてインクルーシブの視点でまとめる
第 15 回	内容	授業の振り返りとまとめ／グループディスカッション【関】	予習	これまでの授業でやったことを見直す
			復習	後期に向けた心構えをまとめる

予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。

課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題や小テストのフィードバックを行う。授業内で提出及び発表するものは授業内で講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（１０％）、レポート・課題（３０％）、作品・発表（３０％）、実技（　　％）、授業態度【積極性】（３０％）
教科書	『大学１年生からの社会を見る眼のつくり方』（大学初年次教育研究会、大月書店）
参考文献	『大学生の学習テクニック第３版』（森靖雄、大月書店） 『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語　改訂版』（永島和代編　わかば社）
補足事項	

科　目　名	保育教養講座	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11108	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	本科目は、保育者に求められる語彙力、読解力、保育の基礎用語、文章表現力を身につけ、保育の実践記録の記入や読み取り、指導計画案の作成、レポートの書き方など演習を通じて学ぶ。グループワーク等に参加し、ＡＬ（アクティブ・ラーニング）補習を活用しながら、学習する意欲・態度を身につける。
到達目標	１．専門科目を理解するための読解力が身についている。 ２．保育分野の基礎的な用語を説明できる。 ３．実習日誌や指導案の作成の基礎となる文章表現力を身につけている。 ４．レポートの書き方を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1・2　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画				
第１回	内容	オリエンテーション/実習に向けてのワーク/ＡＬ補習の説明	予習	シラバスを読んでおく
			復習	ワークブックを見て復習する
第２回	内容	保育の実践記録の文章表現方法/保育の基礎用語	予習	幼稚園のディリープログラムを確認する
			復習	課題を行う。基礎用語の説明を要約する
第３回	内容	保育の実践記録（幼稚園①年少・解説）/保育の基礎用語	予習	課題①を読んでおく
			復習	課題①を行う。基礎用語の説明を要約する
第４回	内容	保育の実践記録（幼稚園②年中・解説）/保育の基礎用語	予習	課題②を読んでおく
			復習	課題②を行う。基礎用語の説明を要約する
第５回	内容	保育の実践記録（幼稚園③年長・解説）	予習	課題③を読んでおく
			復習	課題③を行う。
第６回	内容	保育の実践記録（保育園①乳児・解説）/保育の基礎用語	予習	保育園の乳児クラスのディリープログラムを確認する/課題①を読んでおく
			復習	課題①を行う。基礎用語の説明を要約する
第７回	内容	保育の実践記録（保育園②幼児・解説）/保育の基礎用語	予習	保育園の幼児クラスのディリープログラムを確認する/課題②を読んでおく
			復習	課題②を行う。基礎用語の説明を要約する
第８回	内容	レポート・考察・エピソード記録の書き方/文章表現	予習	教科書 p48～57 を読む
			復習	課題を行う。
第９回	内容	手紙の書き方（お礼状）/文章表現	予習	手紙の書き方を確認する/実習を振り返る
			復習	お礼状を完成させる
第 10 回	内容	部分実習指導案①説明/文章表現	予習	教科書（ｐ66～）を読む
			復習	指導案の作成の仕方をまとめる
第 11 回	内容	部分実習指導案②絵本の読解/文章表現	予習	子どもの発達にあった絵本を選ぶ
			復習	教科書ｐ82.83 を参考に指導案を完成させる
第 12 回	内容	部分実習指導案③手遊びについて/文章表現	予習	教科書（ｐ72～）を読む
			復習	教科書ｐ80.81 を参考に指導案を完成させる
第 13 回	内容	主活動の指導案作成①教材研究/文章表現（グループワーク）	予習	教科書ｐ88.89 を読む
			復習	教材研究を行う
第 14 回	内容	主活動の指導案作成②指導案作成/文章表現	予習	指導案を作成するポイントを確認する
			復習	指導案を完成させる
第 15 回	内容	主活動の指導案作成③解説・まとめ（グループワーク）	予習	課題プリントを読んでおく
			復習	指導案作成を理解する
予習に要する学習時間：概ね　10 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　40 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	課題作成後、解説をする
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○）しない 成績評価の方法：　レポート（30%）、課題（40%）、授業態度【積極的な課題への取組み】(30%)
教科書	『実習日誌・実習指導案　パーフェクトガイド』(小櫃智子編、わかば社) 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』
参考文献	『改訂版　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』(長島和代編、わかば社)

補足事項	必修科目のため、全員が履修すること。 各自意欲をもって取組み、基礎学力の向上を図ること。ＡＬ（アクティブ・ラーニング）補習を活用すること。

科　目　名	情報機器操作	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	ほしの　おさむ 星野　治
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDT11101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	Microsoft Office に含まれる事務処理系ソフトウェア群のうち、文書作成用ソフトウェア（Word）、表計算用ソフトウェア（Excel）およびプレゼンテーション用ソフトウェア（PowerPoint）の基本的な取り扱いかたを学ぶ。 第２回～第 14 回の授業では、相隣り合う２～３コマずつの授業をペアとして進行する。各ペアの前半ではソフトウェアの基本操作を主に講義形式で、同じく後半ではソフトウェアの応用操作を主に自習形式で学びつつ、２～３コマの授業時間を使って１つの課題を仕上げる。
到達目標	１．幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法を習得している。 ２．パソコン初心者は、「覚えるよりも慣れること」の大切さを理解している。 ３．パソコン経験者は、「より賢いパソコン活用の仕方」を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1,3　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	ガイダンス 情報リテラシー、サインイン・サインアウト、Windows の基礎知識、日本語入力、Gmail、Classroom、その他	予習	シラバスを読んでおく。
			復習	パソコンの基本操作を確実に行う。
第２回	内容	Word の学習(1a) やさしい文書の作成、その他	予習	Word の編集画面の内容を理解する。
			復習	教科書を用いて入力練習をする。
第３回	内容	Word の学習(1b) 表の取り扱い、文章の修飾(フォント、下線、網かけ、レイアウト、等々)、その他	予習	表の取り扱い（Word の場合）について確認する。
			復習	指定された課題（表付き文書）を作成する。
第４回	内容	Word の学習(2a) 文章の修飾（クリップアート、ワードアート、図・画像の挿入、ページ罫線）、その他	予習	文書の基本的な修飾機能について確認する。
			復習	指定された課題（修飾付き文書）を作成する。
第５回	内容	Word の学習(2b) やや高度な文書加工（ページ番号、ヘッダー・フッター、段落、文字列の検索・置換）、その他	予習	文書の応用的な修飾機能について確認する。
			復習	指定された課題（応用修飾付き文書）を作成する。
第６回	内容	Excel の学習(1a) 基本的な表（数表）の作成、その他	予習	Excel の編集画面の内容を理解する。
			復習	表作成を通して Word の操作との違いを理解する。
第７回	内容	Excel の学習(1b) 表（数表）の作成（関数の取り扱い、文字の装飾、行・列の加工、等々)、その他	予習	教科書などを通して組み込み関数を確認する。
			復習	指定された課題（計算付き数表）を作成する。
第８回	内容	Excel の学習(2a) データ処理の応用（条件判定、セル参照、グラフ)、その他	予習	条件判定の指定方法について確認する。
			復習	指定された課題（条件付き数表）を作成する。
第９回	内容	Excel の学習(2b) より高度なデータ処理（簡単なデータベース、フィルタリング)、その他	予習	入力値の並べ替え方法について確認する。
			復習	指定された課題（入力値の抽出処理）を作成する。
第 10 回	内容	PowerPoint の学習(1) スライド作成の基本（文字入力、スライドの編集(挿入・削除・置換))、その他	予習	PowerPoint の編集画面の内容を理解する。
			復習	指定された課題（簡単なスライド）を作成する。
第 11 回	内容	PowerPoint の学習(2) スライド作成の応用（図表・画像の挿入、マルチメディア効果)、その他	予習	スライドの応用的な修飾方法について確認する。
			復習	指定された課題（前回の成果物の改良）を作成する。
第 12 回	内容	ソフトウェアの応用(1) 長文レポート（鑑賞文など）の作成、その他	予習	各ソフトウェアの基本操作を再確認する。
			復習	指定された課題（両ソフトの同時利用）を作成する。
第 13 回	内容	ソフトウェアの応用(2) Excel を用いた数学問題の求解、その他	予習	各ソフトウェアの応用操作を再確認する。
			復習	指定された課題（数学問題の求解など）を作成する。
第 14 回	内容	ソフトウェアの応用(3) Word や Excel を併用したスライドの作成、その他	予習	各ソフトウェアの基本操作を再確認する。
			復習	指定された課題（授業時に指示する）を作成する。
第 15 回	内容	全体のまとめ 幼児教育・保育の現場での情報リテラシーに関する各自の見解のまとめ	予習	これまでの課題全般に目を通しておく。
			復習	授業時に指定された内容のレポートを作成する。

予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	提出されたレポート・課題については、必要に応じて改訂増補された成果物の再提出を求める。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（５０％)、授業態度【積極的参加】(５０％)
教科書	『Windows10 対応　30 時間でマスター　Office2019』(実教出版企画開発部、実教出版株式会社)
参考文献	必要に応じて紹介する。

補足事項	授業の進行状況に応じて、授業計画の内容を適宜変更する場合がある。 パソコンの操作はピアノの演奏と同様に、触れる機会が多ければ多いほど早く上達する。また、パソコンとスマートフォンとは、用途も使い勝手も互いに全く異なるIT機器同士である。スマートフォンの操作はできる反面パソコンに対して苦手意識があるという人は、時間の許す限り、たとえば授業時間外にネットサーフィンを行う等して、パソコンの取り扱いに慣れ親しむようにしてほしい。

科目名	英語	単位数	2	授業時間数	60	担当教員	なかじま なおき 中島 尚樹
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	ENL11101	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（ ）
授業の内容	この授業は、実践的な英語力の基礎を身につけるためのものです。日常生活の身近な話題に関して、英語で理解し、表現できるようになることを目指して、基本的な文法と語彙の学習から英作文に至るまで発信型の練習をしていきます。また、英語の歌や月の名前の由来などの文化的な話題にも触れたいと思っています。
到達目標	１． Be 動詞の構文（現在と過去）を正しく使うことができる。 ２． 一般動詞の構文（現在と過去）を正しく使うことができる。 ３． 日常生活の出来事を言い表すのに必要な基本的な語彙を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（２、５ ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画					
	第１回	内容	授業説明 (年間の授業の流れ、評価方法、履修上の注意点など)	予習	シラバスを読む。
				復習	１年間の授業の流れを確認する。
	第２回	内容	Pre-Unit 品詞と語順 (英語の品詞と基本語順)	予習	Pre-Unit の部分を読んで、問題をやる。
				復習	各品詞の例を自分で考えてみる。
	第３回	内容	文法：名詞と代名詞 (名詞と代名詞の種類、主格の代名詞)	予習	代名詞の分類をしてみる。
				復習	指示に沿って代名詞についてまとめる。
	第４回	内容	文法：Be 動詞の現在形(肯定文) (Be 動詞＋名詞句/形容詞句/前置詞句)	予習	プリント１の説明部分を読み、例文を訳す。
				復習	プリント１の練習問題の訳をノートに書く。
	第５回	内容	文法：Be 動詞の現在形(否定文と疑問文) (Be 動詞＋名詞句/形容詞句/前置詞句)	予習	プリント２の説明部分を読み、例文を訳す。
				復習	プリント２の練習問題の訳をノートに書く。
	第６回	内容	文法：Be 動詞の過去形 (肯定文、否定文、疑問文)	予習	プリント３の説明部分を読む。
				復習	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。
	第７回	内容	Unit 1 First Day of Class (be 動詞の構文)	予習	テキストＵ１の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	Ｕ１の Conversation の B を聞いて音読する。
	第８回	内容	文法：There 構文 (人やモノの存在を表す表現)	予習	プリント４の説明部分を読み、例文を訳す。
				復習	これまで出てきた Be 動詞の構文をまとめる。
	第９回	内容	文法：一般動詞の現在形(肯定文) (主語によって変わる現在形の動詞の形)	予習	プリント５の説明部分を読む。
				復習	プリント５の練習問題の訳をノートに書く。
	第 10 回	内容	文法：一般動詞の現在形(否定文) (don't/doesn't の区別と使い方)	予習	プリント６の説明部分を読み、例文を訳す。
				復習	プリント６の練習問題の訳をノートに書く。
	第 11 回	内容	文法：一般動詞の現在形(疑問文) (Do/Does の区別と使い方)	予習	プリント７の説明部分を読み、例文を訳す。
				復習	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。
	第 12 回	内容	Unit 2 I love Bread (一般動詞の現在形)	予習	テキストＵ２の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	Ｕ２の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 13 回	内容	Unit 3 Pizza Time (可算名詞と不可算名詞)	予習	テキストＵ３の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	Ｕ３の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 14 回	内容	Unit 4 Not Just a Baker (代名詞：所有格、目的格)	予習	テキストＵ４の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	Ｕ４の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 15 回	内容	まとめ：be 動詞と一般動詞の現在形など (文法問題の練習と英作文)	予習	これまで学んだ構文を自分で整理する。
				復習	これまで出てきた単語を整理し、まとめる。
	第 16 回	内容	文法：時点を表す副詞的な表現 (基本的な時間表現と前置詞の有無)	予習	これまで出てきた時間表現を書き出してみる。
				復習	プリント８の時間表現を自分でまとめる。
	第 17 回	内容	文法：文型と前置詞 (文型と位置や移動を表す前置詞)	予習	これまでの空間関係の前置詞をまとめる。
				復習	学んだ文型の具体例を書き出して整理する。
	第 18 回	内容	Unit 7 I Feel Healthy Already! (時と場所を表す前置詞)	予習	テキストＵ７の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	Ｕ７の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 19 回	内容	文法：一般動詞の過去形(肯定文) (規則動詞と不規則動詞)	予習	プリント９の説明部分を読み、例文を訳す。
				復習	リストにある不規則動詞の過去形を覚える。
	第 20 回	内容	文法：一般動詞の過去形(疑問文・否定文) (Did … と didn't の使い方)	予習	プリント 10 の説明部分を読み、例文を訳す。
				復習	プリント 10 の練習問題の訳をノートに書く。

	第 21 回	内容	Unit 5　What's Wrong with Hitomi? (一般動詞の過去形)	予習	テキストＵ５の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	Ｕ５の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 22 回	内容	Unit 11　Hitomi Wants a New Look (接続詞)	予習	テキストU11 の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	U11 の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 23 回	内容	文法：Wh 疑問文 (疑問詞が主語の場合とそれ以外の場合の Wh 疑問文)	予習	知っている疑問詞をまとめる。
				復習	出てきた疑問詞を整理し、例文を作る。
	第 24 回	内容	Unit 13　I'm Meeting a Friend (疑問詞)	予習	テキストU13 の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	U13 の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 25 回	内容	文法：現在進行形 (現在時の動作の進行を表す表現)	予習	プリント 11 の説明を読む
				復習	プリント 11 の練習問題の訳をノートに書く。
	第 26 回	内容	文法：現在進行形と現在形 (現在進行形と現在形の違い)	予習	プリント 12 の説明部分の例文を訳す。
				復習	現在進行形と現在形の違いについてまとめる。
	第 27 回	内容	文法：過去進行形 (過去のある時点の動作の進行を表す表現)	予習	プリント 13 の説明部分を読む。
				復習	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。
	第 28 回	内容	Unit 6　It Won't Hurt (進行形)	予習	テキストＵ６の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	Ｕ６の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 29 回	内容	Unit 8　Small Talk (未来形)	予習	テキストＵ８の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	これまでの語彙と構文を整理して総復習する。
	第 30 回	内容	まとめ：一般動詞の過去形、現在・過去進行形など。 (文法問題の練習と英作文)	予習	これまでの構文を整理し、疑問点をまとめる。
				復習	試験に出る英作文を覚える。
	予習に要する学習時間：概ね１５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。				
課題へのフィードバック	試験は、試験後に解答についての解説をし、達成度に関するコメントを加えます。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○ ）する／（　 ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（９０％)、授業態度【積極的な参加や真摯な学習態度】(１０％)				
教科書	*English Aid*　(Robert Hickling・臼倉美里、金星堂)				
参考文献					
補足事項	初回の授業でテキストの音声のダウンロードの仕方を説明しますので、教科書を持参してください。				

科　目　名	英　語	単 位 数	2	授業時間数	６０	担当教員	まつき　ひさこ 松木　久子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	ENL11101	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	保育の現場で必要とされるであろう実践的な英語力の基礎を養うことを目的とし、英語の基礎学力と基本的な英語のコミュニケーション能力を身に付けられるように指導します。さらに、英語の歌や絵本の読み聞かせができることや、季節のイベントを英語で説明できるようになるような力をも養うことを目標とします。
到達目標	１．　保育現場で必要とされる英語の基本的な語彙を理解している。 ２．　英語の基本的な文法を理解した上で、簡単な英語の会話ができる。 ３．　英語の基礎学力（読む・書く・聞く・話す）が身に付いている。
学位授与方針	幼児教育学科（　２・４・５　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項	予習	シラバスをよく読んでおく
			復習	１年間の授業の流れを確認していく
第２回	内容	挨拶・自己紹介	予習	挨拶・自己紹介について調べまとめておく
			復習	授業内容をまとめておく
第３回	内容	幼稚園や保育所（園）についての英語の単語を理解する	予習	就学前教育に関する単語を調べておく
			復習	理解できる・できない単語を明確にしておく
第４回	内容	子どもの遊び・遊具・玩具に関する英単語	予習	遊び遊具・玩具に関する単語を調べておく
			復習	理解できる・できない単語を明確にしておく
第５回	内容	リスニング：世界のおとぎ話（裸の王様・北風と太陽）	予習	日本語で２つの話を読んで、内容を確認する
			復習	聞き取れる・取れないは所を明確にしておく
第６回	内容	時間・季節・天候についての英単語	予習	時間・季節・天候についての単語を調べる
			復習	理解できない単語をまとめておく
第７回	内容	顔や体の部位そしてけがや病気などの英単語	予習	事前に単語を調べてまとめておく
			復習	理解できない単語を明確にしておく
第８回	内容	ＤＶＤ鑑賞：日本の昔話（桃太郎等）	予習	日本語で昔話を読んで、内容を確認しておく
			復習	保育現場で活用できるフレーズなどをまとめる
第９回	内容	自分の家族や友人について英語で語る	予習	自分の家族や友人について英語でまとめておく
			復習	英語で述べられるように練習する
第 10 回	内容	動物やペットについての英単語	予習	動物やペットに関する単語を調べておく
			復習	理解できる・できない単語を明確にしておく
第 11 回	内容	リスニング：グリム童話（赤ずきん・シンデレラ）	予習	日本語で２つの話を読んで、内容を確認する
			復習	聞き取れる・取れない個所を明確にしておく
第 12 回	内容	衣服・食べ物についての英単語	予習	衣服・食べ物についての単語を調べておく
			復習	理解できない単語をまとめる
第 13 回	内容	色・形・数字についての英単語	予習	色・形・数字についての単語を調べておく
			復習	理解できない単語をまとめる
第 14 回	内容	ＤＶＤ鑑賞：日本の昔話（一休さん等）	予習	日本語で昔話を読んで、内容を確認しておく
			復習	保育現場で活用できるフレーズなどをまとめる
第 15 回	内容	前期授業全体のまとめ（文法問題の練習と英作文）	予習	理解できない単語や表現についてまとめておく
			復習	自分の弱点について明確にしてまとめておく
第 16 回	内容	幼児向け DVD・音楽を鑑賞する（１）	予習	地域性とシーンの関係性を調べる
			復習	保育現場で活用できるフレーズなどをまとめる
第 17 回	内容	規則動詞と不規則動詞	予習	保育現場で必要となる単語を調べまとめておく
			復習	理解できない単語についてまとめる
第 18 回	内容	可算名詞と不可算名詞	予習	保育現場で必要な名詞について調べまとめる
			復習	理解できない単語についてまとめる
第 19 回	内容	保護者に用意してもらう所持品について学ぶ	予習	所持品について調べてまとめておく
			復習	理解できない単語についてまとめる
第 20 回	内容	リスニング：アンデルセン童話（おやゆび姫・人魚姫）	予習	日本語で２つの話を読んで、内容を確認する
			復習	聞き取れる・取れない個所を明確にしておく

	第 21 回	内容	登園・降園に関する英語表現	予習	
				予習	登園・降園に関する単語を調べてまとめておく
				復習	理解できない単語についてまとめる
	第 22 回	内容	保育者の仕事に関する英語表現	予習	保育者の仕事について英語で書き出しておく
				復習	理解できない表現についてまとめておく
	第 23 回	内容	食べ物に関する英語表現	予習	保育現場における食べ物について調べておく
				復習	理解できない単語についてまとめる
	第 24 回	内容	リスニング：イソップ物語（アリとキリギリス・狼少年）	予習	日本語で２つの話を読んで、内容を確認する
				復習	聞き取れる・取れない個所を明確にしておく
	第 25 回	内容	園への道順・案内や周辺に関する英語表現	予習	道順・案内についての表現について調べておく
				復習	理解できない表現についてまとめておく
	第 26 回	内容	遠足や園外活動に関する英語表現	予習	交通手段についての単語を調べておく
				復習	理解できない表現についてまとめておく
	第 27 回	内容	ネイティブの先生との打ち合わせに挑戦してみる	予習	必要とされる英語表現について調べておく
				復習	理解できない表現についてまとめておく
	第 28 回	内容	幼児向け DVD：音楽を鑑賞する（２）	予習	地域性とシーンとの関係性を調べる
				復習	保育現場で活用できるフレーズなどをまとめる
	第 29 回	内容	【発表】自分自身について英語で語ってみよう	予習	発表内容を英語でまとめておく
				復習	他の人の内容も踏まえてまとめ直しておく
	第 30 回	内容	全体のまとめ	予習	理解できなかった事柄をまとめておく
				復習	保育現場で活用できることをまとめる
	予習に要する学習時間：概ね６０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね６０分を目安とする。				
課題へのフィードバック	小テストを数回にわたって実施し、解答についての解説を行い理解度について把握していきたいと思います。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　50　%)、課題・発表（　30　%)、授業態度【発言の頻度等】(　20　%)				
教科書	特に指定はしません。 授業中に必要に応じて、資料を配布します。				
参考文献	授業中に必要に応じて、紹介していこうと思います。				
注意事項	わからない・知らない単語は貪欲に辞書を引いて調べてほしいと思います。英語は便利な外国語であることを理解してください。				

科　目　名	表現とアート	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	おぐち　しおざき　はせがわ 小口・塩崎・長谷川
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	ARE11101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	領域「表現」に関する、乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや音環境、造形表現の効果的な使い方について学ぶ。また、総合的な表現をグループで検討・実践することで、保育者として必要な知識・技能やコミュニケーション力を高め、豊かな感性と表現力を身に付ける。さらに ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。
到達目標	1. 見る・聴く・動く・作るなどの様々な表現を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができている。 2. 生活の中での出来事を、様々な素材を生かして表現することができる。 3. それぞれの表出・表現を受け止め、表現する過程を工夫し、より楽しめるよう発展させることができている。 4. 他者を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　２・５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション：総合的な表現について理解する。	予習	領域「表現」のねらいの箇所を読んでくる
			復習	本時の内容についてノートにまとめる
第２回	内容	発表の方法を理解し、グループの意見を集約して共通テーマに沿った構成を考える。	予習	テーマに沿った構成を自分なりに考えてくる
			復習	テーマに沿った歌や動き、造形についてまとめる。
第３回	内容	テーマに合った表現を考えグループごとに発表内容を構成用紙に iPad へ入力する。	予習	テーマにあった表現方法を考える。
			復習	iPad で入力した授業内の話し合いを確認しながら、発表内容の概要をまとめる
第４回	内容	テーマにあった動きを考え、グループ創作する。創作した作品を動画で撮影し、振り返りに活用する。	予習	テーマに合わせた身体表現の題材について考えてくる
			復習	本時の活動を動画にまとめる
第５回	内容	音や音楽の表現の効果について理解し、グループごとに計画をする。	予習	第１回の授業を確認しておく
			復習	本時の内容についてノートにまとめ、音楽を扱うことを理解する
第６回	内容	大道具、小道具などについての視覚的表現効果について理解し、グループごとに計画をする。	予習	造形物制作の道具、材料について調べ理解しておく
			復習	発表内容に合わせた制作分担について共有しておく
第７回	内容	発表内容に合わせ、身体表現や音楽表現、造形表現を工夫し、全体の流れを動画や画像で記録する（ICT の活用）。	予習	発表内容の概要をふまえ、身体表現や音楽、造形表現の案を考えたり、関連する楽曲を調べたりする
			復習	動画を確認し、身体表現や音楽表現の方法をノートにまとめ、動画を活用しながら練習する（ICT の活用）
第８回	内容	リハーサル（第１回）	予習	発表の内容を確認し、練習する
			復習	各自で振り返り、修正箇所を考える
第９回	内容	リハーサル（第１回）をふまえ、表現内容の修正点などについて検討する。道具などの作成を進める。	予習	発表の修正箇所をまとめる
			復習	検討した内容をノートにまとめる
第 10 回	内容	表現の再検討をふまえ、発表内容をブラッシュアップして最終案を検討する。	予習	練習のスケジュールを考える
			復習	本時の動画等を活用しながら練習する（ICT の活用）
第 11 回	内容	リハーサル（第２回）	予習	前時までの内容を確認し、発表の進行について理解を深める
			復習	表現内容の修正点とその理由をノートにまとめる
第 12 回	内容	発表会の準備：発表会の運営について理解し、計画する。	予習	前時までの授業内容を確認し、表現内容の修正案を考える
			復習	本時の動画等を活用しながら練習する（ICT の活用）
第 13 回	内容	発表会	予習	最終案を確認し、自分の役割を覚える
			復習	発表の振り返りをふまえ、総合的な表現の要点をノートにまとめる
第 14 回	内容	振り返り：発表会を振り返り、グループディスカッションをする。	予習	前時までのノートを確認し、総合的な表現についてまとめておく
			復習	グループ討議をふまえ、総合的な表現の意義について、ノートにまとめる
第 15 回	内容	まとめ：発表作品を動画にまとめる（グループ活動）	予習	発表作品を動画にまとめる素材を考える
			復習	各グループの動画作品を見て感想を記入する

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	学生の振り返りにコメントをする。 作品について、指導、講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　%）、レポート・課題（30%）、作品・発表（　30%）、実技（　20%）、授業態度【積極的参加】(20%)
教科書	『遊んで育て！表現の力―保育で使える活動例と指導法』(塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎)

参考文献	
補足事項	活動しやすい服装で参加してください。 人数を 50 名定員とします。超えた場合は、抽選などで調整をする場合があります。 塩崎（15 回）、小口（15 回）、長谷川（15 回）

科目名	データサイエンス	単位数	2	授業時間数	３０	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	STS11101	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面 ・（遠隔）・ その他（ ）
授業の内容	本授業では、教科書を通してデータサイエンスの基本を学習するとともに、パソコンの表計算ソフトウェアを使用して実在データ（学外事業体が公開提供している集計データなど）の数値処理業務の一端を模擬的に体験し、情報リテラシー（情報倫理や情報セキュリティなどを前提とする、業務上の判断能力）の在りかたを具体的に考察する。 この授業は各年度一年生（学科不問）向けの選択科目として開講されるが、在学生（二年生以上／学科不問）も履修することができる。
到達目標	１． テキスト読解やデータ処理演習を通して、データが内包する様々な情報の意味を理解している。 ２． パソコンを積極的に活用する作業について、その利便性や問題点を理解している。 ３． 今後の社会に必要とされる基本的な数理的思考や、データの分析・活用ができる。
学位授与方針	幼児教育学科（ 3,4,5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画

第１回	内容	ガイダンス：ようこそデータサイエンスへ	予習	シラバスを読み、授業全体の流れを把握する。
			復習	教科書第１章の内容を再度精読して理解し、授業全体の学習に向けた心構えを行う。
第２回	内容	ＡＩにサポートされる社会	予習	教科書第２章を通読する。
			復習	教科書第２章の内容を再度精読し理解する。
第３回	内容	情報をめぐる世の中の潮流	予習	教科書第３章を通読する。
			復習	教科書第３章の内容を再度精読し理解する。
第４回	内容	広がるデータ活用の幅	予習	教科書第４章を通読する。
			復習	教科書第４章の内容を再度精読し理解する。
第５回	内容	ＡＩ開発の歴史といま	予習	教科書第５章を通読する。
			復習	教科書第５章の内容を再度精読し理解する。
第６回	内容	情報倫理とセキュリティ	予習	教科書第６章を通読する。
			復習	教科書第６章の内容を再度精読し理解する。
第７回	内容	データの種類とその活用	予習	教科書第７章を通読する。
			復習	教科書第７章の内容を再度精読し理解する。
第８回	内容	データリテラシー （パソコンを用いた数値処理演習①）	予習	教科書第８章を通読する。
			復習	教科書第８章の内容を再度精読し理解する。
第９回	内容	データの収集と視覚化 （パソコンを用いた数値処理演習②）	予習	教科書第９章を通読する。
			復習	教科書第９章の内容を再度精読し理解する。
第 10 回	内容	データの解析方法 （パソコンを用いた数値処理演習③）	予習	教科書第 10 章を通読する。
			復習	教科書第 10 章の内容を再度精読し理解する。
第 11 回	内容	情報の利活用と方法	予習	教科書第 11 章を通読する。
			復習	教科書第 11 章の内容を再度精読し理解する。
第 12 回	内容	ＡＩによる生活のアップデート	予習	教科書第 12 章を通読する。
			復習	教科書第 12 章の内容を再度精読し理解する。
第 13 回	内容	ＡＩによる社会のアップデート	予習	教科書第 13 章を通読する。
			復習	教科書第 13 章の内容を再度精読し理解する。
第 14 回	内容	秩序あるデータの重要性	予習	教科書第 14 章を通読する。
			復習	教科書第 14 章の内容を再度精読し理解する。
第 15 回	内容	全体のまとめ：これからの学びに向けて	予習	教科書第 15 章を通読する。
			復習	教科書第 15 章の内容を再度精読して理解し、情報リテラシーに関する今後の学びに備える。

予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業開講期間中、授業内容に関するリアクションペーパーを作成し提出する。 授業開講期間中、実在の集計データに対する統計処理を行い、その処理結果から得られる解釈・考察の内容をレポート化する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート・課題（75%）、授業態度【積極的参加】(25%)
教科書	『大学基礎 データサイエンス』(伊藤 大河ほか、実教出版株式会社)
参考文献	『やさしく学ぶ データ分析に必要な統計の教科書』(羽山 博、株式会社インプレス刊)
補足事項	１． この授業は新入生向けの授業であるが、履修計画に余裕のある在学生も受講することができる（実習期間中の授業の開講については、別途指示する）。 ２． 本授業で取り上げる数値処理演習では、Microsoft Excel の標準搭載機能を利用する。 ３． 上記「授業計画」の内容は、授業の実際の進行具合などに応じて、適宜変更されることがある。 ４． 担当教員の業務都合などの理由により授業の開講日時が変更される場合、教務課掲示板等にて通知する。

科　目　名	ＳＤＧｓ入門	単 位 数	２	授業時間数	３０	担当教員	ほしの　おさむ 星野　治 他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SES11101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	この授業は、所属学科を問わず、誰でも履修することができる。 SDGs（Sustainable Development Goals／日本語訳「持続可能な開発目標」）の具体的な内容の学習を通して、日本および世界の現状を知るとともに、社会の一員としての自己啓発意識を育てる。この授業では全 17 個ある目標のうち、特に本学の学生に必要な 14 個の目標について学ぶ。
到達目標	１．　SDGs の提唱意義および内容を理解している。 ２．　SDGs への理解を通して、日本および世界の現状を見抜く洞察力を習得している。 ３．　SDGs の学習を通して、社会人としての自覚を持ち、社会への貢献に係る考察力を身に付けている。
学位授与方針	幼児教育学科（　3,4,5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	総論（授業の進め方、MDGs から SDG へ、SDGs 制定の歴史的背景、MDGs と SDGs の相違、その他）［北野・星野］	予習	シラバスに目を通しておく。
			復習	授業の目的を理解する。
第２回	内容	目標１：あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる［加賀谷］	予習	SDGs の「目標１」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第３回	内容	目標２：飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する［橋本］	予習	SDGs の「目標２」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第４回	内容	目標３：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する［関］	予習	SDGs の「目標３」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第５回	内容	目標４：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する［伊澤］	予習	SDGs の「目標４」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第６回	内容	目標５：ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る［信田］	予習	SDGs の「目標５」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第７回	内容	目標６：すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する［北野］	予習	SDGs の「目標６」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第８回	内容	目標７：すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する［北野］	予習	SDGs の「目標７」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第９回	内容	目標８：すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する［信田］	予習	SDGs の「目標８」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第 10 回	内容	目標 11：都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする［河崎］	予習	SDGs の「目標 11」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第 11 回	内容	目標 12：持続可能な消費と生産のパターンを確保する［北野］	予習	SDGs の「目標 12」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第 12 回	内容	目標 13：気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る［北野］	予習	SDGs の「目標 13」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第 13 回	内容	目標 14：海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する［中村］	予習	SDGs の「目標 14」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第 14 回	内容	目標 15：陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物の多様性損失の阻止を図る［中村］	予習	SDGs の「目標 15」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第 15 回	内容	目標 16：持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある法相的な制度を構築する［鈴木］ 総括（全体のまとめ、その他）［北野・星野］	予習	SDGs の「目標 16」について概要を把握する。
			復習	これまでの全配布資料などを通して授業全体を理解するとともに、今後の履修者自身の SDGs への貢献について考察する。

予習に要する学習時間：概ね６０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね１２０分を目安とする。

課題へのフィードバック	毎回の授業におけるリアクションペーパー等の記述および提出（詳細は各回の担当教員が指示する）を通して、SDGs 全般への理解を深める。

成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（５０％）、授業態度【積極的参加】（５０％）
教科書	必要に応じて紹介する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
注意事項	この授業は新入生向けの授業であるが、履修計画に余裕のある在学生も受講することができる。 この授業は、複数の教員が共同担当するオムニバス形式の対面授業である。取り扱うテーマごとに、担当教員は異なる。 2024（令和６）年度開講分の担当教員[授業担当コマ数]は、次のとおりである（担当順。各教員の担当授業回は「授業計画」欄を参照）。 北野大[6]、加賀谷崇文[1]、橋本洋子[1]、関維子[1]、伊澤永修[1]、信田理奈[2]、河崎由美子[1]、中村陽一[2]、鈴木みなみ[1] 、星野治[2] 教員によっては、リアクションペーパーとは別に、追加の課題を出題することがある（詳細は、各授業の担当教員の指示に従うこと）。

科　目　名	保育原理Ⅰ	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	こやま　れいこ 小山　玲子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	「保育とは何か」といった疑問から、保育の歴史・制度・保育内容などの知識を習得し、その中で保育の意義、原理、原則を理解していく。また、保育所の社会的役割、保育ニーズ、健やかな子どもの成長を育む保育について検討する。保育所実習につながるよう考える・話し合う・調べる・演じる・発表する等、受講生の能動的な取組みを取り入れた授業を行う。
到達目標	１．保育の意義及び目的、保育に関わる法令や制度を理解している。 ２．保育所保育指針における保育の基本を説明できる。 ３．他者と対話を重ねながら主体的に学ぶ方法を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（１．２．３．５）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	保育の意味と意義	予習	シラバス及び教科書の目次を読む
			復習	配布プリントの課題を行う
第２回	内容	子どもを取り巻く環境の変化とは　グループ討議	予習	教科書第２章を通読する
			復習	子どもにとっての環境を考える
第３回	内容	西洋の保育の歴史と思想①	予習	フレーベルについて調べる
			復習	保育の思想と理論をまとめる
第４回	内容	西洋の保育の歴史と思想②	予習	モンテッソーリについて調べる
			復習	保育の思想と理論をまとめる
第５回	内容	西洋の保育の歴史と思想③　日本の保育の歴史と思想①	予習	レッジョ・エミリア市の保育について調べる
			復習	プロジェクト活動とは何かをまとめる
第６回	内容	日本の保育の歴史と思想②　　ミニテスト①(西洋の歴史)	予習	倉橋惣三について調べる
			復習	日本の保育の歴史をまとめる
第７回	内容	ミニテスト②(日本の歴史)　保育環境とは	予習	第 3～6 回の授業の復習を行う
			復習	ミニテストの振り返りを行う
第８回	内容	環境構成の意義	予習	保育所保育指針・幼稚園教育要領における環境の捉え方を調べる
			復習	物的環境に込められた保育者の願い、人的環境としての保育者、環境構成をまとめる
第９回	内容	保育における「子ども理解」	予習	保育指針における発達の捉え方を理解する
			復習	子どもの発達と関わり方を理解する
第 10 回	内容	保育の内容、保育の方法・形態	予習	保育内容・方法・形態について調べる
			復習	配布プリントを読み直し復習をする
第 11 回	内容	保育園における二つの子育て支援	予習	子ども・子育て支援制度について調べる
			復習	配布プリントに要点をまとめる
第 12 回	内容	保育の現状と課題　グループワーク	予習	保育の現状と課題について調べる
			復習	グループワークのまとめを行う
第 13 回	内容	保育者の専門性	予習	教科書第１３章保育者の専門性を通読する
			復習	保育者の専門性を理解する
第 14 回	内容	諸外国の保育の現状と課題　グループワーク	予習	興味のある国の保育について調べる
			復習	諸外国の保育の現状と課題をまとめる
第 15 回	内容	保育原理での学びを振り返る　確認テスト	予習	全配布プリントをまとめ、読み込む
			復習	第 1～15 回の授業で学んだことを整理する

予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題や発表に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験…ミニテスト・確認テスト（ 50%）、レポート・課題（ 20%）、授業態度【積極的参加】（ 30%）
教科書	『最新　保育原理』(上中修編著、教育情報出版)　『保育所保育指針』(厚生労働省、フレーベル館)
参考文献	『幼稚園教育要領』(文部科学省、フレーベル館)
補足事項	保育園勤務保育士・園長によるゲスト講義を行う。(予定)

科　目　名	保育原理Ⅱ	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	こやま　れいこ 小山　玲子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12102	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	保育所保育指針や子ども子育て支援新制度等の成立過程や実際の運営状況を通じて、保育の原理や制度、現在の課題を深く理解する。 保育の質の向上、保育者の専門性を高める意義を学び、実践につながるようグループ討議・グループワークを行う等、受講生の能動的な取り組みを取り入れた授業を行う。保育学の論文を読むことで、保育の理論や研究方法を学ぶ。
到達目標	１．　保育所保育指針や子ども子育て支援制度の背景と課題を説明できる。 ２．　保育学の論文の読み方や作り方を理解している。 ３．　保育の現状と課題について説明できる。
学位授与方針	幼児教育学科（１・２・３・４・５）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション　　グループ討議 保育で大切なこととは何かを考える	予習	シラバス及び教科書の目次を読む
			復習	保育原理Ⅱを学ぶ理由を配布プリントに記入
第２回	内容	保育園と幼稚園の違い 保育環境と保育方法	予習	テキスト第５・６章の通読
			復習	配布プリントの課題を行う
第３回	内容	絵本・紙芝居の活用	予習	授業で紹介する絵本・紙芝居を選び読む練習を行う
			復習	配布プリントにまとめを記入する
第４回	内容	保育の現状と課題①　調査学習	予習	自分の発表テーマを考える
			復習	パワーポイント作成
第５回	内容	保育の現状と課題②　調査学習　グループワーク	予習	パワーポイント作成
			復習	パワーポイント発表の準備を行う
第６回	内容	保育の現状と課題③　発表　グループワーク	予習	パワーポイント発表の準備を行う
			復習	保育原理Ⅱで学んだことをまとめる
第７回	内容	安全に関する配慮①	予習	子どもの安全等について調べる
			復習	配布プリントの課題を行う
第８回	内容	安全に関する配慮②　グループワーク	予習	子どもの安全等について調べる
			復習	配布プリントの課題を行う
第９回	内容	子ども・子育て支援制度、保育所保育指針の概要①	予習	保育所保育指針の第１・４章の通読
			復習	保育所保育の特徴と子育て支援をまとめる
第 10 回	内容	保護者対応・連絡帳	予習	テキスト第２章・第９章３節の通読
			復習	配布プリントの課題を行う
第 11 回	内容	食育・アレルギー対応、他職種との連携 保育所保育指針の概要②	予習	保育所保育指針の第３章の通読
			復習	配布プリントの課題を行う
第 12 回	内容	子どもの主体性を大切にした保育	予習	保育所保育指針の第２章の通読
			復習	配布プリントにまとめを記入する
第 13 回	内容	クラス便りの概要・活用方法・作成	予習	保育所で活用している事例を調べる
			復習	クラス便りを作成する
第 14 回	内容	クラス便りの発表　グループワーク	予習	クラス便りの作成・発表準備
			復習	クラス便りの完成(次回の授業提出)
第 15 回	内容	保育の専門性と質の向上　確認テスト	予習	保育指針第７章、配布プリントの通読
			復習	保育の質の向上に向けた取組についてまとめる

予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題や発表に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：レポート・課題（ 40%)、作品・発表（ 30%)、授業態度【 積極的参加　】(30%)
教科書	『最新　保育原理』(上中修編著、教育情報出版)　『保育所保育指針』(厚生労働省、フレーベル館)
参考文献	『幼稚園教育要領』(文部科学省、フレーベル館)
補足事項	保育学をより深く学びたい学生を対象とする。　外部講師(おもちゃアドバイザー・保育者)のゲスト講演を行う。(予定)

科　目　名	教育原理	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	まつき　ひさこ 松木　久子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12103	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	なぜ人間にとって教育が必要なのかという問題を中心として、教育を受けることや学校に通えるということを当たり前のことと考えずに、改めて教育や学校について考えるための基礎的な課題を提供します。また、就学前教育が成立してきた歴史を振り返りながら、今後の将来的な展望や自分なりの教育観や保育観を形成していくために必要と思われる事柄についても提供していきます。
到達目標	１．　なぜそもそも人間にとって教育が必要なのか、が理解でき説明できる。 ２．　教育や学校の可能性や限界について理解でき説明できる。 ３．　自分なりの教育観や保育観について、説明することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　１・３・４　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項について	予習	教育や学校について自分の考えをまとめておく
			復習	必要事項について説明できる
第２回	内容	教育原理を学ぶこととは	予習	教科書の指定個所を熟読しておく
			復習	理解したことについてまとめる
第３回	内容	生涯教育と生涯学習について	予習	教科書の該当箇所を読んでまとめる
			復習	さらに自分で詳しく調べてみる
第４回	内容	教育の可能性と限界について	予習	教科書の指定個所を熟読しておく
			復習	理解したことについてまとめる
第５回	内容	教育の語義と意義	予習	教科書の該当箇所をよく読んでまとめておく
			復習	自分で興味をもったことをさらに調べる
第６回	内容	学校の誕生とその歩み	予習	自分の学校体験についてまとめておく
			復習	理想の学校のあり方について考えまとめる
第７回	内容	世界の子どもたちの環境を知る（1）	予習	該当する国々の特徴を調べまとめておく
			復習	理解したことを詳しくまとめる
第８回	内容	世界の子どもたちの環境を知る（2）	予習	該当する国々の文化的背景について調べておく
			復習	さらに興味をもったことについてまとめておく
第９回	内容	近代学校の成立とその性格	予習	近代という時代について調べまとめておく
			復習	義務教育の意義についてまとめる
第 10 回	内容	戦争と教育について考える（1）	予習	第二次世界大戦について調べまとめておく
			復習	新たに理解したことについてまとめる
第 11 回	内容	戦争と教育について考える（2）	予習	戦争に翻弄される人間についてまとめておく
			復習	理解したことについてさらに調べまとめる
第 12 回	内容	世界や日本の教育思想について知る	予習	教育思想について調べてまとめておく
			復習	自分の興味のある教育思想家について調べる
第 13 回	内容	世界や日本の教育制度について考える	予習	日本の教育制度について調べてまとめておく
			復習	世界と日本の教育制度についてまとめる
第 14 回	内容	幼児教育制度の成立と発展について学ぶ	予習	幼稚園や保育所の歴史について調べておく
			復習	理解したことをまとめておく
第 15 回	内容	まとめ	予習	教育や学校について全体を通してまとめる
			復習	さらに興味のあることについて調べまとめる

予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	数回にわたって小エッセイを課し、小テストや中間テストを実施し、学生の理解度を把握する
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　50　%)、レポート・課題（　30　%)、授業態度【発言などの頻度等】（　20　%）
教科書	『教育原理』(林邦雄・谷田貝公昭［監修］、大沢裕［編著］、一藝社)
参考文献	必要に応じて授業中に適宜、紹介していきます。
補足事項	自分で主体的に課題を発見し、いろいろなことについて調べ、日頃から手書きで文章を書くことに慣れていってほしいと思います。

科　目　名	子ども家庭福祉	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	子ども家庭福祉の歴史的変遷と現代社会における子ども家庭福祉の意義を理解する。そのうえで、子どもと家庭に関する福祉の制度や実施体系など具体的なことを学ぶ。 また、少子化・母子保健・児童虐待・社会的養護・障がいのある児童の対応などをはじめとする子ども家庭福祉の現状と課題について理解し、特に子ども家庭福祉と保育の関連性や子どもの権利擁護などについて理解を深める。
到達目標	１．子どもや家庭に関する法や施設など基本的なことが理解できる。 ２．子どもをとりまく問題についての理解を深めたうえで、それらの早期発見の方法や解決への道筋を知ることができる。 ３．子どもの権利擁護について理解できる。
学位授与方針	幼児教育学科（　2．5　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）	予習	シラバスを読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解し、持ち物を確認する
第２回	内容	子ども家庭福祉に関する法律①（児童福祉法の概要）	予習	児童福祉法のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	児童福祉法についてのおおまかな理解をする。
第３回	内容	子ども家庭福祉に関する法律②（児童福祉法の具体的内容）	予習	児童福祉法のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	児童福祉法の具体的な内容を理解する
第４回	内容	子どもに関する権利思想の流れ	予習	子どもの権利についてのプリントの穴埋めを完成させる
			復習	子どもの権利思想の流れを理解する
第５回	内容	子ども家庭福祉の歴史①（明治期）	予習	子ども家庭福祉の歴史のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	明治期における子ども家庭福祉の歴史を理解する
第６回	内容	子ども家庭福祉の歴史②（明治期から戦前）	予習	子ども家庭福祉の歴史のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	明治期から戦前にかけての子ども家庭福祉の歴史を理解する
第７回	内容	ＶＴＲ（澤田美喜物語・・・福祉施設創設者の物語）課題感想文	予習	今まで習った子ども家庭福祉に関する法や歴史を概観する
			復習	課題：感想文を書く
第８回	内容	福祉専門職としての保育士	予習	福祉専門職としての保育士のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	児童福祉法等に明記されている保育士について理解する
第９回	内容	児童福祉施設及び里親の概要①（施設の種類）	予習	児童福祉施設のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	児童福祉施設の種類を覚える
第 10 回	内容	児童福祉施設及び里親の概要②（施設の目的）	予習	児童福祉施設のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	児童福祉施設や里親の目的を理解する
第 11 回	内容	子ども家庭福祉の行政機関（児童相談所を中心に）	予習	児童相談所の業務や相談内容についての穴埋めプリントを完成させる
			復習	児童相談所の業務や相談内容について理解する
第 12 回	内容	児童虐待①（児童虐待の種類、法制度）	予習	児童虐待の種類。法制度の穴埋めプリントを完成させる
			復習	児童虐待の種類や法制度を理解する
第 13 回	内容	児童虐待②（児童虐待の実際）	予習	児童虐待の実際についての穴埋めプリントを完成させる
			復習	児童虐待の実際についてまとめる
第 14 回	内容	小テスト、ＶＴＲ（子どもの貧困）	予習	小テストに向けての学習
			復習	小テストで出題された個所の確認
第 15 回	内容	小テスト返却、解説、まとめ	予習	ＶＴＲの感想文を書く
			復習	子ども家庭福祉とはなにかをまとめる

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	小テストの解説と返却、レポートの返却を行います
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（55%）、レポート・課題（35%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加】（　10%）

教科書	『新 保育ライブラリ 子ども家庭福祉』（植木信一編著、北大路書房） 『福祉・保育小六法 2024 年版』（みらい）
参考文献	
補足事項	普段から新聞・ニュースその他のメディアを通して子ども家庭福祉の問題や課題について関心をもつこと。 教員が作成したプリントを整理するためのファイルを用意しておくこと

科　目　名	社会福祉	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12102	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	この授業では、福祉専門職である保育士が学ぶべき社会福祉の基礎的な知識を習得することをねらいとする。子どもの福祉のみならず、現代社会のニーズに即したあらゆる人々のウェルビーイング（福祉）をいかに実現させるかという視点に立ち広い視野で社会福祉について学ぶ。
到達目標	１．保育と社会福祉の関係を理解している。 ２．わが国の社会福祉の制度を理解している。 ３．現代の社会問題を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1，3　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第１回	内容	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）	予習	シラバスを読んでおく
				復習	この科目で習得すべき内容を理解し、持ち物を確認する
	第２回	内容	保育と社会福祉（私たちが暮らす社会と保育をめぐる社会問題	予習	社会問題、社会構造のプリントの穴埋めを完成させる
				復習	社会問題、社会構造について理解をする。
	第３回	内容	社会福祉の概念①（社会福祉の意味、定義）	予習	社会福祉の意味、定義のプリントの穴埋めを完成させる
				復習	社会福祉意味や定義を理解する
	第４回	内容	社会福祉の概念②（社会福祉の理念、社会福祉の構造等）	予習	社会福祉の理念、構造のプリントの穴埋めを完成させる
				復習	社会福祉の理念等についての理解を深める
	第５回	内容	社会保障の概念と体系（我が国における社会保障の概念）	予習	社会保障のプリントの穴埋めを完成させる
				復習	社会保障の概念をしっかりと理解する
	第６回	内容	社会保険①（社会保険制度の概要）	予習	社会保険制度のプリントの穴埋めを完成させる
				復習	社会保障制度についての全体像を理解する
	第７回	内容	社会保険②（医療保険、年金保険、介護保険、労働保険）	予習	社会保険のプリントの穴埋めを完成させる
				復習	具体的な社会保険の種類や性格を理解する
	第８回	内容	公的扶助①（公的扶助の概要、公的扶助と社会保険の違い）	予習	公的扶助のプリントの穴埋めを完成させる
				復習	公的扶助の概要の理解及び前回の社会保険との違いを明確にする
	第９回	内容	公的扶助②（生活保護の原理と原則、保護施設、その他の低所得者施策）	予習	公的扶助のプリントの穴埋めを完成させる
				復習	公的扶助について具体的に理解する
	第 10 回	内容	高齢者福祉	予習	高齢者福祉のプリントの穴埋めを完成させる 中間レポート提出準備
				復習	高齢者福祉施策を理解する
	第 11 回	内容	障がい者福祉	予習	障がい者福祉のプリントの穴埋めを完成させる
				復習	障がい者福祉施策を理解する
	第 12 回	内容	相談援助の意味と方法①（保育士に求められるソーシャルワーク、ソーシャルワークの意味と原則、）	予習	相談の意味と方法についての穴埋めプリントを完成させる
				復習	相談援助を理解する
	第 13 回	内容	相談援助の意味と方法②（ソーシャルワークの視点、ソーシャルワークに貢献した人）	予習	ソーシャルワークに関する穴埋めプリントを完成させる
				復習	ソーシャルワークについて理解する
	第 14 回	内容	小テスト、ＶＴＲ（諸外国の福祉）、感想文	予習	小テストに向けての学習
				復習	小テストで出題された個所の確認
	第 15 回	内容	小テスト返却、まとめ	予習	ＶＴＲの感想文を書く
				復習	社会福祉とはなにかをまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	小テストの返却と解説、レポートの返却を行います
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　55%）、レポート・課題（35%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加】（　10%）
教科書	『みらい×子ども福祉ブックス　社会福祉』(志濃原亜美編著、みらい) 『福祉・保育小六法 2024 年）（株)みらい

参考文献	
補足事項	普段から新聞・ニュースその他のメディアを通して福祉の問題や課題について関心をもつこと。 教員が作成したプリントを整理するためのファイルを用意しておくこと

科目名	子ども家庭支援論	単位数	2	授業時間数	３０	担当教員	せき　ゆいこ 関　維子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12201	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	近年、子どもを取り巻く環境の変化に伴い、子育て家庭の課題やニーズも多様になっている。保育者には子どもの育ちと家庭における子育てを支える幅広い役割と実践力が求められている。この授業では、子どもと家庭、地域の３つの視点から子ども家庭支援の意義と役割について理解し、保育の専門性を活かした支援の方法や支援体制について具体的に学ぶ。
到達目標	１．子育て家庭に対する支援の意義と目的について説明できる。 ２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本について理解している。 ３．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　１・３　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	授業ガイダンス 子ども家庭支援の意義と目的	予習	シラバスを読む
			復習	子ども家庭支援の意義と目的についてまとめる
第２回	内容	子ども家庭支援の内容と対象	予習	「保育所保育指針」第１章を読む
			復習	子ども家庭支援の基本理念についてまとめる
第３回	内容	保育の専門性を生かした子ども家庭支援	予習	「保育所保育指針解説」第４章を読む
			復習	子育て支援の保育の専門性についてまとめる
第４回	内容	子どもの育ちの喜びの共有	予習	エリクソン、ヴィゴツキーについて調べる
			復習	保護者の気づきを促すポイントをまとめる
第５回	内容	子育てを自ら実践する力の向上を図る支援	予習	「保育所保育指針解説」第４章を読む
			復習	ストレングスモデルについてまとめる
第６回	内容	保育士に求められる基本的態度① 保護者との相互理解	予習	バイステックの７原則について調べる
			復習	基本的態度について自分の考えをまとめる
第７回	内容	保育士に求められる基本的態度② 信頼関係の構築、専門職倫理	予習	保育士倫理綱領を読む
			復習	専門職倫理についての考えをまとめる
第８回	内容	家庭の状況に応じた支援	予習	「保育所保育指針解説」第４章２（２）を読む
			復習	家庭の状況に応じた配慮についてまとめる
第９回	内容	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携	予習	子育てに関する地域資源について調べる
			復習	関係機関との連携についてまとめる
第10回	内容	子育て家庭の福祉にかかわる社会資源	予習	子育て支援に関する社会資源を調べる
			復習	社会資源の分類についてまとめる
第11回	内容	子育て支援施策・次世代育成支援対策の推進	予習	認定こども園の種類について調べる
			復習	地域子ども・子育て支援事業についてまとめる
第12回	内容	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	予習	保育を必要とする状況について考える
			復習	保育を必要とする事由についてまとめる
第13回	内容	地域の子育て家庭への支援	予習	地域子育て支援拠点事業について調べる
			復習	子育てしやすい地域づくりについてまとめる
第14回	内容	要保護児童およびその家庭への支援	予習	「保育所保育指針」第４章２（３）を読む
			復習	要保護児童・要支援児童・特定妊婦についてまとめる
第15回	内容	子ども家庭支援の現状と課題 授業の振り返りとまとめ	予習	教科書や配布資料、ノートを読み返す
			復習	授業で学んだことを振り返りまとめる

予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	小テストについてはClassroomを用いてフィードバックを行う。 課題等については授業でフィードバック及び講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　小テスト（２０％）、レポート・課題（６０％）、授業態度【積極的参加】（２０％）
教科書	『子ども家庭支援論　演習ブック』(松本峰雄監修，ミネルヴァ書房)
参考文献	『保育所保育指針』(厚生労働省)『保育所保育指針解説』(厚生労働省) 『ひと目でわかる保育者のための子ども家庭福祉データブック 2024』(全国保育士養成協議会，中央法規)
補足事項	教科書は後期の「子育て支援」の授業でも使用する。

科　目　名	子ども家庭支援論	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	萬燈（まんどう）　章雄（あきお）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12201	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	対面　・（遠隔）・　その他（　　）
授業の内容	かつては支援する側（社会資源）だった「家庭」だが、現在は脆弱化した家庭・家族を包括してこどもを支援していくという考え方に変化してきた。その家庭観の変遷や支援のあり方について学習する。特に子どもにとって最も身近な存在である保育士としては、適切に養育される権利を有する子どもの目線で家庭を考えていく必要がある。後半では具体的に事例を交えて家庭へのアプローチを考察していきたい。
到達目標	1. これまでの社会状況と家庭支援のあり方の変遷について理解している。 2. 地域における関係機関の役割を含め、家庭を支援するプロセスや様々な手段、方法について理解している。 3. 「子どもの最善の利益」とは何かを知り、支援者がどのようなスタンスで望めばよいのかを習得している。
学位授与方針	幼児教育学科（ 2・3 ）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション 考えてみよう！家族のカタチ	予習	シラバスを読んでくること
			復習	家庭の定義についてまとめてみる
第２回	内容	地域社会の変容と家庭支援について 家庭機能の弱まりと家庭支援の必要性	予習	日本の高度成長期ついて調べる
			復習	「家庭機能」の変遷についてまとめてみる
第３回	内容	少子高齢化のもたらす影響について	予習	「失われた 20 年」について調べてみる
			復習	少子化のもたらす問題についてまとめる
第４回	内容	次世代育成支援施策の経緯 現在の子ども子育て支援策概要	予習	地域が行う育児相談資源について調べる
			復習	子育て支援施策の変遷についてまとめる
第５回	内容	地域の子ども子育て支援策① 保育園と幼稚園・認定こども園など	予習	「待機児童」について調べてみる
			復習	保育の変遷についてまとめてみる
第６回	内容	児童虐待問題と家庭支援 認識のない保護者とＳＯＳの出せない子ども	予習	最近の虐待事件について調べてみる
			復習	虐待相談の構造についてまとめる
第７回	内容	地域の子ども子育て支援策② 要保護児童等と家庭支援	予習	地域での虐待対応策について調べてみる
			復習	子ども子育て支援メニューをまとめてみる
第８回	内容	こども家庭支援の変遷と現在の子ども子育て支援策概要 中間まとめ 理解度チェック小テスト	予習	これまでの授業内容について見直してみる
			復習	地域子育て支援事業についてまとめてみる
第９回	内容	地域の子ども子育て支援策③と保育所と家庭支援① 保育所入所家庭への支援	予習	保育所運営指針を調べる
			復習	保育所の機能についてまとめる
第 10 回	内容	保育所と家庭支援② 保育所での地域の家庭支援	予習	こども家庭支援センターについて調べる
			復習	地域での保育所の役割についてまとめてみる
第 11 回	内容	相談援助の知識と技術（0L） 家庭支援を実践していくための専門技術概要	予習	相談の対処方法について考えてみる
			復習	相談のアプローチ方法についてまとめる
第 12 回	内容	子どもの権利擁護と家庭支援 子ども主権と家庭支援者のスタンスについて	予習	子どもの権利条約について調べる
			復習	子ども家庭支援のあり方についてまとめる
第 13 回	内容	誰のための家庭支援か 保護者対応と虐待について	予習	虐待について今一度復習する
			復習	子ども目線での対応についてまとめる
第 14 回	内容	不適切養育と地域サービスの事例 地域における家族支援の実例	予習	養育支援訪問事業について調べる
			復習	機関連携についてまとめる
第 15 回	内容	今後の家庭支援のあり方について 最終まとめ 理解度チェック小テスト	予習	これまでの内容を今一度振り返る
			復習	今後の家庭支援のあり方についてまとめる

予習に要する学習時間：概ね６０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね１２０分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポート提出と理解度チェック小テストを実施します。レポートは個々にコメントをつけて返却します。 積極的な授業への参加を評価します。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（70%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【　積極性等　】（ 30%）
教科書	なし
参考文献	子ども家庭支援論（太田光洋 編著　同文書院 2022.11.15）　他、適宜必要に応じて紹介します。
補足事項	受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。基本、プリント資料配布で授業をすすめます。

科　目　名	社会的養護Ⅰ	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12103	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	社会福祉、児童家庭福祉の中の社会的養護の位置を理解し、特に施設における日常生活援助、施設における専門職について学びを深める。また、施設保育士の専門性と特別な配慮を要する子どもや家庭への援助について学び、さらに施設の中で行われるリービングケア、アフターケアなどの現状についても学習する。
到達目標	1.　施設養護の体系や援助過程について理解できる 2.　レジデンシャル・ソーシャルワークの視点から施設保育士の専門性、特別な配慮を要する子どもへの援助や保護者への相談の在り方など理解できる 3.　子どもの権利擁護について理解し、実践で役立てることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　１，３　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）	予習	シラバスを読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解し、持ち物を確認する
第２回	内容	社会的養護の理念と意義	予習	社会的養護の理念のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	社会的養護の理念や意義についてのおおまかな理解をする。
第３回	内容	子どもの権利と社会的養護	予習	子どもの権利のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	子どもの権利の具体的な内容を理解する
第４回	内容	保育士の倫理・責務	予習	倫理・責務についてのプリントの穴埋めを完成させる
			復習	保育士の職務上の意倫理や責務について理解する
第５回	内容	社会的養護の制度と実施体系①（施設養護の制度）	予習	社会的養護の制度のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	施設養護の制度を理解する
第６回	内容	社会的養護の制度と実施体系②（移設養護の実施体系）	予習	社会的養護の実施体系のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	社会的養護の実施体系を理解する
第７回	内容	ＶＴＲ（ぶどうの木・・・里親に関する内容）課題感想文	予習	今まで習った社会的養護の学びを概観する
			復習	課題：感想文を書く
第８回	内容	施設養護にかかわる専門職士	予習	施設養護の専門職のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	施設養護の専門職について理解する
第９回	内容	施設養護の実際①（アドミッションケアとインケア）	予習	施設養護の実際のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	それぞれの用語について理解を深める
第 10 回	内容	施設養護の実際②（リーイングケアとアフターインケア）	予習	施設養護の実際のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	それぞれの用語について理解を深める
第 11 回	内容	子育て困難家庭の実際と支援	予習	子育て困難家庭と支援についての穴埋めプリントを完成させる
			復習	子育て困難家庭について知り、その支援を理解する
第 12 回	内容	DV ケースと児童虐待へのソーシャルワークいついて視点①（DV ケース）	予習	DV の種類。法制度の穴埋めプリントを完成させる
			復習	DV の種類や法制度を理解する
第 13 回	内容	DV ケースと児童虐待へのソーシャルワークいついて視点①（児童虐待ケース）	予習	児童虐待ケースについての穴埋めプリントを完成させる
			復習	児童虐待えのソーシャルワークについてまとめる
第 14 回	内容	小テスト、ＶＴＲ（施設に関するもの）	予習	小テストに向けての学習
			復習	小テストで出題された個所の確認
第 15 回	内容	小テスト返却、解説、まとめ	予習	ＶＴＲの感想文を書く
			復習	社会的養護の枠組みをまとめる

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	小テストの解説と返却、レポートの返却を行います
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（55%）、レポート・課題（　35%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加】(10　%)

教科書	『よりそい支える社会的養護Ⅰ』（監修中山正雄/編著浦雅夫、教育情報出版）
参考文献	適宜紹介する
注意事項	特別なケアを要する子どもについての書籍等を積極的に読むこと レポート課題があります。

科　目　名	社会的養護Ⅱ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12202	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	施設養護や里親など社会的養護の実際について学び、社会的養護における児童の権利擁護や保育士等社会福祉施設従事者の倫理について、また、ソーシャルワークの技術など専門的技術などを体系的に理解する。 さらに、個々に応じた支援計画の作成、記録の書き方、自己評価についても具体的に学ぶ。
到達目標	1. 今まで学んできた社会福祉関連の知識や施設実習で学んだ施設の実態などを話し合いや発表等の方法で表現できる。 2. 自ら考え、発表し、問題意識を持つことで、社会的養護に関わる人や施設利用者について総合的に考える力を身につけている。 3. 施設養護の体系や援助過程について説明できる。
学位授与方針	幼児教育学科（　1，2，3，5　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスの確認
			復習	講義概要を理解する
第２回	内容	施設実習を振り返って	予習	施設実習の振り返りをする
			復習	実習と授業を結びつける
第３回	内容	障がいを持つ人の生活実態（VTR）	予習	各種別の施設についての復習をする
			復習	感想文を書く
第４回	内容	障がいを持つ人の生活実態のビデオな内容についてクループ討議	予習	感想文を振り返る
			復習	グループ討議を振り返る
第５回	内容	グループ決め、およびディスカッション	予習	施設の種別を振り返る
			復習	ディスカッションの内容をまとめる
第６回	内容	テーマ設定	予習	テーマ設定の材料の準備をする
			復習	テーマの吟味をする
第７回	内容	グループレポート作成	予習	レポートの下書きをする
			復習	レポートの清書をする
第８回	内容	グループ活動①（調査）	予習	テーマに応じた調査を開始する
			復習	テーマに応じた調査を継続する
第９回	内容	グループ活動②（調査・制作）	予習	テーマに応じた調査の継続と制作の準備をする
			復習	制作の準備をする
第 10 回	内容	中間報告	予習	中間報告の準備をする
			復習	中間報告を踏まえた最終制作に取り掛かる
第 11 回	内容	グループ発表③（制作）	予習	制作の準備を進める
			復習	最終確認
第 12 回	内容	発表レジメ提出	予習	発表レジメの下書きをする
			復習	発表レジメの清書をする
第 13 回	内容	発表準備、確認、動画作成	予習	発表準備、及び動画の作成準備をする
			復習	最終確認をする
第 14 回	内容	グループ発表①	予習	発表準備をする
			復習	まとめをする
第 15 回	内容	グループ発表②、まとめ	予習	発表準備をする
			復習	まとめをする

予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	提出物の返却、発表の講評などによるフィードバックを行う
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（30%）、作品・発表（50%）、授業態度（積極的参加）（20%）
教科書	『社会的養護Ⅰ・Ⅱ』（谷口純世他編、光生館）
参考文献	『保育福祉小六法 2023 年版』（保育福祉小六法編集委員会著、みらい）
注意事項	演習を中心とする。普段から児童問題に関心を持ち、主体的に授業に参加すること。

科　目　名	社会的養護Ⅱ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	まんどう　あきお 萬燈　章雄
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12202	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちの現状と支援について学ぶ。実践力を学習できるよう事例研究を通して支援の方法を考えていきたい。また、支援するスタッフとしてどのような姿勢で望むことが必要なのか、倫理や責務についても学ぶ。処遇の結論よりもそれを導き出していくプロセスに重点を置いて学習する。
到達目標	１．アセスメントから支援方法まで事例を通してそのプロセスを理解している。 ２．様々なケースに応じてどのように対応していくのかを理解している。 ３．より困難な場面でも、社会的養護に携わる保育士の職務と倫理に従い行動できることを身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　2・3　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション～ 演習１　ある施設に就職した友人の愚痴	予習	シラバスに目を通しておくこと
			復習	事例検討の方法についてまとめる
第２回	内容	演習２　障害児と母親の気持ち 「障害受容」についての考察	予習	障害児者施設体系について調べる
			復習	障害受容についてまとめる
第３回	内容	演習３　障害児の処遇事例（学校・学童） 本人のこだわりと周囲のストレス。折り合いの付け方など	予習	障害者の権利条約について調べる
			復習	障害児の自立支援についてまとめる
第４回	内容	演習４　ジェノグラムとエコマップ	予習	家族図について調べる
			復習	ジェノグラムとエコマップについてまとめる
第５回	内容	講義　「アタッチメント」について考える	予習	ジョン・ボウルビィについて調べる
			復習	愛着の形成についてまとめる
第６回	内容	演習５　被虐待児への支援について（保育所・幼稚園） 虐待の発見と対応	予習	虐待のサインについて調べる
			復習	愛着障害についてまとめる
第７回	内容	演習６　乳児院の生活と措置変更（乳児院） 乳児院での処遇において大切なものとは	予習	社会的養護に必要な施設について調べる
			復習	「措置変更」についてまとめる
第８回	内容	講義　ケースワークと専門技術	予習	ケースワークについて調べる
			復習	ソーシャルワークの体系についてまとめる
第９回	内容	演習７　日常生活支援（児童養護施設） 入所支援。アドミッションケアについて	予習	「親子分離」について調べる
			復習	施設入所時の子ども支援についてまとめる
第 10 回	内容	演習８　日常生活支援（児童養護施設） インケアについて（ルールと日課）	予習	様々な施設の日課について調べてみる
			復習	ルールと日課のあり方についてまとめてみる
第 11 回	内容	演習９　日常生活支援（児童養護施設） 愛着に課題のある子の処遇について	予習	養護施設の入所事由について調べてみる
			復習	処遇困難に子への対処方法についてまとめる
第 12 回	内容	ビデオ学習　施設からの自立支援について	予習	リービングケアについて調べる
			復習	スタッフの支援内容について振り返る
第 13 回	内容	演習 10　自立支援計画について（児童養護施設）Ⅰ 事例の情報を整理する	予習	情報の共有について調べる
			復習	事例についてアセスメントしてみる
第 14 回	内容	演習 10　自立支援計画について（児童養護施設）Ⅱ 自立支援計画を作成する	予習	ケース事例について、課題を整理してみる
			復習	自立支援計画についてまとめてみる
第 15 回	内容	講義　まとめ　子どもの目線で対応することとは 子どもの権利擁護について	予習	子どもの権利条約について調べる
			復習	子どもの権利擁護についてまとめてみる

予習に要する学習時間：概ね１５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。

課題へのフィードバック	原則、毎回事例ごとに全員課題についての意見など記載してレポートとして提出。簡単ですがコメントと評価をつけてできるだけ返却していくつもりでいます。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（５０%）、作品・発表（２０%）、実技（　　%）、授業態度【積極性　】（３０%）
教科書	なし
参考文献	「社会的養護Ⅱ」　相澤　仁・村井美紀・大竹　智編　中央法規　その他授業中に紹介します。
補足事項	基本事例も含めプリント資料配布で授業を進めます。この授業は考える課程に授業の目的がありますので、授業マナーを守り意見発表や質問など積極的な参加を評価します。なお、回答の正誤についてあまり問いません。

科　目　名	保育者論	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	まつき　ひさこ 松木　久子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12104	授業形態	講義	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	保育者を目指すことで最も大切なことであり、大変なことと思われる実習に向けて、実践的な事柄から学び、自分なりの保育観や実習に対する心構えや目標をもつことができるように指導していきます。また、実習における実習日誌への記載に慣れる意味で、手書きで文章を書けるように練習できる内容を提供していきます。
到 達 目 標	１．　実習のあり方について理解している ２．　保育者としての基本的な態度を身に付ける必要性について説明できる ３．　実習において、何を学ぶべきかが理解している
学位授与方針	幼児教育学科（　１・３・４　）

授 業 計 画

第１回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項の説明	予習	保育者になるという意味を考えまとめておく
			復習	必要事項について理解したことをまとめる
第２回	内容	幼稚園教育実習について	予習	幼稚園についてまとめておく
			復習	教育実習についての意義についてまとめる
第３回	内容	幼稚園と保育所（園）の違いについて考える	予習	就学前教育について調べまとめておく
			復習	違いや同じことについて詳しくまとめる
第４回	内容	幼稚園教諭の仕事と役割について考える	予習	教育・指導するということについてまとめる
			復習	理解したことを詳しくまとめておく
第５回	内容	保育士の仕事と役割について考える	予習	保育するという意味についてまとめておく
			復習	理解したことを詳しくまとめる
第６回	内容	３歳児の特徴について知る	予習	３歳児について調べまとめておく
			復習	理解したことをさらに調べまとめる
第７回	内容	４歳児の特徴について知る	予習	４歳児について調べまとめておく
			復習	理解したことをさらに調べまとめる
第８回	内容	５歳児の特徴について知る	予習	５歳児について調べまとめておく
			復習	理解したことをさらに調べまとめる
第９回	内容	保育の安全と事故防止について学ぶ	予習	安全や事故防止について調べまとめておく
			復習	理解したことをまとめる
第 10 回	内容	実習について必要となるマナー等を学ぶ	予習	教科書の該当箇所を熟読しておく
			復習	自分が考える実習について具体的にまとめる
第 11 回	内容	「教師」という言葉について考える	予習	先生や教師等の言葉について調べまとめておく
			復習	理解したことをまとめる
第 12 回	内容	日本の教職の特徴について考える	予習	日本の教師について調べまとめておく
			復習	理解したことをさらに調べまとめる
第 13 回	内容	しつけをめぐる問題について考える	予習	「しつけ」について調べまとめておく
			復習	理解したことをさらに調べまとめる
第 14 回	内容	自分の実習について考える	予習	実習園について調べまとめておく
			復習	実習について振り返りまとめる
第 15 回	内容	まとめ	予習	自分なりの保育観についてまとめておく
			復習	興味をもったことについてさらに調べまとめる

予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	数回にわたり小エッセイを課し、小テストや中間テストを実施し、学生の理解度を把握していく
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　50　%）、レポート・課題（　30　%）、授業態度【発言の頻度等】（　20　%）
教科書	『これだけは身につけたい　小学校教員の常識 67』（村越晃［編］、一藝社）
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介していきます。
補足事項	実習に対する意識をしっかりともち、園の協力の下で実習が実現できることをきちんと理解してほしいと思います。

科目名	保育の心理学	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	おおくま　みかこ 大熊　美佳子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	子どもの心身の発達について，代表的な理論を踏まえ，発達の概念を理解し，具体的な発達や学習の過程に関する基礎知識を習得し，教育や保育，子育て支援に生かしていけるように，学びを深めていくことを目的とします。
到達目標	１．保育に関わる心理学の基本用語を正確に理解している ２．子どもの発達や行動を理解するために必要な心理学的視点の基礎を身につけている ３．子どもの主体的な活動を支えるための基礎となる考え方を理解している
学位授与方針	幼児教育学科（　1,3　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	子どもの発達の理解	予習	シラバスを読んでおく
			復習	子どもの発達の理解についてまとめる
第２回	内容	子どもの発達と環境	予習	遺伝と環境の影響について考えてくる
			復習	発達に関わる遺伝と環境の考え方をまとめる
第３回	内容	発達観・子ども観と保育観	予習	自分自身の子ども観，保育観をまとめてくる
			復習	発達に関する考え方の変遷をまとめる
第４回	内容	身体的機能と運動機能の発達	予習	乳幼児の身体・運動機能の発達について調べてくる
			復習	乳幼児の身体・運動機能の発達について学んだことをまとめる
第５回	内容	社会情動的発達① （感情・情動の発達）	予習	感情・情動の発達について調べる
			復習	感情・情動の発達を年齢ごとに整理する
第６回	内容	社会情動的発達② （アタッチメント理論）	予習	ボウルヴィのアタッチメント理論について調べてくる
			復習	アタッチメント理論について整理する
第７回	内容	社会情動的発達② （他者理解の発達）	予習	乳幼児の他者理解について調べてくる
			復習	人間関係の発達を年齢ごとに整理する
第８回	内容	パーソナリティの発達	予習	フロイトの理論ついて調べてくる
			復習	フロイトの理論を年齢ごとに整理する
第９回	内容	認知発達① （ピアジェの認知発達理論）	予習	ピアジェについて調べてくる
			復習	ピアジェの認知発達理論を整理する
第 10 回	内容	認知発達② （言葉の発達とヴィゴツキーの認知発達理論）	予習	言葉の発達について調べてくる
			復習	ヴィゴツキーの認知発達理論を整理する
第 11 回	内容	学習理論① （学習とは何か）	予習	学習の意味について調べてくる
			復習	学習・条件づけについてまとめる
第 12 回	内容	学習理論② （社会的学習理論について）	予習	社会的学習理論について調べる
			復習	現場への応用の仕方について考える
第 13 回	内容	子どものやる気① （動機づけ理論について）	予習	子どものやる気について考える
			復習	動機づけ理論についてまとめる
第 14 回	内容	子どものやる気② （褒めること・叱ること）	予習	子どもの褒め方・叱り方について考える
			復習	よりよい褒め方・叱り方をまとめる
第 15 回	内容	子どもの個性を理解する	予習	個性とは何かを考える
			復習	保育現場で必要な心理学的視点をまとめる

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内で小テストを実施し、テスト後、解説を行います。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（70%）、レポート・課題（20%）、授業態度【積極的参加】(10%)
教科書	なし
参考文献	講義の中で適宜紹介します
補足事項	

科　目　名	子ども家庭支援の心理学	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	みよし　ちから 三好　力
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12102	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	生涯発達心理学をベースにして、保育士が必要とする人間の各成長段階における発達課題や発達障害、社会状況に基づく家庭支援の在り方などを学んでいく。
到達目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し初期経験の重要性、発達課題について理解している。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得している。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解している。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	発達心理学の概要をつかむ	予習	教科書の相当箇所を事前に読むこと
			復習	授業の内容を整理する
第２回	内容	生涯発達とは何か	予習	教科書の生涯発達の箇所を事前に読むこと
			復習	ライフサイクルとライフコースを整理する
第３回	内容	主要な発達理論の紹介	予習	教科書の発達理論の箇所を事前に読むこと
			復習	発達理論について整理してまとめる
第４回	内容	乳幼児期の発達	予習	教科書の幼児期の箇所を事前に読むこと
			復習	未就学児の特徴をまとめる
第５回	内容	学童期前期にかけての発達	予習	教科書の学童期の箇所を事前に読むこと
			復習	学童期の子どもの特徴をまとめる
第６回	内容	学童期後期から青年期にかけての発達	予習	教科書の青年期の箇所を事前に読むこと
			復習	青年期の特徴をまとめる
第７回	内容	小テスト（１～６） 青年期の精神世界を見る	予習	1～6 回目の復習。
			復習	テストの間違ったところを再学習する
第８回	内容	成人期における発達	予習	教科書の成人期の箇所を事前に読むこと
			復習	成人期の特徴をまとめる
第９回	内容	老年期における発達	予習	教科書の老年期の箇所を事前に読むこと
			復習	老年期の特徴をまとめる
第 10 回	内容	子育てを取り巻く社会的状況	予習	教科書の子育て環境の箇所を事前に読むこと
			復習	現代の子育て環境について考える
第 11 回	内容	家族・家庭の意義、機能と親子関係・家族関係の理解	予習	教科書の家族の箇所を事前に読むこと
			復習	家族機能について考える
第 12 回	内容	子育ての経験と親としての育ち、ライフコースと仕事・子育て	予習	教科書の子育ての箇所を事前に読むこと
			復習	親の成長を考える
第 13 回	内容	多様な家庭形態とその理解 特別な配慮を要する家庭	予習	教科書の多様な家庭の箇所を事前に読むこと
			復習	多様性について考える
第 14 回	内容	子どもの精神保健	予習	教科書の精神保健の箇所を事前に読むこと
			復習	子どもの精神保健について整理する
第 15 回	内容	小テスト（７～１４） 振り返り	予習	７～14 回目の復習。テスト勉強をする
			復習	テストの間違ったところを再学習する

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	小テストの後に、答え合わせと解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（100%）、レポート・課題（　　%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【　　】（　　%）
教科書	『子ども家庭支援の心理学』（青木喜久代編、みらい）
参考文献	
補足事項	

科　目　名	子ども家庭支援の心理学	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	みよし　ちから 三好　力
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12102	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	対面　・（遠隔）・　その他（　　）
授業の内容	生涯発達心理学をベースにして、保育士が必要とする人間の各成長段階における発達課題や発達障害、社会状況に基づく家庭支援の在り方などを学んでいく。
到達目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し初期経験の重要性、発達課題について理解している。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得している。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解している。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第１回	内容	発達心理学の概要をつかむ	予習	教科書の相当箇所を事前に読むこと
				復習	授業の内容を整理する
	第２回	内容	発達心理学の概要をつかむ（2）	予習	教科書の生涯発達の箇所を事前に読むこと
				復習	ライフサイクルとライフコースを整理する
	第３回	内容	生涯発達とは何か	予習	教科書の発達理論の箇所を事前に読むこと
				復習	発達理論について整理してまとめる
	第４回	内容	主要な発達理論の紹介	予習	教科書の発達理論の箇所を事前に読むこと
				復習	発達理論について整理してまとめる
	第５回	内容	乳幼児期の発達	予習	教科書の乳児期の箇所を事前に読むこと
				復習	乳児期の特徴をまとめる
	第６回	内容	学童期前期にかけての発達	予習	教科書の幼児期の箇所を事前に読むこと
				復習	未就学児の特徴をまとめる
	第７回	内容	学童期後期からの発達	予習	教科書の学童期の箇所を事前に読むこと
				復習	学童期の子どもの特徴をまとめる
	第８回	内容	学童期後期から青年期にかけての発達	予習	教科書の青年期の箇所を事前に読むこと
				復習	青年期の特徴をまとめる
	第９回	内容	青年期の精神世界を見る	予習	先週の振り返りをしておくこと
				復習	青年期の特徴を考える
	第 10 回	内容	成人期における発達	予習	教科書の成人期の箇所を事前に読むこと
				復習	成人期の特徴をまとめる
	第 11 回	内容	老年期における発達（前編）	予習	教科書の老年期の箇所を事前に読むこと
				復習	老年期の特徴をまとめる
	第 12 回	内容	老年期における発達（後編）	予習	教科書の老年期の箇所を事前に読むこと
				復習	老年期の特徴をまとめる
	第 13 回	内容	子育てを取り巻く社会的状況～家族・家庭の意義、機能と親子関係・家族関係の理解	予習	教科書の子育ての箇所を事前に読むこと
				復習	親の成長を考える
	第 14 回	内容	多様な家庭形態とその理解	予習	教科書の多様な家庭の箇所を事前に読むこと
				復習	多様性について考える
	第 15 回	内容	発達支援の必要な子どものいる家庭～精神保健	予習	教科書の精神保健の箇所を事前に読むこと
				復習	精神保健について考える
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	毎回 google classroom で小テストを実施する。その次の週に結果をフィードバックする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（100%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【　　】（　　%）
教科書	『子ども家庭支援の心理学』（青木喜久代編、みらい）
参考文献	
補足事項	オンデマンドによる映像授業。

科　目　名	子どもの理解と援助	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	三好（みよし）　力（ちから）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12201	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	幼児期の子どもの発達、遊び、生活の特徴と幼稚園教諭、保育者としての対応方法、保護者に対する支援・指導について事例を通しながら既習の知識や実習を通して得た経験を元に考える。 対人コミュニケーションに必要なスキルをアクティブ・ラーニングの中で身につけていく。
到達目標	1.　子どもの心身の発達と保育実践について理解を深め、現場で応用することができる。 2.　生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、その過程で生じるつまずきなどに対応することができる。 3.　保育における観察力や評価方法を身につけて発達支援について自ら考えることができる。 4.　保護者や他の保育者とコミュニケーションをとりながら発達援助を行うことができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　2，3，5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第１回	内容	イントロダクション：幼児理解の意義	予習	既習の保育学・発達心理学の内容について確認
				復習	振り返りの記録をつける
	第２回	内容	子ども理解における発達の把握　集団討論	予習	教科書第１章を読んで考えておく。
				復習	振り返りの記録をつける。
	第３回	内容	共感的理解と子どもとの関わり　集団討論	予習	教科書の第２章を読んで考えておく。
				復習	共感的理解について整理する。
	第４回	内容	子どもの生活や遊び　集団討論	予習	教科書の第３章を読んで考えておく。
				復習	子どもの遊びについて整理しておく。
	第５回	内容	アクティビティⅠ （様々なコミュニケーションと保育者の態度）	予習	コミュニケーションとは何かを考えておく。
				復習	非言語コミュニケーションについて整理しておく
	第６回	内容	心の発達と人的環境としての保育　集団討論	予習	教科書の第４章を読んで考えておく。
				復習	人的環境を整理する。
	第７回	内容	発達における葛藤やつまずき　集団討論	予習	教科書の第７章を読んで考えておく。
				復習	発達における問題を整理しておく。
	第８回	内容	保育環境の理解と構成　集団討論	予習	教科書の第８章を読んで考えておく。
				復習	アフォーダンスを考えてみる。
	第９回	内容	アクティビティⅡ　（集団でのコミュニケーション）	予習	配付する資料を事前に確認しておく。
				復習	振り返りの記録をつける
	第 10 回	内容	子ども理解のための観察・記録と省察・評価	予習	教科書の第９勝を読んでおく
				復習	実習での事例をふまえて省察しておく。
	第 11 回	内容	職員間の対話　集団討論	予習	教科書の第 10 章を読んで考えておく。
				復習	職員間のコミュニケーションについて考えておく。
	第 12 回	内容	保護者のとの情報共有　集団討論	予習	教科書の第 11 章を読んで考えておく。
				復習	保護者との関わりについて整理しておく。
	第 13 回	内容	アクティビティⅢ（他者とのコンセンサス）	予習	配付する資料を事前に確認しておく。
				復習	協働することについて振り返りの記録をつける。
	第 14 回	内容	発達の課題に応じた援助と関わり　集団討論	予習	教科書の第 12 章を読んで考えておく。
				復習	発達課題に応じた支援について整理しておく。
	第 15 回	内容	特別な配慮を要する子供の理解と援助　集団討論	予習	教科書の第 13 章を読んで考えておく。
				復習	特別な配慮をする場面を整理しておく。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	授業のなかで、その都度講評を行っていく。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（80%）、作品・発表（20%）、実技（　　%）、授業態度【　　】（　　%）
教科書	『なぜ？から探る　子どもの理解と援助』（青木喜久代編、みらい）
参考文献	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
補足事項	授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で授業態度を減点し、場合によっては退出、授業出席を停止させることもありますので注意してください。

科　目　名	子どもの理解と援助	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	今井　由美（いまい　ゆみ）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12201	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	子どもの心身の発達や環境・状況を把握し、それらに基づいた保育援助の在り方について、より実践的な力を身に付ける。 演習課題や事例検討、グループワークを通して、子どもの理解を踏まえた多様な保育援助の方法について、具体的に考えていく。
到 達 目 標	１．子ども一人一人の発達や状況を把握することの意義を理解し、さまざまな保育援助方法を身につけている ２．子どもを理解するための方法について、具体的にイメージしながら説明できる ３．子ども理解に基づく援助や態度について、自分なりに考えることができる
学位授与方針	幼児教育学科（　2，3，5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第１回	内容	オリエンテーション　/　子どもを理解するとは	予習	子どもを理解することのイメージをしておく
				復習	習得する内容を整理する
	第２回	内容	子ども理解の意義	予習	子どもを理解する必要性について考えておく
				復習	子ども理解の意義について理解する
	第３回	内容	子どもの発達と理解	予習	乳幼児の発達段階をイメージしておく
				復習	発達過程に応じた援助についてまとめる
	第４回	内容	子どもに対する関わりと共感的理解①	予習	子どもに共感する時のイメージしておく
				復習	共感的理解について整理しておく
	第５回	内容	子どもに対する関わりと共感的理解②　グループワーク	予習	事前配布するグループワーク資料を読んでおく
				復習	グループワークの内容を整理する
	第６回	内容	子どもを理解する視点① 保育者としての関わり　グループワーク	予習	保育者としての関わり方について考えておく
				復習	グループワークの内容を整理する
	第７回	内容	子どもを理解する視点② いざこざや葛藤	予習	いざこざや葛藤場面をイメージしておく
				復習	いざこざや葛藤場面での援助方法をまとめる
	第８回	内容	子どもを理解する視点③ 保育環境	予習	さまざまな環境変化をイメージしておく
				復習	環境に応じた理解と援助方法を整理する
	第９回	内容	子どもを理解する方法① 観察・記録・評価	予習	観察した姿を記録するイメージをしておく
				復習	子どもの姿を思い浮かべ記録する
	第 10 回	内容	子どもを理解する方法② 保育者間の連携　グループワーク	予習	保護者同士の関わりをイメージしておく
				復習	グループワークの内容を整理する
	第 11 回	内容	子どもを理解する方法③ 保護者との関わり	予習	保護者対応をイメージしておく
				復習	保護者対応と子ども理解の繋がりをまとめる
	第 12 回	内容	発達課題や個人差に応じた援助	予習	どんな発達課題があるか考えておく
				復習	一人一人に応じた理解と援助について理解する
	第 13 回	内容	気になる子への理解と援助①	予習	どんな子が気になるのかイメージしておく
				復習	気になる子への理解と援助についてまとめる
	第 14 回	内容	気になる子への理解と援助②　グループワーク	予習	事前配布するグループワーク資料を読んでおく
				復習	グループワークの内容を整理する
	第 15 回	内容	発達の連続性と就学支援　ロールプレイング	予習	就学時のイメージをしておく
				復習	就学に向けての援助方法をまとめる
	予習に要する学習時間：概ね　20　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。				

課題へのフィードバック	提出された課題は、添削して返却し解説を行う。 グループワークやロールプレイングは、発表後に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：レポート・課題（　30　%)、作品・発表（　30　%)、授業態度【積極的参加】（　40　%）
教科書	なし
参考文献	『子どもの理解と援助 新・基本保育シリーズ⑩』(公益財団法人児童育成協会：監修、清水益治・森俊之：編集、中央法規) 『シードブック子どもの理解と援助』(飯島典子・本郷一夫：編著、建帛社)
補足事項	

科　目　名	子どもの保健	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	みた　のりこ 味田　徳子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	AHS12101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	子どもの健康と保健の意義について理解する。 身体や心の基本的知識について習得するとともに、子どものかかりやすい病気とその予防・対応法について学び、援助できる力をみにつけることを目的とする。
到達目標	１．子どもの発育・発達についての基礎知識を習得し、一人ひとりに応じた評価ができる。 ２．子どもの病気とその予防、適切な対応について理解している。 ３．子どもの心身の健康状態を把握し、その対応方法が理解できている。 ４．保健活動において、保護者および多職種間の連携・協働の重要性を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（１、３、４　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション Ⅰ、子どもの健康と保健の意義	予習	P１～11 まで読んでおく
			復習	子どもの健康に関する現状と課題についてまとめる
第２回	内容	Ⅱ、子どもの身体的発育と生理機能の発達 身体発育と保健	予習	家族から自分の「妊娠～出生までの経過」を聞く
			復習	身体の発育についてまとめておく
第３回	内容	生理機能の発達と保健	予習	P20～25 まで読んでおく
			復習	生理機能についてまとめておく
第４回	内容	運動機能の発達 精神機能の発達	予習	P25～33 までを読んでおく
			復習	反射・発達について、月齢をおってまとめる
第５回	内容	子どもの食と栄養	予習	P34～48 まで読んでおく
			復習	母乳と人工乳の違いについてまとめる
第６回	内容	Ⅲ、子どもの健康状態の把握 観察・健康診断	予習	P49～52 まで読んでおく
			復習	乳幼児の観察方法ついてまとめる 乳幼児健診の内容についてまとめる
第７回	内容	― 振り返り確認テスト No1ー Ⅳ、子どもの疾病予防と適切な対応　子どもの病気の特徴	予習	自分と家族の体温と脈拍を測定する
			復習	子どもの病気の特徴についてまとめる
第８回	内容	感染症	予習	P69～76 まで読んでおく
			復習	主な感染症についてまとめる
第９回	内容	免疫・アレルギー性疾患 消化器疾患	予習	アレルギーの事例について調べる
			復習	アレルギー疾患の対応について調べる
第 10 回	内容	循環器疾患 血液系疾患	予習	一般的にみられる症状はどのようなものがあるか考える
			復習	症状の対応についてまとめる
第 11 回	内容	内分泌・代謝性疾患 神経系の疾患	予習	P61～73 まで読んでおく
			復習	症状の対応についてまとめる
第 12 回	内容	腎・泌尿器疾患 先天性の疾患	予習	先天性疾患にはどのようなものがあるか調べる
			復習	慢性疾患についてまとめる
第 13 回	内容	学校保健安全法 予防接種	予習	自分の母子健康手帳の内容を確認しておく
			復習	自分が行ったことのある予防接種を確認する
第 14 回	内容	― 振り返り確認テスト No2ー 子どもの疾病に対する福祉	予習	小児慢性特定疾患について調べる
			復習	自立支援事業についてまとめておく
第 15 回	内容	インクルーシブ教育・合理的配慮 まとめ	予習	合理的配慮の意味について調べる
			復習	子どもの保健の到達目標を振り返る

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内で質問できる時間を設ける。課題（各授業終了時、確認ポイントチェック）・提出物においては、採点後または必要に応じてコメントを添えて返却する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　70　%)、レポート・課題（　20 %)、授業態度【　積極的参加　】（　10　%）
教科書	「保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～」大澤眞木子・小國美也子　へるす出版　、
参考文献	授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト　小林美由紀・森脇浩一　　診断と治療社
補足事項	授業はじめに前回授業の振り返りを行い、授業中は、ペアワークやグループワークなどを行いながら、知識の共有・定着を図っていく。

科　目　名	子どもの保健	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	たなべ　はやと 田辺　勇人
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	AHS12101	授業形態	講義	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	子どもの健康に関して医学的・社会的見地より理解する。 子ども特有の疾患・疾病の対策法を理解また予防法の実践を学ぶ、
到 達 目 標	１．　子どもの特異性の理解（大人と子供の医学的・社会的な違い） ２．　子どもの疾患・疾病に対する適切な処置法を理解する ３．　子どもの健康維持に対する適切な対処法を理解する
学位授与方針	幼児教育学科（　Ⅰ，3，4　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	オリエンテーション 子どもとは？	予習	病気について考える
			復習	身近な子供の観察
第２回	内容	子どもの健康と保健の意義 健康とは何か？	予習	健康の定義を調べてみよう
			復習	授業中に指示
第３回	内容	子どもの身体発育・発達と生理機能① 身体（生理・運動・精神）の発達	予習	医学用語でわからないものを調べる
			復習	成人と子どもの違いをまとめる
第４回	内容	子どもの身体発育・発達と生理機能② 栄養について	予習	子どもの食べ物を調べる
			復習	母乳、粉ミルク、液体ミルクについて
第５回	内容	子どもの健康状態の把握 観察項目・健康診断	予習	母子手帳をみてみよう
			復習	健康診断の内容を精査する
第６回	内容	１～５回のまとめ、確認テスト。 ＋α講義　生命の誕生と遺伝について	予習	授業中に指示
			復習	確認テストの内容をチェックしよう
第７回	内容	子どもの疾病の予防及び適切な対応 基礎的な構造機能学	予習	プリントで構造機能をみてみよう！
			復習	構造機能学の復習
第８回	内容	①感染症	予習	子どもがかかりやすい感染症を考えよう
			復習	予防接種についてまとめる
第９回	内容	②免疫・アレルギー性疾患	予習	身近なアレルギーを考えてみる
			復習	免疫についてまとめる
第 10 回	内容	③　消化器疾患	予習	子どもに多い消化器疾患を考えよう
			復習	うんち　について
第 11 回	内容	④　循環器疾患・先天性疾患	予習	心臓ってどこにあるか調べよう
			復習	先天性疾患をまとめてみよう
第 12 回	内容	⑤　血液性疾患	予習	貧血、白血病について考える
			復習	白血病について調べてみる
第 13 回	内容	⑥　内分泌・代謝性疾患	予習	ホルモンの名前を調べる。
			復習	子どもの内分泌疾患をまとめる
第 14 回	内容	⑦　神経系疾患	予習	神経の種類を考えてみる
			復習	プリントで対応（まとめ）
第 15 回	内容	⑧　遺伝性疾患 ７～14 回のまとめ、確認テスト	予習	DNA　染色体の違いを考える
			復習	確認テストの内容

予習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　90　分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業中に行います
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　80%)、レポート・課題（　10%)、作品・発表（　　%)、実技（　　%)、授業態度【授業参加　】（　10　%）
教科書	「保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～」大澤眞木子・小國美也子　へるす出版
参考文献	
補足事項	プリント配布を２回目より行います。休んだ場合も配布します。質問があれば躊躇せず授業中に発言してください。

科　目　名	子どもの食と栄養	単 位 数	2	授業時間数	６０	担当教員	ひらやま　もとこ 平山　素子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EAH12101	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	子どもを取り巻く食環境を把握し、胎児期から学齢期の発育発達と栄養・食事の関係を理解する。子ども一人ひとりの心理状態や食事の摂取状況を観察し、適切な食事の提供と介助、さらには食生活のあり方について援助できる力を身につけることを目的とする。
到達目標	１．子どもの発育・発達と食生活・栄養について理解している。 ２．月年齢に見合った適切な食事提供と介助を行う力を身につけている。 ３．自分自身の望ましい食生活の構築に取り組んでいる。
学位授与方針	幼児教育学科（　1,2,3　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション、調理室の使い方	予習	シラバスを読んでおく
			復習	この科目で習得する内容を理解する
第２回	内容	子どもの発達・発育と栄養	予習	発育と発達の違いを調べる
			復習	発育発達と栄養の関わりについてまとめる
第３回	内容	授乳期の栄養① 母乳栄養	予習	母乳栄養について調べる
			復習	母乳栄養の利点と注意点についてまとめる
第４回	内容	授乳期の栄養② 人工栄養	予習	人工栄養について調べる
			復習	人工栄養の利点と注意点についてまとめる
第５回	内容	調理実習１・・・授乳期（デモンストレーション）	予習	レシピ（プリント）を読んでおく
			復習	調理手順を使いする
第６回	内容	調理実習 1・・・授乳期（調理実習）	予習	調理手順を整理しておく
			復習	人工栄養と母乳についてレポートを作成する
第７回	内容	離乳の必要性について	予習	どうして離乳が必要なのかを考える
			復習	離乳食導入方法とサポート方法をまとめる
第８回	内容	離乳期の栄養①（5～6 か月頃）	予習	教科書の「5～6 か月の離乳食」部分を読む
			復習	「5～6 か月の離乳食」の特徴をまとめる
第９回	内容	離乳期の栄養②（5～6, 7～８か月頃）	予習	教科書の必要な部分を読む
			復習	教科書の必要な部分をまとめる
第 10 回	内容	離乳期の栄養③（7～８か月頃）	予習	教科書の「7～8 か月の離乳食」部分を読む
			復習	「7～8 か月の離乳食」の特徴をまとめる
第 11 回	内容	食物アレルギーについて	予習	食物アレルギーの原因となる食物を調べる
			復習	事故防止、サポート方法をまとめる
第 12 回	内容	調理実習１・・・授乳期（デモンストレーション）	予習	レシピ（プリント）を読んでおく
			復習	調理手順を使いする
第 13 回	内容	調理実習 2・・・授乳期（調理実習）	予習	調理手順を整理しておく
			復習	離乳食についてのレポートをまとめる
第 14 回	内容	離乳期の栄養④（9～11 か月頃）	予習	教科書の「9～11 か月の離乳食」部分を読む
			復習	「9～11 か月の離乳食」の特徴をまとめる
第 15 回	内容	離乳期の栄養⑤（9～11、12～18 か月頃）	予習	教科書の必要な部分を読む
			復習	教科書の必要な部分をまとめる
第 16 回	内容	離乳期の栄養⑥（12～18 か月頃）	予習	教科書の「12～18 か月の離乳食」部分を読む
			復習	「12～18 か月の離乳食」の特徴をまとめる
第 17 回	内容	保育現場における食事を考える	予習	保育現場で食事等を提供する機械を考える
			復習	食事等の提供時の課題と解決法をまとめる
第 18 回	内容	幼児期の栄養①成長と食事・栄養について	予習	幼児期の食事について具体的に考えてみる
			復習	幼児期の食事の特徴をまとめる
第 19 回	内容	幼児期の栄養②保育士・保護者の悩みを通して考える	予習	幼児期の食の問題について調べる
			復習	幼児期の食の課題と解決方法をまとめる
第 20 回	内容	児童福祉施設の食事と栄養	予習	教科書の「児童福祉施設での食事」を読む
			復習	児童福祉施設ごとの食の特徴をまとめる
第 21 回	内容	園外保育・行事保育の食事（食物アレルギー等）	予習	園外保育・行事保育の食事について調べる
			復習	園外保育・行事保育の留意点をまとめる

	第 22 回	内容	障がい児の食事と栄養	予習	教科書の「障害のある子どもの食事」を読む
				復習	障がいのある子どもの食の課題をまとめる
	第 23 回	内容	体調不良時の食事と栄養	予習	子どもの体調不良について調べる
				復習	体調に合わせた食事の摂り方をまとめる
	第 24 回	内容	間食の意義と栄養	予習	間食の意義と必要性について調べる
				復習	間食の必要性と留意点をまとめる
	第 25 回	内容	学童期の食事と栄養	予習	幼保卒園後の食の問題について考える
				復習	学童期の食とサポート方法をまとめる
	第 26 回	内容	妊娠・授乳期の食事と栄養	予習	妊娠・授乳期に生じる食の問題を考える
				復習	妊娠・授乳期の食のサポート方法をまとめる
	第 27 回	内容	食事のマナー・箸の使い方について	予習	幼児期に習得すべきマナーについて調べる
				復習	箸使いの習得方法とサポート方法をまとめる
	第 28 回	内容	歯磨きについて	予習	教科書の「乳歯の萌出時期」を読む
				復習	歯の生える順序と歯磨きの方法を考える
	第 29 回	内容	咀しゃくについて	予習	教科書の「咀しゃく」を読む
				復習	咀しゃくを上手に行うための方法を考える
	第 30 回	内容	食べることの意義と栄養・食品の知識	予習	子どもの食で大切なことは何かを考える
				復習	自分の食生活を振り返り、改善方法をまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	作成したレポートにコメントを行う				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（60%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【積極性】（40%）				
教科書	『新・子どもの食と栄養』（岩田、寺嶋 編者、みらい）				
参考文献	『子どもの食と栄養』（大江敏江 編者、光生館）				
補足事項					

科　目　名	臨床心理学	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	みよし　ちから 三好　力
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CLP12201	授業形態	講義	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授　業　の 内　　容	臨床心理学は応用心理学の一つである。心の悩みを解決し、人間を幸せにする学問ともいわれている。 現代社会にはさまざまな心の問題が存在する。私たちが、人の心を理解しようと試みたり、心の問題に向き合おうとするとき、臨床心理学はそれらの試みをサポートしてくれる。本講義では、臨床心理学の基礎的知識の習得と現場で活きる臨床心理学の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。
到 達 目 標	1. 臨床心理学の基礎的知識を習得している。 2. 学んだ知識を活用して、心の問題について、自分なりに考えられる力を身につけている。 3. 学んだ知識を使って、子どもや保護者の心の問題理解と支援に役立てられる。
学位授与方針	幼児教育学科（　1　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	臨床心理学についての概要 現代社会のこころの問題を考えてみる	予習	現代社会のこころの問題を考えてみる
			復習	現代社会のこころの問題を振り返る
第２回	内容	精神障害① 抑うつ障害	予習	抑うつ障害について調べる
			復習	抑うつ障害について確認する
第３回	内容	精神障害② 不安障害	予習	不安障害について調べる
			復習	不安障害について確認する
第４回	内容	精神障害③ 統合失調症	予習	統合失調症について調べる
			復習	統合失調症について確認する
第５回	内容	精神障害④ 心的外傷後ストレス障害	予習	PTSD について調べる
			復習	PTSD について確認する
第６回	内容	発達臨床心理学について 発達初期のこころの問題について考えてみる	予習	既習の発達心理学の内容を確認する
			復習	既習の発達心理学の内容について確認する
第７回	内容	発達障害① 知的障害・自閉症スペクトラム	予習	知的障害について調べる
			復習	知的障害について確認する
第８回	内容	発達障害② ADHD・LD	予習	ADHD, LD について調べる
			復習	ADHD, LD について確認する
第９回	内容	確認小テスト フィードバック	予習	ここまでの内容について試験勉強する
			復習	テストで出た内容を照らし合わせ確認する
第 10 回	内容	臨床心理学の理論と方法① 精神分析	予習	精神分析について調べる
			復習	精神分析について確認する
第 11 回	内容	臨床心理学の理論と方法② 人間性心理学	予習	ロジャースについて調べる
			復習	ロジャースの理論について確認する
第 12 回	内容	心理アセスメント 知能テスト、パーソナリティテスト、質問紙法と投影法について	予習	心理テストについて調べる
			復習	心理アセスメントについて確認する
第 13 回	内容	身近なこころの問題	予習	身近な心の問題について考える
			復習	授業で学んだことと照らし合わせ確認する
第 14 回	内容	確認小テスト フィードバック	予習	ここまでの内容について試験勉強する
			復習	テストで出た内容を照らし合わせ確認する
第 15 回	内容	現代社会と臨床心理学：サブカルチャーの中にみられる臨床心理学的問題から考えてみる	予習	サブカルチャーと精神性について調べる
			復習	自分の考えをまとめてみる

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	２回の小テストを実施し、その後にフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（100%）、レポート・課題（　　%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【　　】（　　%）
教科書	使用しない
参考文献	
補足事項	授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で授業態度を減点し、場合によっては退出、授業出席を停止させることもありますので注意してください。

科　目　名	心理学特講	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	おおくま　みかこ 大熊　美佳子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12202	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	心理学は，人間の心のメカニズムや行動を科学的に研究していく学問です。本講義では，テーマについて自ら調べ発表する，グループワークを行い他者の考えを知るなどの学びを通して，自分自身の心の仕組みを探り，自己理解を深めるとともに，人間理解の観点から，人間の心と行動について理解を深めるために必要な心理学の基礎知識を学び，日常生活にその知見を生かすことを目的とします。
到達目標	１．心理学の基礎知識を身につけている ２．人の心のメカニズムと行動について理解している ３．自分自身の望ましいライフコース構築に取り組んでいる
学位授与方針	幼児教育学科（　3，5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	ガイダンス：心理学を学ぶということ	予習	シラバスを読んでおく
			復習	心理学を学ぶ意義をまとめる
第２回	内容	自分自身を知る	予習	自分の長所，短所についてまとめる
			復習	自分らしさについて理解を深める
第３回	内容	レジリエンスとマインドフルネス	予習	自分自身がストレスを感じる状況について考える
			復習	心の健康を保つ方法についてまとめる
第４回	内容	対人関係の心理学	予習	対人関係をテーマにした映画・小説などについて調べる
			復習	自身の対人関係についてまとめる
第５回	内容	親子関係の心理学	予習	親子関係をテーマにした映画・小説などについて調べる
			復習	親子関係について自分の考えをまとめる
第６回	内容	性格の自己分析	予習	自分の思考や行動の特徴について考える
			復習	自身の性格分析の結果を客観的に整理する
第７回	内容	自分と向き合う	予習	これまでの授業の中で見えてきた自分らしさについてまとめてくる
			復習	グループワーク等による他者評価を取り入れ，再度自分らしさについて考える
第８回	内容	マイトリセツを作ってみよう	予習	マイトリセツに必要な素材を集めてくる
			復習	マイトリセツを完成させる
第９回	内容	女性のライフコースの心理学	予習	女性のライフコースをテーマにした映画・小説などについて調べる
			復習	自分自身のライフコースを考える
第 10 回	内容	色彩と心理学・パーソナルカラー診断	予習	自分に似合う色について考える
			復習	色彩が及ぼす影響についてまとめる
第 11 回	内容	言葉とコミュニケーション	予習	心に響いた言葉について考えてくる
			復習	言葉とコミュニケーションについて考えをまとめる
第 12 回	内容	嘘の心理学	予習	嘘について調べてくる
			復習	子どもと関わるとき際のウソにまつわる心理テク視点を整理する
第 13 回	内容	子育ての心理学	予習	子育てに関連する情報を調べる
			復習	子育てについて自分の考えをまとめる
第 14 回	内容	実行機能の発達と自己決定理論	予習	実行機能，動機づけについて調べる
			復習	動機づけについて学んだことをまとめる
第 15 回	内容	課題の発表とまとめ　日常に生かす心理学	予習	授業を通して学んだことを整理する
			復習	学んだ知見の活用についてまとめる

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポートにコメントを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（40%）、授業態度【積極的参加】（60%）
教科書	なし
参考文献	講義の中で適宜紹介します
補足事項	

科　目　名	保育・教育課程論	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	こやま　れいこ 小山　玲子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12201	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	園の包括的な基本方針(幼稚園、保育所、幼保連携型こども園共通)である「教育課程」「全体的な計画」の構成と関連する指導計画並びに指導計画作成上の留意事項を保育現場での具体的な事例を通して学ぶ。幼稚園や保育所の保育内容などの保育の基本を理解した上で、保育実践における部分実習案等の立案の仕方を身につける。ポートフォリオ・ドキュメンテーションなど保育活動を可視化することで見えてくる子ども理解や保育者としての成長について考えながら、保育の内容と評価に基づく記録方法や改善に対する理解を深める。
到達目標	１．教育課程、保育の全体的な計画、指導計画の意義について学び、作成について目的を理解している。 ２．子どもの発達の過程・特徴を理解し、指導計画の作成を通して作成のポイント、方法について理解している。 ３．実際の保育方法や保育の形態と内容、保育記録・評価反省・改善の意義・目的について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（ １．３．４ ）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション・保育の基本について	予習	シラバス、教科書①、②の目次を確認する
			復習	保育の基本について整理する
第２回	内容	教育課程・全体的な計画と指導計画	予習	教科書①第２章Ｐ２７～３１の通読
			復習	教育課程・全体的な計画をまとめる
第３回	内容	幼稚園の理解　グループワーク	予習	教育要領の通読、教育課程について調べる
			復習	教育課程作成のポイントを復習する
第４回	内容	保育所の理解　グループワーク	予習	保育所の全体的な計画について調べる
			復習	全体的な計画作成のポイントを復習する
第５回	内容	指導計画の作成の基本とその方法	予習	教科書②指導案編Ｐ７０～７９の通読
			復習	配布プリントのまとめを行う
第６回	内容	幼稚園部分実習指導案の立案・作成①	予習	部分実習で使用する絵本を選ぶ
			復習	部分実習指導案の原案を箇条書きで書く
第７回	内容	幼稚園部分実習指導案の立案・作成②	予習	教科書②Ｐ１０２～１１８の通読
			復習	部分実習指導案の完成(次回の授業提出)
第８回	内容	乳児、１・２歳児の特徴と指導計画　グループワーク	予習	教科書①第６章Ｐ１３５～１４２の通読
			復習	０・１・２歳児の特徴を理解し整理する
第９回	内容	幼児の特徴と指導計画　グループワーク	予習	教科書①第７章Ｐ１４３～１５０の通読
			復習	配布プリントの課題を行う
第 10 回	内容	保育園部分実習指導案の立案・作成①	予習	部分実習の内容を考える
			復習	部分実習指導案を完成させる
第 11 回	内容	保育の実践と評価	予習	ＰＤＣＡサイクルについて調べる
			復習	保育の評価・省察を理解する
第 12 回	内容	保育園部分実習指導案の立案・作成②	予習	返却された部分実習指導案の見直し・訂正
			復習	部分実習指導案の完成(次回の授業提出)
第 13 回	内容	子ども理解や保育者としての成長につながる保育の記録 ミニテスト	予習	ドキュメンテーションについて調べる
			復習	ミニテストの振り返りを行う
第 14 回	内容	教育・保育施設と小学校との連携　グループワーク	予習	自分の自治体の幼保小連携について調べる
			復習	接続期カリキュラム等を理解する
第 15 回	内容	授業のまとめ　(授業内レポート)	予習	第１～１４回配布プリントを見直す
			予習	シラバス、教科書①、②の目次を確認する

予習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	提出課題に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　授業内レポート・課題（50%）、ミニテスト(20%)、授業態度【積極的参加】(30%)
教科書	『教育課程・保育の計画と評価　書いて学べる指導計画』(岩﨑淳子・及川留美・粕谷亘正、萌文書林)
参考文献	『パターンと練習問題でだれでもかけるようになる実習日誌・指導案』(浅井拓久也、明治図書出版) 『保育所保育指針』(厚生労働省、フレーベル館)　『幼稚園教育要領』(文部科学省、フレーベル館)
補足事項	配布資料はファイリングし、レポート・課題など提出期限は必ず守ること。グループ討議等に積極的に参加すること。

科　目　名	保育内容総論	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	いざわ　えいしゅう 伊澤　永 修
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12202	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	幼児教育は総合的な指導をするという考え方から、５領域、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期までに育ってほしい姿それぞれを理解し、またそれらの関係性を理解した上で保育を構築できるようにする。そのために具体的な子どもの姿を考えながら保育内容と指導法についてグループディスカッションし、理解を深める。
到 達 目 標	１.「育みたい資質・能力」「幼児期に育ってほしい」と保育内容の関係性を理解している ２.　子どもを取り巻く社会や環境の実態に即した具体的な保育課程を構築できる ３.　保育の多様な展開について具体的に理解している
学位授与方針	幼児教育学科（２、３、５）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	保育内容総論と保育内容総論を学ぶ目的について 乳幼児期の保育の基本について	予習	これまでの学びを通して保育の基本についてまとめておく
			復習	授業の内容を受けて改めて保育の基本及び保育内容についての振り返りを行う
第２回	内容	保育内容と保育内容の基本について	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく
			復習	授業内容を踏まえ改めて要領や指針の該当部分を読み理解を深める
第３回	内容	保育と教育について 保育における遊びについて	予習	保育と教育について要領や指針の該当部分を読み理解を深めておく 保育における遊びについての考えておく
			復習	授業を受けて保育と教育や遊びについてのまとめを行う
第４回	内容	保育内容の歴史について（１）	予習	保育内容の歴史をまとめておく
			復習	授業内容を踏まえてより細かく保育内容の歴史をまとめ直す
第５回	内容	保育内容の歴史について（２） 幼小連携の歩みについて（１）	予習	これまでの学びを通して幼児教育と小学校教育の違いについてまとめておく
			復習	授業内容を踏まえて事前にまとめた内容の修正を行い理解を深める
第６回	内容	幼小連携の歩みについて（２）	予習	前回の授業内容の振り返りを行い、具体的な幼小の連携方法について考えておく
			復習	授業内での幼小連携の具体例を通して自分なりの幼少の連携についての考えをまとめる
第７回	内容	幼児期に育みたい資質・能力について（１）	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく
			復習	幼児期に育みたい資質・能力について授業内で解説した部分のまとめを行い理解を深める
第８回	内容	幼児期に育みたい資質・能力について（２）	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく
			復習	幼児期に育みたい資質・能力について授業内で解説した部分のまとめを行い理解を深める
第９回	内容	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について（１）	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく
			復習	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について授業内で解説した部分のまとめを行い理解を深める
第 10 回	内容	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について（２）	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく
			復習	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について授業内で解説した部分のまとめを行い理解を深める
第 11 回	内容	視聴覚教材を活用して映像から子どもの育ちと気持ちを読み取る（１） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく
			復習	映像視聴及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方と保育者としての関わり方についてまとめる
第 12 回	内容	視聴覚教材を活用して映像から子どもの育ちと気持ちを読み取る（２） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく
			復習	映像視聴及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方と保育者としての関わり方についてまとめる
第 13 回	内容	ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）（１） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく
			復習	ケーススタディ及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方と保育者としての関わり方についてまとめる
第 14 回	内容	ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）（２） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく
			復習	ケーススタディ及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方と保育者としての関わり方についてまとめる
第 15 回	内容	子どもを取り巻く環境と現代の保育ニーズの多様化について及び総まとめ	予習	現代社会においてどのような課題と保育ニーズがあるかまとめておく
			復習	授業内容を受けて様々な課題や保育ニーズに応えるための保育についてまとめる

	予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。
課題へのフィードバック	提出物に関する評価を行い、返却時に解説する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%)、レポート・課題（６０%)、作品・発表（　　%)、実技（　　%)、授業態度【参加度合】（４０%）
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 必要に応じて授業内で指示する
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
補足事項	

科　目　名	乳児保育Ⅰ	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	はぎわら　やすこ 萩原　康子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	3歳未満児の発育・発達の特徴、生活・遊びの実際と援助、配慮について学ぶ。 講義、ビデオ視聴、保育現場での事例等を通して理解を深め、乳児保育に必要な知識を身につける。 乳児の短期的計画、長期的計画、個別計画について、個人ワークや全体発表を通して具体的に学ぶ。
到達目標	１．３歳未満児の保育における養護と教育の一体性について理解している。 ２．３歳未満児の発達支援と家庭支援について説明できる。 ３．３歳未満児の生活の連続性、発達の連続性、遊びの連続性について説明できる。
学位授与方針	幼児教育学科（2,4,5）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	ガイダンス 乳児保育の意義・目的と歴史的返還	予習	シラバスを読み本科目で修得する内容を知る
			復習	乳児保育の重要性、乳児保育の歴史を整理する
第２回	内容	乳児の子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	予習	家庭や地域の子育て機能の低下について調べる
			復習	時代に即した子育て支援のあり方を整理する
第３回	内容	保育所における乳児保育	予習	長時間保育における課題について調べる
			復習	保育所の機能と役割について整理する
第４回	内容	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育	予習	保育所以外の児童福祉施設について調べる
			復習	乳児院の役割と生活を整理する
第５回	内容	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育	予習	家庭的保育、小規模保育について調べる
			復習	家庭的保育、小規模保育、地域型保育の特徴を整理する
第６回	内容	3歳未満児の家庭を取り巻く環境と子育ての支援	予習	子どもの最善の利益について調べる
			復習	事例から学んだ内容をレポートにまとめる
第７回	内容	3歳未満児の生活と環境	予習	保育の人的環境、物的環境について調べる
			復習	乳児の保育室の環境構成のあり方を整理する
第８回	内容	3歳未満児の遊びと環境	予習	視覚、四肢、手指、言葉の発達について調べる
			復習	発達に応じた遊びの環境と配慮事項を整理する
第９回	内容	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	予習	0歳から1歳、1歳から2歳、2歳から3歳に移行する際の留意点について調べる
			復習	乳児保育における総合的な育ちについてレポートにまとめる
第10回	内容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育者による援助やかかわり	予習	運動発達、微細発達、認知発達、関係性の発達、応答的な対応について調べる
			復習	乳児の発達の特徴と援助のあり方を整理する
第11回	内容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	予習	健康、安全、情緒に関する配慮事項を調べる
			復習	保育中の健康把握、安全管理についてレポートにまとめる
第12回	内容	乳児保育の計画・記録・評価の関連性	予習	保育の長期的計画、短期的計画について調べる
			復習	計画、実践、記録、評価の関連性を整理する
第13回	内容	職員間の連携と協働	予習	保育士の役割と業務について調べる
			復習	保育士に求められる専門性、人間性を整理する
第14回	内容	保護者との連携と協働	予習	子育て支援の必要性について調べる
			復習	保護者と連携して子どもの育ちを支える視点について整理する
第15回	内容	自治体や地域の関係機関との連携と協働	予習	児童虐待について国内の事例を調べする
			復習	保育所と地域との連携の重要性を整理する

予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内にて実施する小テスト、提出されたレポート、リアクションペーパーに記載された質問について全体に説明を行う。 授業内にて質問を受ける時間を設け、フィードバックできる環境を整える。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、授業態度【リアクションペーパーの記載内容含む】(20%)
教科書	『0,1,2歳児の発達と保育　乳幼児の遊びと生活』　乳幼児の発達と保育研究会〔著〕　郁洋舎
参考文献	『保育所保育指針解説　平成30年3月　厚生労働省編』(フレーベル館)
補足事項	リアクションペーパーに毎回学んだことや感想等を記入して提出すること。配布資料はファイリングして毎回の授業に持参すること。

科　目　名	乳児保育Ⅱ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	はぎわら　やすこ 萩原　康子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12201	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	乳児保育Ⅰの学習を基に愛着関係の必要性を理解し、３歳未満児の発育・発達の特徴や生活・遊びの実際と援助、配慮について学ぶ。 ビデオ視聴や保育現場での事例、演習等を通して理解を深め、乳児保育に必要な知識と技術を身につける。 指導計画の作成について、個人ワークや全体発表等で具体的に学ぶ。
到達目標	１．３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりについて基本的な考え方を理解している。 ２．３歳未満児の子どもの生活や遊びに関する配慮事項及び環境構成について具体的に説明できる。 ３．３歳未満児の保育における指導計画の必要性について具体的に説明できる。
学位授与方針	幼児教育学科（2,3,4）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	ガイダンス　乳児保育の基本① 子どもと保育士等との関係の重要性	予習	シラバスを読み本科目の習得内容を確認する
			復習	心の土台としての愛着形成の重要性を整理する
第２回	内容	乳児保育の基本②【演習】 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わり	予習	共感・受容の意味について調べる
			復習	対人関係の発達について整理する
第３回	内容	乳児保育の基本③【演習】 子どもの主体性の尊重と自己の育ち	予習	個別対応の重要性について調べる
			復習	自我の芽生えと自己主張について整理する
第４回	内容	乳児保育の基本④【演習】 子どもの体験と学びの芽生え	予習	主体性を尊重することの意味について調べる
			復習	乳児保育の基本についてレポートにまとめる
第５回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際①【演習】 子どもの一日の生活の流れを踏まえた保育環境	予習	乳児保育の生活と遊びの内面について調べる
			復習	保育の一日の流れと環境のあり方を整理する
第６回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際②【演習】 子どもの生活や遊びを支える環境構成	予習	乳児保育の環境構成について調べる
			復習	生活や遊びを支える環境のあり方を整理する
第７回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③【演習】 ３歳未満児の発育・発達を踏まえた遊び	予習	落ち着いて過ごせる環境について調べる
			復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する
第８回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際④【演習】 ３歳未満児の発育・発達を踏まえた生活	予習	基本的生活習慣とはどのようなことか調べる
			復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する
第９回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際⑤【演習】 子ども同士の関りと援助	予習	３歳未満児の子ども同士の関りについて調べる
			復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する
第 10 回	内容	乳児保育における配慮の実際①【演習】 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	予習	安全・安心のために必要な配慮について調べる
			復習	発達を踏まえた援助の方法を整理する
第 11 回	内容	乳児保育における配慮の実際②【演習】 集団での生活における配慮	予習	集団生活を見据えた個別の配慮について調べる
			復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する
第 12 回	内容	乳児保育における配慮の実際③【演習】 環境の変化や移行に関する配慮	予習	３歳以上児の保育に移行する際の配慮を調べる
			復習	乳児保育における配慮をレポートにまとめる
第 13 回	内容	乳児保育における計画の実際①【演習】 長期的な指導計画と短期的な指導計画	予習	全体的な計画と他の指導計画の関連性を調べる
			復習	指導を計画作成する意味・必要性を整理する
第 14 回	内容	乳児保育における計画の実際②【演習】 個別的な指導計画と短期的な指導計画	予習	個別の指導計画について調べる
			復習	指導計画の評価・反省の方法について整理する
第 15 回	内容	まとめ　乳児保育の総合理解【演習】 乳児保育の意義と重要性	予習	年間に配布した資料を基に要点を再確認する
			復習	乳児保育の意義と重要性について整理する

予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内にて実施する小テスト、作成したレポート、リアクションペーパーに記載された質問について全体に説明を行う。 授業内にて質問を受ける時間を設け、フィードバックできる環境を整える。演習後の実技を通して修得状況を確認する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：授業内のミニテスト・レポート・課題（４０％）、実技（３０％）、授業態度【向上心、意欲的な参加】（３０％）
教科書	『0,1,2 歳児の発達と保育　乳幼児の遊びと生活』　乳幼児の発達と保育研究会〔著〕　郁洋舎
参考文献	『保育所保育指針解説　平成 30 年 3 月　厚生労働省編』（フレーベル館）
補足事項	リアクションペーパーには、毎回学んだことや感想等を記入して提出すること。配布資料はファイリングし、毎回の授業に持参すること。

科　目　名	子どもの健康と安全	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	みた　のりこ 味田　徳子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	AHS12201	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について「子どもの保健」で得た知識を実践できるように演習を行い、習得することを目的とする。 保育のための養護技術、体調不良時の対応やケガの応急手当等の保健的な内容及び保健管理の方法について演習を通して理解を深める。感染を含めた事故防止の知識を深める。
到達目標	１．子どもの健康状態の評価ができる。 ２．病気や事故発生時など、緊急時の対応ができる。また予防のための対策を理解している。 ３．集団保育における環境と安全対策を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（１、２、３、４、５）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション 子どもの健康と保育環境 演習　室温・湿度計、CO_2計測器、熱中症計測器　測定	予習	教科書 P104～113 を読む
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第２回	内容	保育における健康および安全の管理① 衛生管理 演習　嘔吐処理方法	予習	教科書 P114～121 を読む
			復習	保育所における保育環境・衛生管理をまとめる
第３回	内容	保育における健康および安全の管理② 事故防止及び安全対策 演習　幼児視野体験メガネ・チャイルドマウス作成	予習	教科書 P122～132 を読む
			復習	安全教育・安全管理についてまとめる
第４回	内容	保育における健康および安全の管理③ 危機管理と災害の備え/避難訓練・安全教育 演習　避難訓練	予習	教科書 P132～137 を読む　避難訓練指導案を考えてくる
			復習	災害時、避難誘導のポイントをまとめる
第５回	内容	体調不良や障害が発生した場合の対応 体調不良、傷害①創傷②打撲③出血④火傷 演習　バイタルサイン測定、包帯法、三角巾の使い方	予習	教科書 P138～145 を読む　子どもの保健で学んだバイタルサインについて復習しておく
			復習	症状についての対応方法をまとめる
第６回	内容	小テスト①（第１回～第５回） 感染症の集団発生・予防対策 演習　手洗い、歯磨き（染め出しチェック）	予習	教科書 P154～166 を読む
			復習	感染症対策ガイドラインを再確認する
第７回	内容	応急処置：誤飲・誤嚥、熱中症、溺水、SIDS 演習　背部叩打法　ハイムリック法 与薬方法	予習	教科書 P145～149 を読む
			復習	演習でのポイントをまとめる
第８回	内容	救急処置と蘇生法 演習　心肺蘇生法　AED　（ロールプレイング）	予習	教科書 P150～154 を読む
			復習	演習のポイントについてまとめる
第９回	内容	個別的な配慮を要する子どもへの対応 演習　車椅子介助法　エピペン	予習	教科書 P173～183 を読む
			復習	発達障害の支援方法についてまとめる
第 10 回	内容	病児保育 保育における保健的対応の基本的考え方 映像学習　病後児保育室の一日・グループ討議	予習	教科書 P166～171 を読む
			復習	病児保育のポイントについてまとめる
第 11 回	内容	３歳未満児への対応 演習　オムツ交換、抱っこ・おんぶ	予習	教科書 P121、P171～173 を読む
			復習	3歳未満児の発育･発達についてまとめる
第 12 回	内容	演習　沐浴 提出　身体計測と評価　　※母子健康手帳の確認	予習	教科書 P173～175 を読む
			復習	3歳未満児の発育･発達についてまとめる
第 13 回	内容	小テスト②（第７～第 11 回） 保育者間の連携・協同、協同と組織の取り組み 事故防止・ヒヤリハット記録・グループ討議（事例検討）	予習	教科書 P184～189 を読む
			復習	保育者間の連携のポイントについてまとめる
第 14 回	内容	保育における保健活動の計画と評価 提出　保健だより作成	予習	教科書 P189～193 を読む
			復習	自分の誕生月の保健だよりを作成する
第 15 回	内容	母子保健・地域保健の計画と評価 家庭、専門機関、地域の関係機関などとの連携	予習	教科書 P193～202 を読む
			復習	居住区の保健関係専門機関を調べる

	予習に要する学習時間：概ね　15 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。
課題へのフィードバック	レポート･課題は採点後、返却する。 実技試験前に試験チェックポイントについて確認し、実施後振り返る。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　実技または筆記試験（　70%）、レポート・課題（　20%）、授業態度【演習：積極性、身だしなみ】（　10　%）
教科書	『子どもの保健　　健康と安全』　（岩田力・細井香、光生館）
参考文献	『これならわかる！子どもの保健演習ノート』(小林美由紀、診断と治療社)
注意事項	1、演習時は、動きやすい服装、エプロンを着用し、髪をまとめ、爪は短くするなどの身だしなみを整える。 2、演習、準備、後片付けなど主体的に取り組むことで、授業態度における積極性と評価する。 3、主にグループ毎での活動となるため、演習がスムーズ行くように自分の役割を考え積極的に行動する。

科　目　名	子どもの健康と安全	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	たなべ　はやと 田辺　勇人
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	AHS12201	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面　・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について「子どもの保健」で得た知識を実践できるように演習を行い、習得することを目的とする。 保育のための養護技術、体調不良時の対応やケガの応急手当等の保健的な内容及び保健管理の方法について理解を深める。感染を含めた事故防止の知識を深める。
到達目標	１．子どもの健康状態の評価ができる。 ２．病気や事故発生時など、緊急時の対応ができる。また予防のための対策を理解している。 ３．集団保育における環境と安全対策を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（1，2，3，4，5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション 子どもの健康と保育環境	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第２回	内容	保育における健康および安全の管理① 衛生管理	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	保育所における保育環境・衛生管理をまとめる
第３回	内容	保育における健康および安全の管理② 事故防止及び安全対策	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	安全教育・安全管理についてまとめる
第４回	内容	保育における健康および安全の管理③ 危機管理と災害の備え/避難訓練・安全教育	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	災害時、避難誘導のポイントをまとめる
第５回	内容	体調不良や障害が発生した場合の対応 体調不良、傷害①創傷②打撲③出血④火傷	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	症状についての対応方法をまとめる
第６回	内容	感染症の集団発生・予防対策 演習として歯磨き（染め出しチェック）	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	感染症対策ガイドラインを再確認する
第７回	内容	応急処置：誤飲・誤嚥、熱中症、溺水、SIDS 背部叩打法　ハイムリック法　与薬方法	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	演習でのポイントをまとめる
第８回	内容	救急処置と蘇生法 心肺蘇生法　AED	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	演習のポイントについてまとめる
第９回	内容	個別的な配慮を要する子どもへの対応	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	発達障害の支援方法についてまとめる
第 10 回	内容	病児保育 保育における保健的対応の基本的考え方	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	病児保育のポイントについてまとめる
第 11 回	内容	３歳未満児への対応	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	3歳未満児の発育･発達についてまとめる
第 12 回	内容	小テスト　補講	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	3歳未満児の発育･発達についてまとめる
第 13 回	内容	保育者間の連携・協同、協同と組織の取り組み 事故防止・ヒヤリハット記録・グループ討議（事例検討）	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	保育者間の連携のポイントについてまとめる
第 14 回	内容	保育における保健活動の計画と評価 保健だより作成	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	保険だよりを各自作成してみる
第 15 回	内容	母子保健・地域保健の計画と評価 家庭、専門機関、地域の関係機関などとの連携	予習	教科書の当該箇所を読む
			復習	

予習に要する学習時間：概ね 90　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　90　分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業中に行います
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（90%）、、授業態度【積極性、態度】(10%)
教科書	「保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～」大澤眞木子・小國美也子　へるす出版
参考文献	
補足事項	積極的に授業に取り組んでください。

科　目　名	特別支援教育論	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	せき　ゆいこ 関　維子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SNE12201	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授　業　の 内　　容	障害者の権利条約と国内法の整備、教育制度の転換を踏まえて、インクルーシブ教育の理念と特別支援教育について体系的に学ぶ。また、障害のある子どもや特別な支援を要する子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導と支援の実際について学び、自立と社会参加に向けた教育的支援と合理的配慮について理解する。
到 達 目 標	１．インクルーシブ教育・保育の理念と実践について具体的に説明できる。 ２．障害や特別な配慮が必要な子ども一人ひとりのニーズに応じた指導内容や指導方法について理解している。 ３．家庭や関係機関との連携について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　3・5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画				
第１回	内容	オリエンテーション 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システム	予習	シラバスを読む。
			復習	特別支援教育のキーワードについてまとめる。
第２回	内容	特殊教育から特別支援教育への転換 特別支援教育の現状と教育制度	予習	特殊教育の特徴について調べる。
			復習	就学制度の改正についてまとめる。
第３回	内容	障害とは：ICF の理解 障害のある子どもの教育を保障する法律・制度	予習	障害とは何かについて自分の考えをまとめる。
			復習	ICIDH から ICF への改訂についてまとめる。
第４回	内容	保育や教育における合理的配慮と基礎的環境整備 ユニバーサルデザインとバリアフリー	予習	障害者差別解消法について調べる。
			復習	合理的配慮の具体例についてまとめる。
第５回	内容	障害の理解と教育① 視覚障害児・聴覚障害児の理解	予習	身の回りにある合理的配慮について調べる。
			復習	視覚障害、聴覚障害への配慮事項をまとめる。
第６回	内容	障害の理解と教育② 知的障害児・肢体不自由児・病弱児・医療的ケア児の理解	予習	身の回りにある合理的配慮について調べる。
			復習	安全な保育のための配慮についてまとめる。
第７回	内容	障害の理解と教育③ 発達障害児の理解	予習	身の回りにある視覚的支援について調べる。
			復習	障害特性に合わせた環境構成をまとめる。
第８回	内容	多文化の子どもの理解 養育環境による配慮の必要な子どもの理解	予習	興味のある国の文化や挨拶について調べる。
			復習	模擬事例に関するチェックリストを作成する。
第９回	内容	保育における遊びと活動、園内環境の工夫 障害特性に合わせた遊びについてグループで発表し合う。	予習	障害特性に配慮した遊びを考える。
			復習	行事における工夫と配慮についてまとめる。
第 10 回	内容	障害のある子どものアセスメント：意義と目的、方法	予習	発達検査と知能検査について調べる。
			復習	模擬事例のアセスメントシートを作成する。
第 11 回	内容	クラスの指導日案の作成、個別と集団への配慮 日案についてグループディスカッションをする。	予習	指導日案を作成するための事例を決める。
			復習	指導日案の振り返りとまとめをする。
第 12 回	内容	「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」 目標についてグループディスカッションをする。	予習	特別支援教育における計画の種類を調べる。
			復習	目標設定のポイントについてまとめる。
第 13 回	内容	特別支援学校・特別支援学級の特徴 就学相談と就学に向けた移行支援	予習	居住地の特別支援学級の設置状況を調べる。
			復習	就学相談の流れについてまとめる。
第 14 回	内容	障害のある子どもの保護者に対する理解と支援 保護者の思いについてグループディスカッションをする。	予習	障害児の親に関する記事を読む。
			復習	ディスカッションの内容をまとめる。
第 15 回	内容	障害児・者の意思決定支援	予習	障害者の権利条約　第 12 条を読む。
			復習	15 回の授業を振り返り、レポートにまとめる。
予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。				

課題へのフィードバック	レポートや製作物については、コメントを付して返却する。 発表やディスカッションについては、発表後に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（60%）、作品・発表（20%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加】(20%)
教科書	『実践事例を通して具体的なかかわりを学ぶ　保育現場における特別支援』(編著:松井 剛太・ 七木田 敦、教育情報出版)
参考文献	授業内で随時紹介する。
補足事項	

科　目　名	子育て支援	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	せき　ゆいこ 関　維子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12203	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	地域における「子育て支援」の基幹施設としての保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）の機能と役割について理解し、保育者が行う子育て支援のあり方について検討する。併せて、ロールプレイや事例検討を通じて、相談支援における保護者との相互理解や職員間の連携・機関連携の方法について具体的に理解することを目的とする。
到 達 目 標	１．子育て支援に関する子ども及び保護者のニーズと社会資源について理解している。 ２．保育相談支援における保護者との相互理解に向けた基本姿勢を身につけている。 ３．実践事例を通して、保育士が行う子育て支援の内容と方法を具体的に理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　２・３・５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	オリエンテーション 保育士が行う子育て支援とは	予習	シラバスを読む。
			復習	保育所保育指針の「子育て支援」を読む。
第２回	内容	子どもと保護者、家庭が抱える子育て支援のニーズ 保育士が行う子育て支援の展開	予習	居住地の子育て支援策について調べる。
			復習	保育士が行う子育て支援の特徴をまとめる。
第３回	内容	地域の子育て家庭への支援 保育における相談支援の位置づけと基本理念	予習	居住地の子育て支援拠点について調べる。
			復習	保育士が行う相談支援の特徴をまとめる。
第４回	内容	保育士による相談支援の実際 保護者との相互理解と信頼関係の形成	予習	「ラポール」について調べる。
			復習	相談の環境構成を考え、図を作成する。
第５回	内容	相談支援における記録・評価・計画	予習	保育に関する計画の種類について調べる。
			復習	模擬事例に関する支援計画の作成
第６回	内容	多様な保育ニーズと支援	予習	保育ニーズの多様性について調べる。
			復習	多様な保育ニーズと支援についてまとめる。
第７回	内容	気になる子ども、障害のある子どもと家庭に対する支援	予習	障害児保育の現状について調べる。
			復習	保育における支援についてまとめる。
第８回	内容	特別な配慮を必要とする子どもと家庭に対する支援	予習	外国にルーツのある子どもについて調べる。
			復習	子どもの貧困についてまとめる。
第９回	内容	子育て支援を通じた児童虐待の予防① 親プログラムのエッセンスを学ぶ。	予習	どのような親プログラムがあるか調べる。
			復習	親プログラムの目的についてまとめる。
第 10 回	内容	子育て支援を通じた児童虐待の予防② 親プログラムのエッセンスをロールプレイで体験する。	予習	親子それぞれの困難さについてまとめる。
			復習	ロールプレイの内容をまとめる。
第 11 回	内容	子育て支援を通じた児童虐待の予防③ 要保護・要支援児童等の家庭への支援と機関連携	予習	要保護と要支援の違いについてまとめる。
			復習	保育施設の「見守り」についてまとめる。
第 12 回	内容	事例検討①連絡帳の書き方 グループディスカッション、ロールプレイ	予習	連絡帳の役割について調べる。
			復習	連絡帳案をワークシートにまとめる。
第 13 回	内容	事例検討②個別面談における相談援助 グループディスカッション、ロールプレイ	予習	事例に関するジェノグラムを作成する。
			復習	事例に関するジェノグラムを完成させる。
第 14 回	内容	事例検討③他職種連携 グループディスカッション	予習	事例に関するエコマップを作成する。
			復習	事例に関するエコマップを完成させる。
第 15 回	内容	保育者に求められる基本的役割と姿勢 保育専門職の価値と倫理	予習	保育に関係する倫理綱領を調べる。
			復習	倫理綱領と保育の理念についてまとめる。

予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業の中で提出課題の解説及び講評をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（40%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度【積極的参加】(20%)
教科書	『書名』(著者名、出版社名) なし
参考文献	『書名』(著者名、出版社名) 『保育の特別支援教育』(編著:松井 剛太・ 七木田 敦、教育情報出版)
補足事項	

科　目　名	子育て支援	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	今井（いまい）　康晴（やすはる）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12203	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	子育てを取り巻く社会的背景をふまえ、子育て支援を担う保育者として、その歴史や行政などについて理解する。また具体的事例を通して、保育相談支援における保育者の専門性を活かした子育て支援について認識を深める。保育における相談支援、援助技術などをロールプレイ等の演習を通して獲得することを目的とする。
到達目標	１．　子育てを取り巻く社会的背景、現状と課題について理解している ２．　子育て支援の歴史、行政について理解している ３．　保育相談支援における専門的知識・技術を獲得している
学位授与方針	幼児教育学科（1,2,3,5）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	子育て支援とは何か	予習	シラバスを読んでおく
			復習	子育て支援の基本的基盤についてまとめる
第２回	内容	子育て支援の歴史①－明治、大正期を中心に－	予習	明治、大正期について調べておく
			復習	時代背景をまとめる
第３回	内容	子育て支援の歴史②－戦後を中心に－	予習	戦後日本の状況について調べておく
			復習	戦後日本における子育ての在り方をまとめる
第４回	内容	子育て支援の歴史③－平成、令和を中心に－	予習	昨今の社会情勢について調べておく
			復習	現代の子育て状況についてまとめる
第５回	内容	子育て支援の基本姿勢	予習	保育所保育指針を読んでくる
			復習	子育て支援の基本姿勢についてまとめる
第６回	内容	子育て支援の基本的技術	予習	子育て支援の基本について調べておく
			復習	子育て支援の基本的なプロセスについてまとめる
第７回	内容	対話を用いた子育て支援	予習	対話したかについて調べておく
			復習	コミュニケーション方法についてまとめる
第８回	内容	文書を用いた子育て支援	予習	文語体について調べておく
			復習	手紙の書き方についてまとめる
第９回	内容	子育て支援とソーシャルワーク	予習	社会資源について調べておく
			復習	近隣にある子育て支援事業についてまとめておく
第 10 回	内容	保育機能を生かした子育て支援	予習	保育行事について調べておく
			復習	保育行事の在り方についてまとめておく
第 11 回	内容	保育相談事例①－発達相談―	予習	幼児の発達について調べておく
			復習	発達支援についてまとめておく
第 12 回	内容	保育相談事例②－不適切な養育・虐待―	予習	不適切な養育について調べておく
			復習	不適切な保育の抑止抑制についてまとめておく
第 13 回	内容	保育相談事例③－生活支援－	予習	生活保護などについて調べておく
			復習	生活支援への対応をまとめておく
第 14 回	内容	苦情・クレーム対応について	予習	昨今の保育・育児にかかるニュースを調べておく
			復習	苦情対応の基本姿勢についてまとめる
第 15 回	内容	子育て支援の今後の展望	予習	これまでの授業内容について復習する
			復習	今後の子育て支援について展望する

予習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	講義の始めに予習内容について意見交換する。講義毎の復習レポート（レスポンスシート）を添削する
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（　）しない
教科書	成績評価の方法：　筆記試験（80%）、レポート・課題（20%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【　　】（　　%）
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）なし
補足事項	『書名』（著者名、出版社名）

科　目　名	保育指導方法Ⅰ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	こやま　れいこ 小山　玲子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12202	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	園生活において子どもが自発的・意欲的に関われるような環境の構成、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすることの意義を考える。授業を通して保育の場で適切な保育実践を展開していくための指導方法、関わり方を身につけていく。３～５歳児クラスの保育に役立つ実践を計画し、授業内で模擬保育を実施し振り返りを行う。
到達目標	１．　保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。 ２．　子どもを捉える視点を身につけ、個と集団が活かされる保育方法を理解している。 ３．　遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（２・４・５）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション ペープサート作成	予習	シラバスの講義内容を読んでおく
			復習	保育のねらい・保育者の役割をまとめる
第２回	内容	保育指導方法とは ペープサート作成	予習	保育の環境について調べる
			復習	ペープサート作成
第３回	内容	子どもの発達と遊び ペープサート発表	予習	年齢にあった子どもの遊びを調べる
			復習	幼稚園や保育所での子どもの遊びをまとめる
第４回	内容	航空公園探索①	予習	航空公園について調べる
			復習	航空公園での活動をまとめる
第５回	内容	航空公園探索②	予習	散歩マップと行程表を作成する
			復習	航空公園での活動をまとめる
第６回	内容	航空公園探索振り返り クラス便り・ドキュメンテーション作成	予習	散歩マップと行程表訂正
			復習	クラス便り・ドキュメンテーション完成
第７回	内容	子どもの主体的な遊びを考える(木製遊具に触れる) 木製遊具・積木・カプラで遊ぶ	予習	積木等、木製遊具の種類と遊びを調べる
			復習	子どもの主体的な遊びについて考察する
第８回	内容	子どもの主体的な遊びを考える 絵本・紙芝居・手遊び・言葉遊び	予習	絵本・紙芝居・手遊び・言葉遊びを調べる
			復習	授業で配布したワークシート記入・完成
第９回	内容	４歳児の保育の実践①保育活動準備(グループワーク)	予習	４歳児の発達と遊びを調べる
			復習	保育活動の進行(計画)を仕上げる
第 10 回	内容	４歳児の保育の実践②模擬保育(発表)	予習	模擬授業の準備を行う
			復習	実践の振り返りをまとめる
第 11 回	内容	パネルシアター・指人形・スケッチブックシアター 手作り紙芝居等の作成①	予習	製作物の準備を行う(絵本・物語等の選定)
			復習	製作物のストーリー・構成決定
第 12 回	内容	パネルシアター・指人形・スケッチブックシアター 手作り紙芝居等の作成②	予習	製作物作成の準備
			復習	製作物の作成
第 13 回	内容	パネルシアター・指人形・スケッチブックシアター 手作り紙芝居等の作成③	予習	製作物の作成
			復習	製作物の作成・完成
第 14 回	内容	パネルシアター・指人形・スケッチブックシアター 手作り紙芝居等の発表	予習	製作物の発表練習
			復習	作品の修正・授業で配布したワークシート記入・完成
第 15 回	内容	カードゲーム・ボードゲーム 授業のまとめ(授業内レポート)	予習	カードゲーム・ボードゲームの歴史を調べる
			復習	実践の振り返りをまとめる　総括

予習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題は確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う。発表に関しては講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　課題・実技・発表（70%）、授業態度【積極的参加】(30%)
教科書	
参考文献	『保育所保育指針』(厚生労働省、フレーベル館)　『幼稚園教育要領』(文部科学省、フレーベル館)
補足事項	「保育指導方法Ⅰ」「保育指導方法Ⅱ」の授業は実習や就職後の実践に役立つ継続した内容であることに留意し、履修すること

科　目　名	保育指導方法Ⅰ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12202	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	園生活のなかで、子どもの個と集団が共に育ちあうような保育を行っていくことが大切である。育つことが期待される心情、意欲、態度などが保育のねらいであり、それを達成するための保育の方法を学ぶ。授業を通して乳幼児の生活を支え、子どもの発達を保障する保育を展開できる保育者をめざすための指導方法について考え、身につけていく。
到達目標	１．保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。 ２．子どもを捉える視点を身につけ、個と集団が活かされる保育方法を理解している。 ３．遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　１．２　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション	予習	講義内容を読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第２回	内容	保育指導方法とは	予習	保育のねらいを調べる
			復習	保育指導方法についてまとめる
第３回	内容	事例①を通して保育方法を考える（グループワーク）	予習	保育方法の事例①を読む
			復習	グループワークをまとめる
第４回	内容	事例②③を通して保育方法を考える（グループワーク）	予習	保育方法の事例②③を読む
			復習	保育方法のあり方をまとめる
第５回	内容	生活する力を育む保育方法①事例検討（グループワーク）	予習	生活する力とは何かを考える
			復習	保育を捉える視点や様々な保育方法をまとめる
第６回	内容	保育の環境構成①事例検討（グループワーク）	予習	保育の環境を調べる
			復習	子どもに即した保育の環境をまとめる
第７回	内容	子どもの遊びと集団指導	予習	子どもの遊びと集団について調べる
			復習	子どもの遊びと集団指導についてまとめる
第８回	内容	計画に基づく保育の実践	予習	保育計画について調べる
			復習	教材研究の重要性についてまとめる
第９回	内容	5歳児の保育の実践①教材研究（グループワーク）	予習	教材研究の留意点を調べる
			復習	教材研究を行う
第10回	内容	5歳児の保育の実践②作業（グループワーク）	予習	グループ活動の意義を考える
			復習	グループワークでの意見をまとめる
第11回	内容	5歳児の保育の実践③作業・模擬保育（発表）準備（ICT活用）	予習	模擬保育を行うための準備をする
			復習	実践の振り返りをまとめる
第12回	内容	5歳児の保育の実践④模擬保育（発表）、まとめ	予習	今まで学んできたことを振り返る
			復習	まとめ課題を仕上げる
第13回	内容	3・4歳児の保育の実践①教材研究・模擬保育（グループワーク）	予習	教材研究や模擬保育を行うための準備をする
			復習	模擬保育を振り返り、指導案作成について調べる
第14回	内容	3・4歳児の保育の実践②指導案作成	予習	指導案を作成する
			復習	指導案の書き方を再度確認する
第15回	内容	3・4歳児の保育の実践③まとめ	予習	PDCAサイクルを確認する
			復習	実践の振り返りをまとめる

予習に要する学習時間：概ね　20分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。

課題へのフィードバック	発表後、講評を行う。課題返却後、説明をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度【積極的な取り組み】(30%)
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』
参考文献	『子どもの育ちを支え安全を守る幼稚園・保育所・施設実習』若井編著他　大学図書出版
補足事項	「保育指導方法Ⅰ」「保育指導方法Ⅱ」の授業は、実習での実践に向け継続した内容であることに留意し、履修すること

科　目　名	保育指導方法Ⅱ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12203	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	園生活のなかで、子どもの個と集団が共に育ちあうような保育を行っていくことが大切である。育つことが期待される心情、意欲、態度などが保育のねらいであり、それを達成するための保育の方法を学ぶ。授業を通して乳幼児の生活を支え、子どもの発達を保障する保育を展開できる保育者をめざすための指導方法について考え、実践力を身につけていく。
到達目標	１．子どもを捉える視点を身につけ、個と集団が活かされる保育方法を理解している。 ２．遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている。 ３．保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。 ４．子どもへの援助の仕方を身につけ、それを表現できる。
学位授与方針	幼児教育学科（　１．２　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション	予習	講義内容を読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第２回	内容	子どもを捉える視点	予習	子どもを捉える視点を考える
			復習	子どもを捉える視点をまとめる
第３回	内容	保育の計画について、指導案の書き方	予習	プリントを読んでくる
			復習	保育の計画と指導案の書き方を理解する
第４回	内容	子どもと保育者との関わりから捉える保育方法と計画－３歳児（グループワーク）	予習	３歳児の子どもの発達を確認する
			復習	活動内容をプリントにまとめる
第５回	内容	子どもと保育者との関わりから捉える保育方法と計画・実践－４歳児（グループワーク）	予習	４歳児の子どもの発達を確認する
			復習	活動内容をプリントにまとめる
第６回	内容	子どもと保育者との関わりから捉える保育方法と計画・実践－５歳児（グループワーク）	予習	５歳児の子どもの発達を確認する
			復習	活動内容をプリントにまとめる
第７回	内容	保育の計画と実践①教材研究（グループワーク）	予習	保育の計画について確認する
			復習	教材研究したものをまとめる
第８回	内容	保育の計画と実践②部分実習指導計画案	予習	教材研究をまとめたラフスケッチを作成する
			復習	指導案を完成させる
第９回	内容	保育の計画と実践③模擬保育（グループワーク・発表）解説	予習	模擬保育の準備をする
			復習	模擬保育の振り返りをする
第 10 回	内容	乳幼児の保育の実践①教材研究	予習	指導案の書き方を理解する
			復習	指導案作成し、仕上げる
第 11 回	内容	乳幼児の保育の実践②教材研究（グループワーク）	予習	教材研究・制作をする
			復習	教材研究・制作の進度を確認する
第 12 回	内容	乳幼児の保育の実践③制作（グループワーク）	予習	教材研究の進行状況を確認し、授業の見通しをもつ
			復習	教材研究をまとめる
第 13 回	内容	乳幼児の保育の実践④制作と計画（グループワーク）	予習	指導案の書き方について確認する
			復習	指導案を作成し、仕上げる
第 14 回	内容	乳幼児の保育の実践⑤模擬保育（発表）	予習	模擬保育の準備・イメージをする
			復習	模擬保育の評価をする
第 15 回	内容	保育の計画と実践、評価（グループワーク）	予習	PDCA サイクルを確認する
			復習	保育方法を総括する

予習に要する学習時間：概ね　15　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　50　分を目安とする。

課題へのフィードバック	発表後、講評を行う。課題作成後、解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度【積極的な取り組み】（30%）
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』
参考文献	『子どもの育ちを支え安全を守る幼稚園・保育所・施設実習』茗井編著他　大学図書出版
補足事項	「保育指導方法Ⅰ」「保育指導方法Ⅱ」の授業は、実習での実践に向けた継続した内容であることに留意し、履修すること

科　目　名	健康（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	きたほら　せいいち 北洞　誠一
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12204	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	健康の授業で勉強した幼稚園教育要領と保育所保育指針の理解を基礎として、教科書やいろいろな資料やビデオを参照しながら、健康の具体的な内容を考察し、現場での指導計画を作成し、現場での対処法を勉強する。
到達目標	１．　現場で求められる健康のねらいと内容を理解し、実践の考え方と方法を身につけている。 ２．　子どもの健康だけではなく、自分の健康について関心を持ち、自身を健康に保つ方法を理解している。 ３．　健康のメカニズムを理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　4,5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション。保育ビデオ（アリサ）鑑賞Ⅰ。	予習	シラバスを見て全体の流れを把握する。
			復習	さくらんぼ保育について調べる
第２回	内容	保育ビデオ（アリサ）鑑賞Ⅱ。	予習	さくらんぼ保育の保育環境について調べる
			復習	ビデオを見たレポートを提出する
第３回	内容	運動遊び動画鑑賞・運動遊びの指導計画解説	予習	教科書の指導計画のところを読んでくる
			復習	授業で扱った指導計画の構造をまとめる
第４回	内容	食育について	予習	教科書の食育のところを読む
			復習	授業内容をまとめる
第５回	内容	子どものからだと心実感調査資料の解説	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む
			復習	授業を受けてレポートを提出する
第６回	内容	子どものからだと心を考えるⅠ：すぐ疲れたと言うの中身	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む
			復習	授業を受けてレポートを提出する
第７回	内容	子どものからだと心を考えるⅡ：前頭葉の４つのタイプ	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む
			復習	授業を受けてレポートを提出する
第８回	内容	保育ビデオ（さくらんぼ坊や）鑑賞	予習	前半７回の授業を復習する
			復習	動画の感想のレポートを提出する
第９回	内容	食育について	予習	教科書の食育の部分を読む
			復習	授業内容をノートにまとめる
第 10 回	内容	アレルギーについて	予習	教科書のアレルギーの部分を読む
			復習	授業内容をノートにまとめる
第 11 回	内容	安全指導について	予習	教科書の安全指導に関する部分を読む
			復習	授業内容をノートにまとめる
第 12 回	内容	生活習慣と免疫について	予習	免疫について調べる
			復習	授業内容をノートにまとめる
第 13 回	内容	食と免疫について	予習	食と免疫力について調べる
			復習	授業内容をノートにまとめる
第 14 回	内容	コロナ禍の保育について考える	予習	コロナ禍の保育について調べる
			復習	授業内容をノートにまとめる
第 15 回	内容	映画（ベイビーズ）鑑賞	予習	世界の子育てについて調べる
			復習	映画の感想レポートを提出する

予習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。

課題へのフィードバック	Google classroom の課題レポート提出に対してコメントをフィードバックする
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　30　%）、レポート・課題（　60　%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【積極性】(10%)
教科書	「乳幼児の健康」(茗井香保里・宮下恭子・平山素子編、大学図書出版)
参考文献	「限界を超える子どもたち――脳・身体・障害への新たなアプローチ」 2018、太郎次郎社エディタス
補足事項	資料は Google classroom にアップする。筆記試験やレポート・課題は Google classroom で提出する。予習や復習で、自主的にインターネット等を活用して不明な点を調べること。

科　目　名	人間関係（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12205	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、子どもの姿と保育実践とを関連づけて理解を深める。具体的な保育の構想と実践方法を身につける。
到達目標	１．幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解している。 ２．保育所保育指針に示された領域「人間関係」の１歳以上３歳未満児に関わるねらい及び内容を理解している。 ３．幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　１．２．３．５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション 領域「人間関係」について①全体像を理解する	予習	講義内容を読んでおく
			復習	領域「人間関係」の全体像をまとめる
第２回	内容	領域「人間関係」②３歳以上児のねらいと内容	予習	領域「人間関係」のねらいと内容を読んでおく
			復習	領域「人間関係」のねらいと内容を理解する
第３回	内容	領域「人間関係」③乳児保育、１歳以上３歳未満児のねらいと内容	予習	１歳以上３歳未満児の領域「人間関係」を読む
			復習	小テストの内容（範囲）を理解する
第４回	内容	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿、育みたい資質・能力について	予習	幼稚園教育要領第１章第２を読み、内容を確認しておく
			復習	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿の人間関係に関する内容をまとめる
第５回	内容	子どもの自立・仲間関係の育ちと援助（ICT 活用）	予習	子どもの人間関係の発達を確認する
			復習	事例を通して援助方法を考える
第６回	内容	遊びのなかで育つ人間関係（事例検討）①仲間関係の形成（ICT 活用）	予習	子どもの発達を調べておく
			復習	事例を理解し、まとめる
第７回	内容	遊びのなかで育つ人間関係（事例検討）②自己抑制（グループワーク）	予習	３・４歳児の発達を調べておく
			復習	事例①を理解し、まとめる
第８回	内容	遊びのなかで育つ人間関係（事例検討）③自己主張、思いやり（グループワーク）	予習	５・６歳児の発達を調べておく
			復習	事例②③を理解し、まとめる
第９回	内容	遊びのなかで育つ人間関係（事例検討）④いざこざ場面における援助（幼児）（ICT 活用）	予習	事例プリントを読む
			復習	保育者の子どもへの関わりを確認する
第 10 回	内容	個と集団の相即的発展①活動内容・指導案作成（教材研究）	予習	PDCA サイクルを理解する
			復習	教材研究をする①
第 11 回	内容	個と集団の相即的発展②指導案作成	予習	教材研究をする②
			復習	指導案を作成する
第 12 回	内容	個と集団の相即的発展③模擬保育（グループワーク・発表）	予習	指導案を仕上げる
			復習	模擬保育の反省、振り返りをする
第 13 回	内容	個と集団の相即的発展④振り返り（ディスカッション）	予習	PDCA サイクルを再確認する
			復習	グループの意見をまとめる
第 14 回	内容	個と集団の早々的発展⑤改善・まとめ、幼保・小の連携活動と小学校以降の生活や学習で活かされる力	予習	幼保小の連携を考える
			復習	個と集団の相即的発展を理解し、まとめる
第 15 回	内容	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ（ICT 活用）	予習	幼児期の「人間関係」の課題を考える
			復習	「人間関係」をめぐる問題をまとめる

予習に要する学習時間：概ね　20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題に対して添削・解説を行う。また、発表に対しては講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（40%）、小テスト（30%）発表（10%）、授業態度【積極的参加】（20%）
教科書	『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
参考文献	なし
補足事項	

科目名	環境（指導法）	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	なかむら　よういち 中村　陽一
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12206	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	「環境」で学んだ、幼児と環境とかかわりに関する学びと、幼稚園教育実習（前期）の体験の上に、実例に基づき、領域「環境」の「目的」「ねらい」「内容」の理解を深める。さらに、領域「環境」にかかわる具体的な指導場面を想定した指導方法を身につける。課題に応じて、グループを作り討論や発表を行う。
到達目標	1.「幼稚園教育要領」に示された「環境を通した保育」の意義と、保育者に求められる援助について、具体的指導法を示すことができる。 2.「環境を通した保育」の意義と、保育者の援助について、具体例を挙げて自分の考えを述べることができる。 3. 領域「環境」に関わる幼児の自然体験や社会体験と、小学校教育の生活科への連続性について理解している。 4.子どもの自然体験を深めるための、子どもの発達を見据えた長期的計画の重要性を理解しており、大まかな計画を示すことが出来る。
学位授与方針	幼児教育学科（1.2.3.4.5）地域保育学科（　）文化表現学科（　）

授業計画					
	第１回	内容	保育と環境－「環境を通して行う保育」の特質、子どもの発達と環境との関わり。「環境」の復習。	予習	幼稚園教育要領 保育内容「環境」を読む。
				復習	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を確認。
	第２回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（保育室）。 グループ討論と発表。	予習	教科書９ｐの演習課題１
				復習	グループ討論のまとめ。
	第３回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（園舎）。 グループ討論と発表。	予習	教科書 25ｐの演習課題２
				復習	グループ討論のまとめ。
	第４回	内容	子どもの生活と物的環境②－保育の環境構成（園庭）。 グループ討論と発表。	予習	教科書 41ｐの演習課題１
				復習	グループ討論のまとめ。
	第５回	内容	子どもの生活と自然環境①－子どもを取り巻く自然環境 グループ討論と発表。	予習	教科書 59ｐの演習課題１
				復習	グルーオプ討論のまとめ。
	第６回	内容	子どもの生活と自然環境②－季節感と取り入れた保育 グループ討論と発表。	予習	教科書 59ｐの演習課題３
				復習	グループ討論のまとめ。
	第７回	内容	子どもの生活と自然環境③－飼育動物の特徴と配慮 グループ討論と発表。	予習	実習で体験した動物飼育についてまとめる。
				復習	グループ討論のまとめ。
	第８回	内容	子どもの生活と自然環境④－栽培植物の特徴と配慮 グループ討論と発表。	予習	教科書 41ｐの演習課題２
				復習	グループ討論のまとめ。
	第９回	内容	子どもの生活と社会①－施設との関わり グループ討論と発表。	予習	教科書 75ｐの演習課題３
				復習	グループ討論のまとめ。
	第 10 回	内容	子どもの生活と社会環境②－伝統的な行事との関わり グループ討論と発表。	予習	教科書 75ｐの演習課題２
				復習	グループ討論のまとめ。
	第 11 回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と数 グループ討論と発表。	予習	実習で体験した子どもの数体験について。
				復習	グループ討論のまとめ。
	第 12 回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と文字 グループ討論と発表。	予習	教科書 91ｐの演習課題１
				復習	グループ討論のまとめ。
	第 13 回	内容	数量や文字に関する取り扱い②－小学校教育とのつながり グループ討論と発表。	予習	教科書 75ｐの演習課題３
				復習	グループ討論のまとめ。
	第 14 回	内容	小学校教育への連続性－「環境」と「生活科」「総合学習」 グループ討論と発表。	予習	教科書 109ｐの演習課題１
				復習	グループ討論のまとめ。
	第 15 回	内容	授業の振り返りとまとめ。 グループ討論と発表	予習	教科書 109ｐの演習課題２
				復習	グループ討論のまとめ。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題に対するフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（80%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加等】（20%）
教科書	『保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領/幼稚園教育要領』（文部科学省・厚生労働省・内閣府、チャイルド本社） 『コンパス 保育内容 環境』（高橋貴志・目良秋子編、建帛社）
参考文献	なし
注意事項	保育者としての自覚と問題意識を持って授業に臨むこと。
補足事項	必要に応じて、授業の終わりに小レポートを提出する。

科目名	言葉（指導法）	単位数	1	授業時間数		担当教員	はしもと ちづる 橋本 千鶴
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12207	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（ ）
授業の内容	乳幼児の言葉の発達過程や、「幼稚園教育要領」などに記されている領域「言葉」のねらいや内容、言葉の育ちにかかわる問題等について理解し、将来の保育者として、適切なかかわり、援助、環境構成ができるようにする。また、言葉を豊かに育てる児童文化財について実践的に学び、保育者として必要な知識や技能の習得を図る。
到達目標	１．乳幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行われる言葉の指導の内容的・方法的特質を理解している。 ２．「幼稚園教育要領」などに記されている領域「言葉」のねらいや内容、保育実戦での展開方法を理解している。 ３．乳幼児期の言葉の発達や、言葉の育ちにかかわる諸問題について説明できる。 ４．言葉を育てる児童文化財について積極的に学び、将来の保育者として必要な知識や技術を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（ 2，3，5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション「言葉（指導法）」について・素話	予習	シラバスを読んで、授業内容を把握しておく。
			復習	自分が発表する素話を決めて、発表に向けて練習を進める。
第２回	内容	子どもの言葉の発達①（新生児）（グループディスカッション）	予習	身近にいる乳幼児の言葉に耳を傾け、記録する習慣をつける。
			復習	新生児のコミュニケーション能力について、参考文献、プリント等を読み返し、理解を深める。
第３回	内容	子どもの言葉の発達②（0～１歳期）（グループディスカッション）	予習	身近にいる乳幼児の言葉に耳を傾け、記録する習慣をつける。
			復習	0～1 歳期の言葉の発達について、参考文献、プリント等を読み返し、理解を深める。
第４回	内容	子どもの言葉の発達③（2～5 歳期）（グループディスカッション）	予習	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」を読んで、重要な箇所に線を引いておく。
			復習	2～5 歳期の言葉の発達について、参考文献、プリント等を読み返し、理解を深める。
第５回	内容	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」のねらいや内容について（ペアワーク、ロールプレイング）	予習	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」を読み進める。
			復習	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」を読み深め、要点をノートにまとめておく。
第６回	内容	模擬保育①素話の発表（グループワーク、発表、相互評価）	予習	素話を覚えて、3 分以内で発表できるように準備しておく。
			復習	素話の発表を参考に、よりよい語り方を取り入れ、さらに素話の練習を継続しておく。
第７回	内容	絵本の歴史・昔話（グループワーク）	予習	絵本を数冊読んでおく。
			復習	自分が知らなかった昔話を読み進める。
第８回	内容	模擬保育②絵本の読み聞かせ（グループワーク、発表、相互評価）	予習	絵本の読み聞かせの練習をしておく。
			復習	絵本の読み聞かせの模擬保育について振り返り、課題や改善点をノートにまとめておく。
第９回	内容	紙芝居の歴史・演じ方（グループワーク）	予習	紙芝居について調べ、演じ方のイメージをもって臨む。
			復習	授業で学んだことを参考に、紙芝居の演じ方の留意事項をまとめておく。
第 10 回	内容	模擬保育③紙芝居の演じ方（グループワーク、発表、相互評価）	予習	紙芝居の演じ方の練習をしておく。
			復習	紙芝居の演じ方の模擬保育について振り返り、課題や改善点をノートにまとめておく。
第 11 回	内容	子どもと楽しむ言葉遊びの実践（指導案作成）	予習	子どもと楽しむ言葉遊びについて、どのような活動ができるか考えて、ノートにまとめておく。
			復習	子どもと楽しむ言葉遊びの指導案を作成する。
第 12 回	内容	模擬保育④子どもと楽しむ言葉遊びの実践（グループワーク、発表、相互評価）	予習	指導案をもとに、言葉遊びの実践の練習をしておく。
			復習	子どもと楽しむ言葉遊びの模擬保育について振り返り、課題や改善点を確かめ、よりよい指導案に練り上げておく。
第 13 回	内容	模擬保育⑤人形劇の演じ方（グループワーク）	予習	さまざまな人形劇について調べ、それぞれの特色をノートにまとめておく。
			復習	人形劇の演じ方について振り返り、その特色や留意点をノートにまとめておく。
第 14 回	内容	言葉の育ちにかかわる問題（グループディスカッション）	予習	言葉の育ちにかかわる問題にはどのようなものがあるか調べ、ノートにまとめておく。
			復習	本時で学んだことをもとに、さらに乳幼児の言葉に関心をもって聞くように心がけ、必要に応じて記録する習慣をつける。
第 15 回	内容	オノマトペ・授業全体のまとめ	予習	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」、配布資料などを読み返し、これまでの授業内容を復習しておく。
			復習	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」を読み深め、今後の実習で学びたい目標、ねらいの形でまとめる。

予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。

課題へのフィードバック	各授業回で提出されたリアクションペーパー（実技の振り返りを含む）や指導案についてはその都度評価し、次の授業回で講評、解説を行って返却する。実技については、授業内に講評したり、学生同士による相互評価をしたりし、自ら課題が確認できるようにする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　まとめのレポート（４０％）、各授業回のレポート・課題（４０％）、授業態度【積極的参加・実技】（２０％）
教科書	『書名』（著者名、出版社名） なし（授業時にプリントを配布する）
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）　『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館）　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館）　他授業内で紹介
補足事項	保育者になる自覚をもちながら、積極的に講義、実技に取り組んでほしい。

科　目　名	言葉（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	いざわ　えいしゅう 伊澤　永 修
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12207	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授　業　の 内　　容	領域「言葉」のねらいと内容についての理解を深め、言葉の発達と特徴を事例や映像を通して理解する。その上で、乳幼児の発達過程に合わせた保育を構築できるように児童文化財などの保育教材などへの理解を深め保育への取り入れ方などを理解するために、演じ合いやグループディスカッションを行う。
到 達 目 標	１．　領域「言葉」のねらい及び内容を理解している ２．　児童文化財などの保育教材を理解し、保育内容に活用することができる ３．　子どものことばの育ちを支える指導計画が作成できる
学位授与方針	幼児教育学科（　１、２、５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第１回	内容	オリエンテーションオリエンテーション 領域「言葉」について習いと内容を含め理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
				復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
	第２回	内容	０から２歳児における「言葉」に関するねらい及び内容について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
				復習	配付資料をもとに解説された内容を振り返り子どものことばの発達に対する理解を深める
	第３回	内容	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「言葉」との関連について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込み前回の授業の振り返りを行う
				復習	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」一つひとつと領域「言葉」との関連についてのまとめを行う
	第４回	内容	領域「言葉」と他領域との関係について理解する 言葉とコミュニケーションの発達（1）	予習	これまでの学びを通して保育の基本についてまとめておく
				復習	言葉とコミュニケーションの発達のまとめを行い整理する
	第５回	内容	言葉とコミュニケーションの発達（2）	予習	前回の授業内容を確認する
				復習	言葉とコミュニケーションの発達のまとめを行い整理する
	第６回	内容	言葉とコミュニケーションの発達（3）	予習	前回までの授業内容を確認する
				復習	言葉とコミュニケーションの発達のまとめを行い整理する
	第７回	内容	言葉に関する事例をもとにグループディスカッションを通して理解を深める	予習	年齢に合わせた言葉に関する援助の仕方について整理しておく
				復習	年齢に合わせた言葉に関わる援助の仕方についてまとめる
	第８回	内容	カリキュラムマネジメントについて理解する 児童文化財・絵本についての理解を深める	予習	絵本について調べておく
				復習	カリキュラムマネジメントと教材研究の方法についてまとめる
	第９回	内容	絵本の読み聞かせの効果や年齢に即した絵本について理解する	予習	子どもの言葉の発達過程について確認しておく
				復習	絵本の特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる
	第 10 回	内容	絵本紹介のグループ内発表及びグループディスカッショを通して絵本への理解を深める	予習	絵本の回の授業を振り返り絵本についての理解を深めておく
				復習	絵本の特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる
	第 11 回	内容	お話とお話の魅力	予習	お話やお話の魅力について考えておく
				復習	お話の子どもたちへの影響についてまとめる
	第 12 回	内容	言葉遊びと言葉遊びの魅力	予習	子どもと楽しめる言葉遊びを考えておく
				復習	言葉遊びの特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる
	第 13 回	内容	グループ内での素話の実演とグループディスカッションを通して素話についての理解を深める	予習	素話について調べておく
				復習	素話を保育にどのように取り入れるかについて自分なりにまとめる
	第 14 回	内容	児童文化財・パネルシアターの理解と絵人形の作り方	予習	パネルシアターについて調べておく
				復習	パネルシアターの特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる
	第 15 回	内容	子どものことばの育ち（話し言葉の世界からから書き言葉の世界へ）の理解と総まとめ	予習	当該授業の振り返りをしておく
				復習	当該授業で学んだ事をどのように保育に活かしていくかについての総まとめを行う
	予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。				

課題へのフィードバック	提出物を評価し、返却時に解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（６０%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【参加度合】（４０%）

教科書	『事例で学ぶ保育内容』　無藤隆監修　萌文書林　**※１年次に購入済**
参考文献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
補足事項	

科　目　名	造形表現（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	おぐち　すぐる 小口　偉
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12208	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授　業　の 内　　容	乳幼児期の造形的表現方法は、発達段階を踏まえ、適切な素材提供をすることが、活動に広がりと奥行きをもたらす。子どもの活動をもとにした活動体験をすることから、「素材、道具について」の造形的側面と、「乳幼児の表現活動について」の心身の発達における側面から、造形を通した表現について関心、理解を深める。
到 達 目 標	１．子どもの造形表現の意義を理解している。 ２．年齢やクラス編成ごとに変化する活動内容に応じた環境づくりができる。 ３．子どもと活動が楽しめる技術、視点、方法を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　1,2,3,5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	素材体験１ 紙について 質感で遊ぶ	予習	参考書等の紙の活動に関することを読み込む
			復習	身近な紙の触り心地を確かめておく
第２回	内容	素材体験２ グループワーク 紙について２ 空間を使って遊ぶ	予習	遊ぶこととは何かノートに書き出し持参する。
			復習	体験を通して空間を使って遊ぶこととは何か自分なりに考え、まとめる。
第３回	内容	素材体験３ クレヨン、パスについて理解する	予習	参考書等のクレヨン、パスに関する項目を読み込む。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第４回	内容	素材体験４ グループワーク　粘土に触る	予習	参考書等の粘土に関する記述について読む。
			復習	体験内容をノートにまとめる。
第５回	内容	素材体験５ グループワーク　シート系素材を理解する	予習	参考書等のハサミに関する記述について、ノートにまとめ持参する。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第６回	内容	道具体験１ 道具を理解する　ハサミについて	予習	参考書等のステープラーに関する記述について、ノートにまとめ持参する。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第７回	内容	道具体験２ 道具を理解する　ステープラーについて	予習	参考書等の接着に関する記述について読み込み、ノートにまとめ持参する。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第８回	内容	応用１ 構成遊びについて１ 色画用紙を使った構成遊び制作を体験する	予習	構成遊びについて調べる。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第９回	内容	応用２ 構成遊びについて２ 与えられたきっかけから画面構成をする１	予習	構成遊びについて調べる。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第 10 回	内容	応用３ 構成遊びについて３ 与えられたきっかけから画面構成をする２（発表）	予習	構成遊びについて調べ、まとめたノートを持参する。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第 11 回	内容	応用４ 様々な技法遊び デカルコマニー/スクラッチの制作体験をする	予習	技法遊びについて５つの種類とその方法を調べ、まとめたものを持参する。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第 12 回	内容	立体の扱いについて「紙立体」 合同制作と共同制作を体験する	予習	参考書の紙立体に関する記述について、ノートにまとめ持参する。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第 13 回	内容	生活素材を使った制作を体験する	予習	造形素材として使用できる可能性のあるものを集めておく。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第 14 回	内容	工作体験をする「動きを楽しむ紙工作」	予習	参考書の紙工作に関する記述について読み込み、ノートにまとめ持参する
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第 15 回	内容	振り返り　ドキュメンテーション作成をする	予習	ドキュメンテーションについて調べ、まとめたノートを持参する。(60 分)
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。

予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。

課題へのフィードバック	各提出課題に対し採点をする。返却の際に保育現場においての実践方法や、注意点を伝える。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　%)、レポート・課題（２０%)、作品・発表（４０%)、実技（　　%)、授業態度【積極的な取り組み】(４０%)
教科書	『遊んで育て！表現の力−保育で使える活動例と指導法−』(塩崎みづほ 長谷川恭子 小口偉、推敲舎)
補足事項	作品の出来映えは重視しません。積極的に取り組むこと。 ※ 作品制作に関わる道具、材料費は個人負担です。(1,200 円を徴収します。)

科　目　名	音楽・身体表現（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しおざき　はせがわ 塩崎・長谷川
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12209	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	保育内容の各領域を総合的にとらえ表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。体の動き、音・リズムを工夫し、豊かな感性を育み、自らのイメージを広げて表現する楽しさについて理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。また、ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。
到達目標	１．幼児の心情、認識、思考、動きなどを視野にいれた保育の構想の重要性を理解している。 ２．領域「表現」及び音楽・身体表現の特性と幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができている。 ３．指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができている。 ４．模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ５．音楽・身体表現の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができている
学位授与方針	幼児教育学科（１・２・５）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	本授業の概要 音楽・身体表現のねらい、および内容について乳幼児期の発達を踏まえて理解する	予習	テキストの指導篇を読んでくる。
			復習	模擬保育で行いたい内容について決めてくる
第２回	内容	指導案作成の構造を理解し、身体表現活動におけるねらいについて考え、具体的な題材について検討し、指導実践法について研究する。	予習	行いたい活動内容についての指導の流れを考えてくる
			復習	指導案を完成させる。
第３回	内容	豊かな感性を育み、イメージが広がり、工夫した動きを引き出す言葉がけ・問いかけについて理解し、具体的な保育を想定した指導場面での活用について考える。	予習	指導案を見ながら言葉かけについて考える
			復習	指導の言葉かけシートを書き上げてくる
第４回	内容	保育活動における保育者の動き、言葉かけ、太鼓の叩き方などについて実践的に学ぶ。	予習	模擬保育で使用する準備物などを用意する
			復習	実際の保育活動をイメージしてリハーサルを行う
第５回	内容	生活を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	指導のリハーサルを行う
			復習	指導実践後の振り返りを Google フォームへ記入する。
第６回	内容	絵本や架空の世界を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	身体表現遊びで活用できる絵本を探す
			復習	本時の指導実践の振り返りをフォームに記入する。
第７回	内容	自然を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	自然を題材にした活動について考えてくる
			復習	本時の指導実践の振り返りをノートにまとめる
第８回	内容	身体表現遊びの意義についてグループディスカッションし、指導法において重要な点についてまとめる	予習	身体表現遊びの意義について自分なりの考えをノートにまとめる
			復習	指導法についてフォームへまとめ、提出する
第９回	内容	音楽教育の理論および保育における音楽指導の基礎を学び、その意義について理解を深める。	予習	1 年後期の授業のプリントを読んでくる
			復習	本時の内容をノートにまとめ、保育における音楽表現の重要性について記述する
第 10 回	内容	音楽指導におけるねらいの観点を理解し、達成するための指導方法を学ぶ。	予習	音楽指導の意義をふまえ、どのようなねらいが設定できるか調べる
			復習	本時の内容をノートにまとめ、音楽活動を想定してねらいを立ててみる
第 11 回	内容	音楽教育の意義と音楽指導のねらいをふまえ、幼児期の発達段階をふまえた指導を計画し、指導案を作成する。	予習	幼児期の発達段階について理解し、各年齢に即した題材を考える
			復習	指導案を完成させ、シミュレーションをする
第 12 回	内容	指導案をもとに 3 歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	3 歳児の音楽表現について理解しておく
			復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、3 歳児の音楽指導案をノートにまとめる
第 13 回	内容	指導案をもとに 4 歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	4 歳児の音楽表現について理解しておく
			復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、4 歳児の音楽指導案をノートにまとめる
第 14 回	内容	指導案をもとに 5 歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	5 歳児の音楽表現について理解しておく
			復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、5 歳児の音楽指導案をノートにまとめる
第 15 回	内容	歌唱による鑑賞活動の模擬保育を行い、子どもに音楽表現	予習	子どもの各年齢に適した歌唱による鑑賞教材を検討し、提示の仕方を考える

			を伝える技術について検討する。	復習	模擬保育をふまえ、子どもへの歌唱表現の提示法の要点をノートにまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	課題返却時に評価及び課題点を記入する。 模擬保育については、仲間からの評価、教員からの評価を担当学生へフィードバックする。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　%）、レポート・課題（40%）、発表（40%）、実技（10%）、授業態度【積極的参加、協働的な取り組み】（10%）				
教科書	『遊んで育て！表現の力―保育で使える活動例と指導法』（塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎） 『乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび　からだとこころを育む指導法』　（宮下恭子編著、大学図書出版）				
参考文献					
補足事項	身体表現の授業では、原則学校指定のジャージを着用して出席すること。 塩崎：15 回、長谷川：15 回 身体表現模擬保育ルーブリック評価表　https://drive.google.com/file/d/1XLgVxc8nPOU-dxn_qRdFrkw9EYsOOufK/view?usp=sharing 音楽表現模擬保育ルーブリック評価表　https://drive.google.com/drive/u/2/folders/1aQuPrNHfCJ1rIUpOOE9ENDyXsQUwr2iO				

科　目　名	幼児の運動遊び	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しおざき 塩崎　みづほ
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12210	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	子どもの生活は遊びが中心にあるといわれ、遊びによって成長し、生きていくのに必要なことを真似し学んでいきます。本講義では、子どもの発育発達の特徴を理解し、それに即した運動遊びについて学び、指導法についても実践的に学びます。そこでは、グループで決めた題材を用いて、模擬保育を実践します。さらに ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。
到 達 目 標	1. 子どもの発育発達に応じた運動遊びの意義とその内容を理解している。 2. 運動遊びの指導に必要な、ねらい、指導案の記入法、指導法について理解している。 3. 幼児教育者として自ら動ける身体づくりと、体力の維持・向上に努める力を習得している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1・2・5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第１回	内容	講義：履修上の注意事項 乳幼児期の運動遊びの意義	予習	シラバスを見て質問等を考える
				復習	運動遊びの意義について自分の考えをまとめる
	第２回	内容	鬼ごっこについて考えよう	予習	鬼ごっこの種類とルールをあげる
				復習	鬼ごっこの意義とルールをまとめる
	第３回	内容	米袋を使った遊び、身近なものを使った遊び	予習	本時に使用する米袋を作成する
				復習	米袋や身近なものを使った遊びを、年齢ごとにまとめる
	第４回	内容	フープを使った遊び	予習	フープの特性について教科書を読み考えてくる
				復習	本時の活動を年齢ごとにまとめる
	第５回	内容	縄を使った遊び	予習	縄の特性について考えてくる
				復習	本時の活動を年齢ごとにノートにまとめる
	第６回	内容	ボールを使った遊び、レクリエーションの企画	予習	ボールの特性について読み深める
				復習	ボール遊びの意義についてまとめる
	第７回	内容	親子の運動遊びの意義と内容について考える	予習	親子の運動遊びの内容を調べたり、考えてくる
				復習	親子の運動遊びの意義についてまとめる
	第８回	内容	親子の運動遊びの実践	予習	親子の運動遊びの実践の準備をする
				復習	実践後の振り返りレポートを作成する
	第９回	内容	講義：運動遊びの指導について、指導案の書き方	予習	指示された箇所の教科書を読んでくる
				復習	指導案の書き方を復習する
	第 10 回	内容	模擬保育の実践とグループディスカッション① マットを使った遊び・ボールを使った遊び	予習	マット遊び、ボール遊びの特性と指導法について復習する
				復習	本時の授業内容、講評をノートに記入する
	第 11 回	内容	模擬保育の実践とグループディスカッション② 身近な用具を使った遊び・縄遊び	予習	身近なものを使った遊びや縄遊びの特性と指導法について復習する。
				復習	本時の授業内容、講評をノートに記入する
	第 12 回	内容	行事の企画と実践に向けての準備	予習	運動会の種目を考え、決められた課題に取り組む
				復習	自分の担当種目についてまとめる
	第 13 回	内容	行事のリハーサル	予習	行事の活動内容を把握し、言葉かけを考えてくる
				復習	リハーサルを振り返り改善点を考える
	第 14 回	内容	行事実践	予習	実践の準備
				復習	本時の実践の振り返りをする
	第 15 回	内容	まとめ　運動遊びの指導と行事の企画を通して学んだことについて振り返る	予習	指導を行ってきたレポート課題を仕上げる
				復習	本時のグループ討議を踏まえ考察をノートにまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	振り返りを Google フォームなどで行いその時間内もしくは、次の時間において共有する。 模擬保育についての講評は、個人へのフィードバックと全体へのフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　課題（40%）、作品（10%）、発表（20%）実技（20%）、授業態度【積極的参加、服装】(10%)
教科書	『乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび　からだとこころを育む指導法』(宮下恭子他編著、大学図書出版)
参考文献	
補足事項	実技の際は、指定のジャージを着用のこと。 実技のため、受講者数は 50 名までとします。

科　目　名	幼児の音楽遊び	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	はせがわ　きょうこ 長谷川　恭子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12212	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	領域「表現」に含まれる音楽表現の意義を理解し、乳幼児の感性や創造性を豊かにするために、音や音楽の表現について実践的に学ぶ。具体的には、音や音楽を伴う活動や遊びを体験したり、器楽や歌唱の演奏を楽しんだりすることで、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。
到達目標	１．聴く・動く・演奏するなどの様々な表現を体験することを通して、イメージを豊かにすることができている。 ２．生活の中の音環境を、様々な素材を生かして表現することができる。 ３．音を感じたり音楽を表現したりするにあたり、積極的に活動に取り組み、企画に参加することができる。 ４．他者の表現や意見を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　2、3、5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション：音や音楽を楽しむことを考える	予習	領域「表現」を読んでくる。
			復習	本時の内容について記録し、考察する。
第２回	内容	音探しの旅１：身体で音を感じる	予習	身体から出る音について考えてくる。
			復習	本時の内容について記録し、考察する。
第３回	内容	音探しの旅２：身の回りの音の音質を捉える（グループワーク）	予習	グループワークの内容を確認し、活動の趣旨を理解してくる。
			復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。
第４回	内容	声によるアンサンブルの楽しみ：子どもができる声のアンサンブルをする　合唱	予習	歌の練習をする。
			復習	活動を振り返り、活動の意義を記録し、考察する。
第５回	内容	音楽を使った遊び１：楽器を使って音を楽しむ　楽器から出る音に注目し、響きを楽しむ	予習	一般的に保育で使われている楽器の奏法を確認しておく。
			復習	活動を振り返り、保育への応用を記録し、考察する。
第６回	内容	音楽を使った遊び２：手作り楽器でアンサンブルを作る（グループワーク）	予習	グループワークの内容を確認し、活動に必要なものを考えて用意する。
			復習	活動の振り返を記録にし、授業で行った内容を整理する。
第７回	内容	音楽を使った遊び３：歌を伴う遊びを経験する	予習	歌の練習をする。
			復習	活動の振り返を記録にし、授業で行った遊びを覚える。
第８回	内容	わらべうたによる保育の実際（外部講師）	予習	これまでに学習した幼児のわらべうたについて復習しておく。
			復習	授業を振り返り、学んだことを記録し、考察する。
第９回	内容	音楽表現の基礎１：発表の企画（グループワーク）	予習	どのような発表ができるか考える。
			復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。
第 10 回	内容	音楽表現の基礎２：発表の練習（グループワーク）	予習	発表の内容を練習する。
			復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。
第 11 回	内容	音楽表現の基礎３：発表のリハーサル（グループワーク）	予習	前時の反省をふまえ、発表の内容を練習する。
			復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。
第 12 回	内容	音楽表現の応用１：発表内容の再検討（グループワーク）	予習	前時の反省をふまえ、改善点を考える。
			復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。
第 13 回	内容	音楽表現の応用２：発表	予習	発表に向けて練習する。
			復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。
第 14 回	内容	音楽表現の応用３：発表をふまえての振り返り（討議）	予習	発表に関わる回のノートを確認し、グループ討議の準備をする。
			復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。
第 15 回	内容	まとめ：授業をふまえて、音を楽しむとはどういうことかを考える（討議）	予習	これまでの活動についてノートを確認し、音楽表現の楽しさについてまとめておく。
			復習	保育における音楽表現の意義について考え、記録し、考察する。

予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題の提出時は、コメントを記入し返却する。 発表後は、講評を行う。

成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（20%）、作品・発表（30%）、実技（20%）、授業態度【積極的な参加】（30%）
教科書	授業時にプリントを配布する。ファイリングできるようにしておくこと。
参考文献	
補足事項	出欠も評価の対象とする。動きやすさや作業しやすさを考慮した服装で出席すること。30 名程度の定員とする。

科　目　名	健　康	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	ひらやま　きたほら 平山・北洞
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12102	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	子どもにとって健康とは何かを教科書と資料から理解する。また幼稚園教育要領と保育所保育指針を参照して、健康のねらいと内容を学び、子どもの健康を現場でどのように確保促進していくかを理解する。
到達目標	１．　健康とは何かを理解している。 ２．　幼稚園教育要領と保育所保育指針の領域健康のねらいと内容を理解している。 ３．　年齢別の領域健康のねらいと内容の違いを理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　4,5　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション。幼稚園と保育園の違い：歴史、役割	予習	シラバスを読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第２回	内容	第１章乳幼児の保育に必要な「健康」についての理解 ❶心身の発育や発達から理解する健康	予習	教科書の第１章❶を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第３回	内容	第１章乳幼児の保育に必要な「健康」についての理解 ❷乳幼児の心身の健康を守る取り組み	予習	教科書の第１章❷を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第４回	内容	第１章乳幼児の保育に必要な「健康」についての理解 ❸健康な生活を守る安全への取り組み	予習	教科書の第１章❷を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第５回	内容	第２章乳幼児教育・保育のための「健康」の取り扱い ❶「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」から考える健康	予習	教科書の第２章❶を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第６回	内容	第２章乳幼児教育・保育のための「健康」の取り扱い ❷幼稚園教育容量、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育女保育指針における健康の指導	予習	教科書の第２章❷を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第７回	内容	第２章乳幼児教育・保育のための「健康」の取り扱い ❸健康の「ねらい」とは～年齢区分によるねらい～	予習	教科書の第２章❸を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第８回	内容	第２章乳幼児教育・保育のための「健康」の取り扱い ❹ねらいを達成するための内容と指導計画	予習	教科書の第２章❹を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第９回	内容	第３章乳幼児教育・保育のための「食と生活」の取り組み ❶食と健康～食育の推進～	予習	教科書の第３章❶を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第 10 回	内容	第３章乳幼児教育・保育のための「食と生活」の取り組み ❷生活と健康～基本的生活習慣の確立を目指して～	予習	教科書の第３章❷を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第 11 回	内容	第４章保育実践に生かす子どもの活動と指導・援助 ❶運動あそびの指導計画	予習	教科書の第４章❶を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第 12 回	内容	第４章保育実践に生かす子どもの活動と指導・援助 ❷総合的な活動	予習	教科書の第４章❷を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第 13 回	内容	第４章保育実践に生かす子どもの活動と指導・援助 ❸安全な生活のための活動計画	予習	教科書の第４章❸を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第 14 回	内容	第５章「健康」をめぐる今日の課題 ❶子どもの健康をめぐる現代的課題	予習	教科書の第５章❶を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする
第 15 回	内容	第５章「健康」をめぐる今日の課題 ❷幼保小架け橋期の連続した発展 ❸保護者・地域社会との連携や支援 ❹予測不能な社会に生きる	予習	教科書の第５章❷❸❹を読んでくる
			復習	Google classroom にアップされた資料を読んで復習をする

予習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題は Google クラスルームの Google ドキュメントで提出し、その評価とコメントでフィードバックする

成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（20%）、レポート・課題（70%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【　積極性　】(10%)
教科書	『書名』(著者名、出版社名) 「乳幼児の健康～教育・保育に向けた計画と実践～」（宮下恭子・茗井香保里・平山素子編、大学図書出版）
参考文献	『書名』(著者名、出版社名) 「限界を超える子どもたちー脳・身体・障害への新たなアプローチ」(アナット・バニエル、太郎次郎社エディダス)
補足事項	成績評価の筆記試験はとレポート・課題はGoogle classroomで行います。リモート授業アプリのGoogle classroomを使える環境を整えること。 予定は予告なく変更することがあり、保育ビデオや現場の保育場面の動画を鑑賞する時間を適宜入れていく。 平山５回、北洞10回

科　目　名	人間関係	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12103	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。領域「人間関係」の指導基盤となる基礎理論として関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係のなかで人と関わる力が育つことを理解する。
到達目標	１．幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解している。 ２．園生活における幼児期の人間関係の発達について理解している。 ３．遊びのなかで育つ人との関わりの発達について、乳幼児との関係、保育者との関係、集団のなかでの育ちを観点として説明できる。 ４．自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、それぞれの育ちについて子どもの発達の姿と合わせて説明できる。
学位授与方針	幼児教育学科（　１．２．３．５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション、現代社会と幼児の人間関係①幼児期の生活経験（グループワーク）	予習	講義内容を読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第２回	内容	現代社会と幼児の人間関係①現代の幼児の生活（グループワーク）	予習	子どもの定義を考える
			復習	人間関係の広義を理解する
第３回	内容	現代社会と子どもの人間関係②幼稚園と保育園の子どもたち（ICT の活用）	予習	幼稚園・保育園について調べておく
			復習	保育の基本をまとめる
第４回	内容	3 歳未満児の人間関係の発達①0 歳児	予習	子どもの発達を調べておく
			復習	0 歳児の関わりの発達をまとめる
第５回	内容	3 歳未満児の人間関係の発達②1・2 歳児	予習	1.2 歳児の発達を調べておく
			復習	1.2 歳児の人との関わりの発達をまとめる 小テストの内容を確認する①
第６回	内容	3 歳以上児の人間関係の発達①3 歳児	予習	3 歳児の発達を調べておく
			復習	小テストの内容を復習する①
第７回	内容	3 歳以上児の人間関係の発達②4・5 歳児	予習	4.5 歳児の発達を調べておく
			復習	小テストの内容を確認する②
第８回	内容	遊びのなかで育つ幼児の人間関係①乳幼児と遊び（ICT 活用）	予習	子どもの遊びを調べる
			復習	小テストの内容を復習する②
第９回	内容	遊びのなかで育つ幼児の人間関係②個の育ち	予習	事例プリントを読む
			復習	小テストの内容を確認する③
第 10 回	内容	遊びのなかで育つ幼児の人間関係③集団での育ち（グループワーク）	予習	集団の形成について調べる
			復習	小テストの内容を復習する③
第 11 回	内容	乳幼児期の自立心の育ち	予習	子どもの心の発達を調べる
			復習	小テストの内容を確認する④
第 12 回	内容	幼児期の協同性の育ち	予習	事例を読んでおく
			復習	小テストの内容を復習する④
第 13 回	内容	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち	予習	自身の事例をあげる
			復習	小テストの内容を確認する⑤
第 14 回	内容	乳幼児を取り巻く人間関係（家庭・地域など）－社会生活との関わりと育ち	予習	身の周り（地域・家族）の事例を考える
			復習	小テストの内容を復習する⑤
第 15 回	内容	乳幼児期の人間関係のひろがる場と関係性、まとめ	予習	乳幼児期の人間関係、関係性について考える
			復習	乳幼児期の人間関係についてまとめる

予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題や事例についての解説や説明を行う。小テストのなかで授業内容を再確認する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート（40%）、課題（20%）、小テスト（30%）、授業態度【積極的な取り組み】（10%）
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』、配布プリント　等 『保育内容「人間関係」』（令和６年秋発売予定）

参考文献	なし
補足事項	

科目名	環境	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	なかむら　よういち 中村　陽一
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12104	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	子どもは家庭・保育所・幼稚園・地域社会などの「環境」の中で生活し、その体験を通じて、人格形成の基礎となる豊かな心情、思考力や想像力、意欲や態度などが培われる。本講義は、幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」の内容を理解し、保育者に求められる援助について理解することを目的とする。
到達目標	1.子どもの成長にとって望ましい自然体験と保育者の適切な援助方法について理解している。 2.「環境を通した保育」の意義と、保育者の援助について、自分の考えを述べることができる。 3.自然と生命を尊重する態度を身につけ、子どもに伝えることができる。 4.保育内容「環境」と小学校「生活科」の連続性について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（1.2.3.4）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第1回	内容	保育と環境－「環境を通して行う保育」の特質、子どもの発達と環境との関わり	予習	幼稚園教育要領 第1章を読む。
				復習	「環境を通して行う保育」についての課題
	第2回	内容	領域「環境」のねらいと内容－「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園　教育・保育要領」。	予習	教科書 1～8p を読む。
				復習	領域「環境」の概要についての課題
	第3回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（保育室、園舎）。	予習	教科書 11～15p を読む。
				復習	頬幾室の環境に関する課題
	第4回	内容	子どもの生活と物的環境②－保育の環境構成（園庭）。	予習	教科書 27～31p を読む。
				復習	園庭の環境に関する課題
	第5回	内容	子どもの生活と自然環境①－子どもを取り巻く自然環境	予習	教科書 45～47p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 195p を読む。
	第6回	内容	子どもの生活と自然環境②－自然環境と保育実践（自然への気づき・季節感）	予習	教科書 47～54p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 197p を読む。
	第7回	内容	子どもの生活と自然環境③－動物との関わり、飼育動物の特徴と配慮	予習	教科書 54～57p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 66.67p を読む。
	第8回	内容	子どもの生活と自然環境④－植物の関わり、栽培植物の特徴と配慮、実践例	予習	教科書 57～58p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 199p を読む。
	第9回	内容	子どもの生活と社会①－社会環境と地域性、情報化と保育	予習	教科書 61～67p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 205p を読む。
	第10回	内容	子どもの生活と社会環境②－情報と生活、伝統的な行事との関わり、地域や施設との関わり	予習	教科書 67～75p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 200ｐを読む。
	第11回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と数、子どもの生活と文字	予習	教科書 77～84p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 203ｐを読む。
	第12回	内容	数量や文字に関する取り扱い②－小学校教育とのつながり	予習	教科書 84～91p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 212ｐを読む。
	第13回	内容	小学校教育への連続性－保育内容「環境」と小学校教育の「生活科」「総合学習」への連続性	予習	教科書 93～99p を読む。
				復習	小学校「生活科」についての課題
	第14回	内容	保育内容「環境」に関わる教育思想の変遷－ペスタロッチ・フレーベル・オウエン・倉橋惣三など。	予習	配布された資料を読む
				復習	環境を通した保育思想についてまとめる。
	第15回	内容	グループ討論と発表。 授業の振り返りとまとめ	予習	教科書 123～126p を読む。
				復習	「環境を通して行う保育」についてレポートを作成する。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題に対するフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（100%）
教科書	『保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領/幼稚園教育要領』（文部科学省・厚生労働省・内閣府、チャイルド本社） 『コンパス 保育内容 環境』（高橋貴志・目良秋子編、建帛社）
参考文献	なし
補足事項	必要に応じて、授業の終わりに小レポートを提出する。

科　目　名	言　葉	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	いざわ　えいしゅう 伊澤　永 修
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12105	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（　　）
授　業　の 内　　容	人が社会の中で生活するために必要な言葉の意義や機能、乳幼児の言葉の発達過程、言葉の楽しさや美しさなどを映像や事例を通して具体的に学ぶ。また、保育の中で効果的に活用できるように、児童文化財についての教材研究を行い、また、実際に演じることで保育への活かし方について体験的に学ぶ。
到 達 目 標	１.「言葉」の意義や機能について理解している ２．乳幼児の言葉の発達過程について理解している ３．領域「言葉」のねらいや内容に基づく保育内容について理解している
学位授与方針	幼児教育学科（　１、２、５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	オリエンテーション 適切な自己紹介文章の作成方法について理解する	予習	シラバスを読んでおく
			復習	この科目で習得できる内容について理解する 自分を効果的に表現できる言葉や文章及び文章の構成について振り返りを行う
第２回	内容	作成した自己紹介文を用いて自己紹介を行うことで効率的な言葉による伝達方法について理解する 幼児教育の根幹について、保育者の使命や幼児期の特性とともに理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	伝える内容及び適切な伝え方についての振り返りを行う 授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第３回	内容	幼児教育において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第４回	内容	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿それぞれについての理解を深める 主体的・対話的で深い学びについてグループディスカッションを行い自らの考え方を整理する。	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第５回	内容	主体的・対話的で深い学びについて理解する 幼児教育における非認知能力について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第６回	内容	非認知能力の必要性について理解する 乳児保育における３つの視点について理解し、乳児保育の視点と幼児教育の領域の関係性について及び養護と教育の一体性について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第７回	内容	幼児期におけるふさわしい教育とは何かについて理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第８回	内容	幼児教育における環境を通して教育することの意義や目的、方法などについて理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第９回	内容	現代社会における幼児教育施設の存在意義について理解する 幼児教育の基本と保育者の様々な役割について理解する	予習	幼児教育施設の意義や役割についてまとめておく
			復習	授業の内容を踏まえ幼児教育施設の意義や役割についてまとめ、その中での子どもと関わる保育者の役割についてまとめる
第 10 回	内容	乳幼児期の言葉の発達について理解する	予習	乳幼児期の言葉の発達について事前に調べておく
			復習	乳幼児期の言葉の発達についてまとめる
第 11 回	内容	身振り手振りを使ってのグループワークを通して言葉の機能について理解する	予習	言葉の働きや役割についてまとめておく
			復習	グループワークで体験したことを振りかえりながら改めて言葉の機能について理解を深める
第 12 回	内容	言葉の働きや役割及び言葉と文化の関係性を理解する	予習	前回のグループワークを通して言葉の働きや役割について改めてまとめておく
			復習	言葉の働きや機能及び言葉の与える様々な影響についてまとめを行う
第 13 回	内容	児童文化と児童文化財についての理解する 乳幼児期のことばの発達を映像視聴から理解を深める（前半）	予習	児童文化財についての下調べをしておく これまで学んだ乳幼児のことばの発達について振り返りをしておく
			復習	映像から理解できたことをこれまで学習してきたことと照らし合わせて理解を深める
第 14 回	内容	日本語の美しさと魅力について理解する 乳幼児期のことばの発達を映像視聴から理解を深める（後半）	予習	日本語の特徴などについてまとめておく これまで学んだ乳幼児のことばの発達について振り返りをしておく
			復習	日本語の美しさや魅力についてまとめる 映像から理解できたことをこれまで学習してきたことと照らし合わせて理解を深める

	第 15 回	内容	オノマトペについて理解する	予習	オノマトペについての下調べをしておく
				復習	効果的なオノマトペの使い方についてまとめる
	予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。				
課題へのフィードバック	提出物に関する評価を行い、返却時に解説する。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（６０％）、授業態度【参加度合】（４０％）				
教科書	『事例で学ぶ保育内容』　無藤隆監修　萌文書林				
参考文献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館				
補足事項					

科　目　名	造形表現	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	とよいずみ　なおみ 豊 泉　尚美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12106	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	幼児の造形表現について、その発達の姿と重要性を理解し、幼児の感性や創造性を豊かに育むための表現遊びや環境構成などの専門的な知識・技能を学ぶ。また、幼児の表現を支えるために、自身の感性も大切にしながら表現力を身につける。
到 達 目 標	１．　幼児期に特徴的な造形表現について理解し、それを受け止めて共感したうえで、造形活動の指導計画が立案できる。 ２．　様々な表現の基礎的知識・技能を生かし、幼児の造形表現活動に展開できる。 ３．　自然と生命を大切にする心をもち、それを子どもに伝えることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　2・3・4・5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	授業のねらい・進め方について・幼児の造形表現とは	予習	こども園教育・保育要領等の領域「表現」の箇所を読み込んでおく。
			復習	幼児の造形表現について、自身の考えをまとめる。
第２回	内容	造形表現活動を体験し、振り返りと考察を行う (1)自然の色・自然の美しさ（ICT 活用）	予習	自然の中にある色の多様性を調べておく。
			復習	植物染料を幼児の造形活動で活用する方法をまとめる。
第３回	内容	造形表現活動を体験し、振り返りと考察を行う (2)自然素材でスタンピング(グループワーク)	予習	幼児が楽しめる造形活動について考えておく。
			復習	幼児が造形活動を行う準備と方法をまとめる。
第４回	内容	造形表現活動を体験し、振り返りと考察を行う (3)自然素材でフロッタージュ・コラージュ	予習	現代美術の描画技法について調べる。
			復習	自然素材を使って行う造形活動の方法をまとめる。
第５回	内容	造形表現活動を体験し、振り返りと考察を行う (4)自然素材を使って描く（ICT 活用）	予習	自然の中にある音や風を感じ、その感想（イメージ）をメモしておく。
			復習	幼児の描画活動についてまとめる。
第６回	内容	造形表現活動を体験し、振り返りと考察を行う (5)自然素材で作る	予習	自然素材を使った造形活動を調べておく。
			復習	幼児が制作するための「指導案」を作成する
第７回	内容	幼児画と造形活動の発達について－保育事例の映像を通して－（ICT 活用）	予習	幼児の手指の発達について下調べをする。
			復習	幼児画の発達についてまとめる。
第８回	内容	季節や自然に関わる伝承遊びや行事を学び、制作する (1)春～夏編（グループワーク）	予習	春から夏の行事について調べておく。
			復習	自然に関わる伝承遊びと行事についてまとめる。
第９回	内容	季節や自然に関わる伝承遊びや行事を学び、制作する (2)秋～冬編（グループワーク）	予習	秋から冬の行事について調べておく。
			復習	自然に関わる伝承遊びと行事についてまとめる。
第 10 回	内容	造形表現活動を支える環境構成について－レッジョ・エミリアの幼児教育から－（ICT 活用）	予習	造形活動を行う環境について考えておく。
			復習	レッジョ・エミリアの幼児教の特徴をまとめる。
第 11 回	内容	造形表現のプロジェクト活動について－共同制作のテーマを決める－	予習	レッジョ・エミリアでのプロジェクトについて調べる。
			復習	グループで話し合ったことをまとめ、テーマを決める。
第 12 回	内容	テーマに沿った制作の準備と制作	予習	制作のための準備をする。
			復習	制作過程をまとめ、次回の制作予定を立てる。
第 13 回	内容	テーマを共同で制作し、完成する	予習	制作のための準備をしておく。
			復習	制作活動の過程をまとめる。
第 14 回	内容	プロジェクト活動のドキュメンテーションを作成する	予習	ドキュメンテーションについて調べる。
			復習	グループでのプロジェクト活動をまとめる。
第 15 回	内容	グループで発表する	予習	グループ発表の準備をする。
			復習	発表の様子、感想をまとめる。

予習に要する学習時間：概ね　25　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　20　分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題に対して解説を行う。発表後は講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：レポート・課題（30　%）、作品・発表（30%）、授業態度【積極的参加・丁寧な制作】(40%)
教科書	『地球市民を育てる～子どもと自然をむすぶ～』森下英美子・豊泉尚美　著（圭文社）
参考文献	『子どもたちの 100 の言葉』レッジョ・チルドレン編（学習研究社） 『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著（新潮社）
補足事項	作品提出の期限を厳守すること。制作活動に積極的に、丁寧に取り組むこと。

科　目　名	音楽・身体表現	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しおざき　はせがわ 塩崎・長谷川
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12107	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	領域「表現」における音楽・身体表現の指導法に関する、乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや環境について実践的に学ぶとともに、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。また、ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。
到達目標	1.見る・聴く・動くなどの様々な表現を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができている。 2.生活の中での出来事を、様々な素材を生かして表現することができる。 3.それぞれの表出・表現を受け止め、表現する過程を工夫し、より楽しめるよう発展させることができている。 4.他者を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　１・２・５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	「表現とは」　領域「表現」のねらい及び内容について理解する	予習	領域「表現」のねらいの箇所を読んでくる
			復習	本時の内容についてノートにまとめる
第２回	内容	「リズミカルなダンス」　リズミカルなダンスの実践と、グループで創作し、発表をする。	予習	教科書 43 ページを読んでくる。
			復習	グループ討議やまとめの内容をノートまとめる
第３回	内容	「架空の世界」を題材にした運動会作品の実践と、グループ創作、発表を行う。	予習	宇宙についての導入を考えてくる。
			復習	創作過程、発表後の振り返りを行う
第４回	内容	「童謡」や「歌遊び」を題材とした身体表現遊びの実技の実践とまとめ	予習	身体表現へ用いることのできる「歌遊び」を２つ探してくる
			復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめる
第５回	内容	「絵本と身体表現」　絵本を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議する。	予習	身体表現に利用できる絵本を探してくる
			復習	気に入った絵本で身体表現遊びの活用についてまとめる
第６回	内容	「自然と身体表現」　自然を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ創作・発表、討議をする。発表作品を動画で撮影する。	予習	自然観察し、動きに用いることのできる対象物を選び動画、写真などに撮影してくる
			復習	本時の発表作品を動画にまとめる。
第７回	内容	「生活の中での身体表現」　生活を題材とした身体表現遊びの実技を通して、豊かな表現活動の展開の可能性についてグループ討議する。	予習	生活の中での身表現の題材について考えてくる
			復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめ、考察する
第８回	内容	「ＩＣＴを使った身体表現」　ICT を利活用した表現方法について実践し、生かし方・工夫について話し合い、まとめる。	予習	ICT の意味について調べ活用方法について考えてくる
			復習	活用の仕方、操作の仕方の練習をする
第９回	内容	音楽の応用１多様な音楽表現の方法	予習	授業で指示した資料を確認する
			復習	経験した音楽表現法を記録し振り返りをする
第 10 回	内容	音楽の応用２ アレンジによる音楽表現の応用	予習	コードネームについて確認する
			復習	経験した音楽表現法を記録し振り返りをする
第 11 回	内容	音楽表現の展開１幼児の豊かな表現力と音楽的な資質・能力を養うための教材選択	予習	授業で指示した資料を確認する
			復習	教材選択の観点について考察し記録する
第 12 回	内容	音楽表現の展開２ 童謡を用いた総合的な表現活動の展開	予習	授業で支持した課題に取り組む
			復習	経験した総合的な表現活動について記録する
第 13 回	内容	音楽と身体表現の出会い　音と体を使って表現を楽しむ、工夫する	予習	発表の題材について考えてくる
			復習	本時の内容をまとめ、次時の課題を考えてくる
第 14 回	内容	様々な表現方法を用いて　様々な表現を集めて小作品を創作する	予習	音楽、動きについて考えてくる
			復習	発表作品の練習課題についてまとめる
第 15 回	内容	学習のまとめを発表する	予習	発表作品の練習をする
			復習	ノートのまとめをし、考察する

予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。

課題へのフィードバック	ノートや課題提出の際は、コメントを記入し返却する。 発表後は、講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（30%）、作品・発表（30%）、実技（20%）、授業態度【積極的参加、出席状況】(20%)

教科書	『遊んで育て！表現の力―保育で使える活動例と指導法』（塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎）
参考文献	『乳幼児・児童の運動あそび・表現あそび　からだとこころを育む指導法』（宮下恭子編著、大学図書出版）
補足事項	身体表現の授業では、学校指定のジャージを着用のこと。 塩崎（9 回）、長谷川（9 回）

科　目　名	音楽・身体表現	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しおざき　まるやま 塩崎・丸山
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12107	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	領域「表現における音楽・身体表現の指導法に関する乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かに表現遊びや環境について実践的に学ぶとともに、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。また ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。
到達目標	１．見る・聴く・動くなど様々な素材を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができている。 ２．生活の中での出来事を様々な素材を生かして表現することができる。 ３．それぞれの表出・表現を受け止め、表現する過程を工夫し、より楽しめるように発展させることができている。 ４．他者を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。
学位授与方針	幼児教育学科（１・２・５）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	「表現とは」　領域「表現」のねらい及び内容について理解する	予習	領域「表現」のねらいの箇所を読んでくる
			復習	本時の内容についてノートにまとめる
第２回	内容	「童謡」や「歌遊び」を題材とした身体表現遊びの実技の実践とまとめ	予習	身体表現へ用いることのできる「歌遊び」を２つ探してくる
			復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめる
第３回	内容	音楽の応用１　多様な音楽表現の方法	予習	授業で指示した資料を確認する
			復習	経験した音楽表現法を記録し、振り返りをする
第４回	内容	「乳幼児の表現」　保育者として受け止める視点についてグループ討議し、その大切さについて考える	予習	乳幼児期の表現の特徴について、調べる
			復習	グループ討議やまとめの内容をノートにまとめる
第５回	内容	「身体表現とは」　豊かな表現を引き出すための保育者の役割や、題材について討議する。	予習	身体表現遊びの題材について調べてくる
			復習	身体表現の題材についてまとめる
第６回	内容	音楽の応用２　アレンジによる音楽表現の応用	予習	コードネームについて確認する
			復習	経験した音楽表現法を記録し、振り返りをする
第７回	内容	音楽表現の展開１　幼児の豊な表現力と音楽的な資質・能力を養うための教材選択	予習	授業で指示した資料を確認する
			復習	教材選択の観点について考察し記録する
第８回	内容	音楽表現の展開２　童謡を用いた総合的な表現活動の展開	予習	授業で指示した課題に取り組む
			復習	経験した綜合的な表現方法について記録する
第９回	内容	「絵本と身体表現」　絵本を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議する。	予習	身体表現に利用できる絵本を探してくる
			復習	気に入った絵本で身体表現遊びの活用についてまとめる
第 10 回	内容	「自然と身体表現」　自然と題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議・発表、討議する。発表作品を動画で撮影する。	予習	自然観察し、動きに用いることのできる対象物を選び動画、写真などに撮影してくる
			復習	本時の発表作品を動画にまとめる
第 11 回	内容	「生活の中での身体表現」　生活を題材とした身体表現遊びの実技を通して豊かな表現活動の展開の可能性についてグループ討議する。	予習	生活の中での身体表現題材について考えてくる
			復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめ、考察する
第 12 回	内容	「ICT を使った身体表現」　ICT を利活用した表現方法について実践し、生かし方・工夫について話し合い、まとめる。	予習	ICT の意味について調べ活用方法について考えてくる
			復習	活用の仕方、操作の仕方を練習する
第 13 回	内容	音楽と身体表現の出会い　音と体を使って表現を楽しむ、工夫する。	予習	発表の題材について考えてくる
			復習	本時の内容をまとめ、次時の課題を考えてくる
第 14 回	内容	様々な表現方法を用いて　様々な表現を集めて小作品を創作する	予習	音楽、動きについて考えてくる
			復習	発表作品の練習課題についてまとめる
第 15 回	内容	学習のまとめを発表する	予習	発表作品の練習をする
			復習	ノートのまとめをし、考察する

予習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。

課題へのフィードバック	ノートや課題提出の際は、コメントを記入し返却する。 発表後は公表を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（３０％）、作品・発表（３０％）、実技（２０％）、授業態度【積極的参加、出席状況】（２０％）
教科書	『遊んで育て！表現の力―保育で使える活動例と指導法』（塩崎みずほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎）

参考文献	『乳幼児・児童の運動遊び・表現遊び　からだとこころを育む指導法（木下恭子編著、大学図書出版）
補足事項	塩崎（１５回）　丸山（１５回）

科目名	音楽Ⅰ	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	しかと　かずのり 鹿戸　一範　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDS12101	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得のための個人レッスンと、楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な知識や理論、歌唱法、伴奏法を学ぶクラス授業を組み合わせた形で行う。ピアノ個人レッスンとクラス授業を各 45 分受講する。
到達目標	１．基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している。 ２．幼稚園・保育所実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 ３．保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解を深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　1.2.5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション 授業内容、進め方について	予習	事前にシラバスを読んでおく
			復習	この科目で学ぶ内容を確認しておく
第２回	内容	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 大学ピアノ教本　No.1～8	予習	大学ピアノ教本　No.1～8 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.1～8 の復習
第３回	内容	分散和音の伴奏形②・③ 大学ピアノ教本　No.9～16	予習	大学ピアノ教本　No.9～16 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.9～16 の復習
第４回	内容	分散和音の伴奏形④　4 分音符と 8 分音符 大学ピアノ教本　No.17～24	予習	大学ピアノ教本　No.17～24 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.17～24 の復習
第５回	内容	ハ長調の下属和音 大学ピアノ教本　No.25～26	予習	大学ピアノ教本　No.25～26 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.25～26 の復習
第６回	内容	ヘ長調の主和音・下属和音・属和音 大学ピアノ教本　No.27～32	予習	大学ピアノ教本　No.27～32 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.27～32 の復習
第７回	内容	ト長調の主和音・下属和音・属和音 大学ピアノ教本　No.33～38	予習	大学ピアノ教本　No.33～38 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.33～38 の復習
第８回	内容	中間発表会（個人発表） いろいろな伴奏形①～④　大学ピアノ教本　No.39～42	予習	大学ピアノ教本　No.39～42 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.39～42 の復習
第９回	内容	高い音の練習 大学ピアノ教本　No.43～46	予習	大学ピアノ教本　No.43～46 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.43～46 の復習
第 10 回	内容	3/8 拍子と 6/8 拍子　大学ピアノ教本　No.47～48 生活のうたの弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本　No.47～48 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.47～48 他の復習
第 11 回	内容	付点 4 分音符を用いたリズム　大学ピアノ教本　No.49～54 生活のうたの弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本　No.49～54 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.49～54 他の復習
第 12 回	内容	ハ長調の音階　大学ピアノ教本　No.55～58 生活のうたの弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本　No.55～58 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.55～58 他の復習
第 13 回	内容	ヘ長調の音階　大学ピアノ教本　No.59～61 生活のうたの弾き歌い④	予習	大学ピアノ教本　No.59～61 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.59～61 他の復習
第 14 回	内容	ト長調の音階　大学ピアノ教本　No.62～67 生活のうたの弾き歌い⑤	予習	大学ピアノ教本　No.62～67 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.62～67 他の復習
第 15 回	内容	これまでの授業のまとめと発表	予習	発表曲の予習
			復習	指導を受けた点を復習する

予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ○ ）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　%）、作品・発表（30%）、実技（60%）、授業態度［積極的な取り組み］（10%）
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『いろいろな伴奏で弾ける　こどものうた 100』（小林美実　他、チャイルド本社）
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。
補足事項	

科目名	音楽Ⅱ	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	しかと　かずのり 鹿戸　一範　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDS12102	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得のための個人レッスンと、楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な知識や理論、歌唱法、伴奏法を学ぶクラス授業を組み合わせた形で行う。ピアノ個人レッスンとクラス授業を各 45 分受講する。
到達目標	１．基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している。 ２．幼稚園・保育所実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 ３．保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解を深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　1.2.5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	臨時記号と半音階　大学ピアノ教本　No.68～69 季節のうた（春）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本　No.68～69 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.68～69 他の復習
第２回	内容	16 分音符を用いたリズム　大学ピアノ教本　No.70～72 季節のうた（春）弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本　No.70～72 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.70～72 他の復習
第３回	内容	イ短調の主要三和音　大学ピアノ教本　No.73～76 季節のうた（春）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本　No.73～76 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.73～76 他の予習
第４回	内容	6 度・3 度の重音　大学ピアノ教本　No.77～78 季節のうた（夏）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本　No.77～78 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.77～78 他の復習
第５回	内容	3 連符　大学ピアノ教本　No.79～80 季節のうた（夏）弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本　No.79～80 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.79～80 他の復習
第６回	内容	ヘ長調よりハ長調への転調　大学ピアノ教本　No.81 季節のうた（夏）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本　No.81 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.81 他の復習
第７回	内容	3 度の重音と 8 度の跳躍　大学ピアノ教本　No.82 季節のうた（秋）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本　No.82 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.82 他の復習
第８回	内容	弱起の曲　大学ピアノ教本　No.83～84 中間発表会（個人発表）	予習	大学ピアノ教本　No.83～84 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.83～84 他の復習
第９回	内容	ニ長調・ニ短調の主要三和音　大学ピアノ教本　No.85～86 季節のうた（秋）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本　No.85～86 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.85～86 他の復習
第 10 回	内容	装飾音　大学ピアノ教本　No.87～90 季節のうた（冬）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本　No.87～90 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.87～90 他の復習
第 11 回	内容	複付点音符　大学ピアノ教本　No.91 季節のうた（冬）弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本　No.91 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.91 他の復習
第 12 回	内容	大学ピアノ教本　No.92～94 季節のうた（冬）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本　No.92～94 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.92～94 他の復習
第 13 回	内容	マーチ、その他①　大学ピアノ教本　No.95～98	予習	マーチ曲（大学ピアノ教本　No.95～98）の予習
			復習	マーチ曲（大学ピアノ教本　No.95～98）の復習
第 14 回	内容	マーチ、その他②　大学ピアノ教本　No.99～102 園生活のうたの発表　その１	予習	マーチ曲（大学ピアノ教本　No.99～）の予習
			復習	マーチ曲（大学ピアノ教本　No.99～）の復習
第 15 回	内容	これまでのまとめと演奏発表	予習	発表曲の予習
			復習	発表曲の復習

予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ○ ）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　%）、作品・発表（30%）、実技（60%）、授業態度［積極的な取り組み］（10%）
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『いろいろな伴奏で弾ける　こどものうた 100』（小林美実　他、チャイルド本社）
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。
補足事項	

科　目　名	音楽Ⅲ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しかと　かずのり 鹿戸　一範　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDS12201	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	音楽Ⅰ、音楽Ⅱで学んだ子どもの音楽活動を支える基礎技能をもとに、さらに高度なピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを中心に学ぶ。クラスを担当する複数の教員より指導を受ける。
到 達 目 標	１．音楽Ⅰ、音楽Ⅱで身につけた知識、ピアノ演奏技術を深め、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができている。 ２．　コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　１．２．５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	オリエンテーション	予習	事前にシラバスを読んでおく
			復習	この科目で学ぶ内容を確認しておく
第２回	内容	園生活のうた　弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他	予習	「おはよう」「おはようのうた」の予習
			復習	「おはよう」「おはようのうた」を復習
第３回	内容	園生活のうた　弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他	予習	「おべんとう」「おかえりのうた」の予習
			復習	「おべんとう」「おかえりのうた」の復習
第４回	内容	園生活のうた　弾き歌い③ 「さよならのうた」「おかたづけ」「おむねをはりましょ」	予習	「さよならのうた」の予習
			復習	「さよならのうた」の復習
第５回	内容	季節のうた　４月①　他 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」	予習	「あくしゅでこんにちは」他の予習
			復習	「せんせいとおともだち」他の復習
第６回	内容	季節のうた　４月②　「チューリップ」「ちょうちょう」 小グループに分かれて弾き歌いの発表	予習	「チューリップ」「ちょうちょう」他の予習
			復習	「ちょうちょう」「めだかの学校」他の復習
第７回	内容	季節のうた　５月① 「こいのぼり」「手をたたきましょう」他	予習	「手をたたきましょう」「こいのぼり」他の予習
			復習	「手をたたきましょう」「こいのぼり」他の復習
第８回	内容	季節のうた　５月② 「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他	予習	「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他の予習
			復習	「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他の復習
第９回	内容	季節のうた　６月① 「あめふりくまのこ」「あまだれぽったん」他	予習	「あめふりくまのこ」「あまだれぽったん」の予習
			復習	「あめふりくまのこ」「あまだれぽったん」の復習
第 10 回	内容	季節のうた　６月②「とけいのうた」「すてきなパパ」 小グループに分かれて弾き歌いの発表	予習	「とけいのうた」「すてきなパパ」他の予習
			復習	「とけいのうた」「すてきなパパ」他の復習
第 11 回	内容	季節のうた　７・８月① 「たなばたさま」「うみ」「アイスクリームのうた」他	予習	「たなばたさま」「うみ」の予習
			復習	「たなばたさま」「うみ」の復習
第 12 回	内容	季節のうた　７・８月② 「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他	予習	「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他の予習
			復習	「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他の復習
第 13 回	内容	あそびのうた① 「グーチョキパーでなにつくろう」他	予習	「グーチョキパーでなにつくろう」他の予習
			復習	「グーチョキパーでなにつくろう」他の復習
第 14 回	内容	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげじいさん」他	予習	「とんとんとんとんひげじいさん」他の予習
			復習	「とんとんとんとんひげじいさん」他の復習
第 15 回	内容	これまでのまとめと演奏発表	予習	課題曲の予習
			復習	課題曲の復習

予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　作品・発表（　70　%）、実技（　　%）、授業態度［積極的な取り組み］（　30　%）
教科書	『いろいろな伴奏で弾ける　こどものうた 100』(小林美実　他、チャイルド本社)
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。
補足事項	

科　目　名	音楽Ⅳ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しかと　かずのり 鹿戸　一範　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDS12202	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	音楽Ⅰ～Ⅲで学んだ内容をもとに、子どもの音楽活動を支える基礎技能として、さらに高度なピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを中心に学ぶ。クラスを担当する複数の教員より指導を受ける。
到達目標	１．音楽Ⅰ～Ⅲで身につけた知識、ピアノ演奏技術を深め、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができている。 ２．コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　１．２．５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	季節のうた　9月① 「とんぼのめがね」「つき」「大きなくりの木の下で」他	予習	「とんぼのめがね」「つき」他の予習
			復習	「とんぼのめがね」「つき」他の復習
第２回	内容	季節のうた　9月② 「きらきら星」「どんぐりころころ」他	予習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の予習
			復習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の復習
第３回	内容	季節のうた　10月① 「やきいもグーチーパー」「きのこ」他	予習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の予習
			復習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の復習
第４回	内容	季節のうた　10月② 「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」他	予習	「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」の予習
			復習	「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」の復習
第５回	内容	季節のうた　11月① 「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」他	予習	「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」の予習
			復習	「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」の復習
第６回	内容	季節のうた　11月② 「夕やけこやけ」「たきび」「こぎつね」他	予習	「夕やけこやけ」「たきび」他の予習
			復習	「夕やけこやけ」「たきび」他の復習
第７回	内容	季節のうた　12月① 「あわてんぼうのサンタクロース」他	予習	「あわてんぼうのサンタクロース」他の予習
			復習	「あわてんぼうのサンタクロース」他の復習
第８回	内容	季節のうた　12月② 「ジングルベル」「サンタクロース」他	予習	「ジングルベル」他の予習
			復習	「ジングルベル」他の復習
第９回	内容	季節のうた　1月① 「お正月」「雪」他	予習	「お正月」「雪」他の予習
			復習	「お正月」「雪」他の復習
第10回	内容	季節のうた　1月② 「雪のこぼうず」「雪のペンキやさん」他	予習	「雪のこぼうず」「雪のペンキやさん」他の予習
			復習	「雪のこぼうず」「雪のペンキやさん」他の復習
第11回	内容	季節のうた　2月① 「まめまき」「北風小僧の寒太郎」他	予習	「まめまき」「北風小僧の寒太郎」他の予習
			復習	「まめまき」「北風小僧の寒太郎」他の復習
第12回	内容	季節のうた　2月② 「春がきた」「どこかで春が」他	予習	「春がきた」「どこかで春が」他の予習
			復習	「春がきた」「どこかで春が」他の復習
第13回	内容	季節のうた　3月① 「うれしいひなまつり」「思い出のアルバム」他	予習	「うれしいひなまつり」他の予習
			復習	「思い出のアルバム」他の復習
第14回	内容	季節のうた　3月② 「さよならぼくたちのほいくえん」「一年生になったら」	予習	「一年生になったら」他の予習
			復習	「さよならぼくたちのほいくえん」他の復習
第15回	内容	これまでのまとめと演奏発表	予習	コードネームについての予習
			復習	コードネームを用いた伴奏の練習

予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　作品・発表（　70　%）、実技（　　%）、授業態度［積極的な取り組み］（　30　%）
教科書	『いろいろな伴奏で弾ける　こどものうた100』（小林美実　他、チャイルド本社）
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。
補足事項	

科　目　名	ピアノと幼児の音楽	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しかと　かずのり 鹿戸　一範　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDS12203	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いやピアノ曲を中心に学ぶ。また初見演奏や、コードネームを用いた演奏にも取り組み、さらに高度なピアノ演奏技術を修得し、音楽表現力を高めていく。
到達目標	１．これまでに身につけた知識やピアノ演奏技術を深め、より多くのこどものうたの弾き歌いができている。 ２．教育・保育現場での実践に対応できるよう、初見演奏やコードネームを用いた伴奏付けをすることができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　１．２．５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション 授業内容、進め方について	予習	事前にシラバスを読んでおく
			復習	この科目で学ぶ内容を確認しておく
第２回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン①	予習	課題曲を選択し譜読みを行う
			復習	課題曲の復習
第３回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン②	予習	課題曲について調べる
			復習	課題曲の復習
第４回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン③	予習	課題曲を練習する
			復習	課題曲の復習
第５回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン④	予習	発表に備え課題曲を仕上げる
			復習	課題曲の復習
第６回	内容	中間発表会	予習	発表で演奏する曲の予習
			復習	課題曲の復習
第７回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑤ コードネームによる伴奏付け①	予習	コードネームの基本構造について調べる
			復習	課題曲の復習
第８回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑥ コードネームによる伴奏付け②	予習	基本的なコードネームを用いて演奏する
			復習	課題曲の復習
第９回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑤ コードネームによる伴奏付け③	予習	様々な調性に応用して演奏する
			復習	課題曲の復習
第 10 回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑥ コードネームによる伴奏付け④	予習	コードネームを用いた伴奏を仕上げる
			復習	課題曲の復習
第 11 回	内容	中間発表会	予習	発表で演奏する曲の予習
			復習	課題曲の復習
第 12 回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑩ 初見演奏①	予習	初見演奏について各自調べる
			復習	課題曲の復習
第 13 回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑪ 初見演奏②	予習	各自初見演奏に取り組んでみる
			復習	課題曲の復習
第 14 回	内容	個人選択によるピアノ曲、子どものうたのレッスン⑫ 初見演奏③	予習	これまでのまとめの練習
			復習	課題曲の復習
第 15 回	内容	まとめ・個人発表	予習	最終発表曲の準備
			復習	発表の振り返りを行う

予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　作品・発表（　70　%)、実技（　　%)、授業態度［積極的な取り組み］（　30　%）
教科書	『いろいろな伴奏で弾ける　こどものうた 100』(小林美実　他、チャイルド本社)
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。
補足事項	

科　目　名	教育社会学	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	まつき　ひさこ 松木　久子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SOE12101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	現代教育が抱える様々な問題や事柄を社会学的な視点でとらえ直しながら、これまで当たり前と思ってきた教育の実態や学校のシステムについて再度、考え直し見つめ直していくための視点を提供していきます。また、日本の社会全体についても考え、今後においてより良くしていくためにはどうすればよいかを共に考えていきたいと思います。
到達目標	１．　子どもを取り巻く環境について、自分なりの考えを説明できる ２．　ジェンダーをめぐる問題について、自分なりの考えを説明できる ３．　日本社会が抱える問題点について、自分なりの考えを説明できる
学位授与方針	幼児教育学科（　１・３・５　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項について	予習	教育問題について調べてまとめておく
			復習	理解したことをまとめておく
第２回	内容	教育社会学を学ぶこととは何かについて知る	予習	教育社会学について調べまとめておく
			復習	理解したことをさらに調べまとめる
第３回	内容	日本における学校教育の現状	予習	学校をめぐる気になる出来事を調べておく
			復習	理解したことをまとめる
第４回	内容	いじめ自殺について考える	予習	いじめについて調べまとめておく
			復習	興味をもったことについて調べまとめる
第５回	内容	登校拒否と不登校について考える	予習	登校拒否と不登校について調べまとめる
			復習	理解したことをまとめる
第６回	内容	学歴社会の実像と虚像	予習	学歴社会について調べまとめておく
			復習	興味をもったことについてさらに調べまとめる
第７回	内容	グローバル化と教育について考える	予習	グローバル化について調べまとめておく
			復習	理解したことをさらに調べまとめる
第８回	内容	学校の中のジェンダーについて考える	予習	ジェンダーについて調べまとめておく
			復習	興味をもったことについて調べまとめる
第９回	内容	メディア社会と教育について考える	予習	メディアについて調べまとめておく
			復習	理解したことをまとめる
第 10 回	内容	生徒―教師の関係について考える	予習	学校用語について調べまとめておく
			復習	興味をもったことをさらに調べまとめる
第 11 回	内容	絵本作家について考える（1）	予習	自分の好きな絵本作家について調べまとめる
			復習	理解したことをさらに調べまとめる
第 12 回	内容	絵本作家について考える（2）	予習	別の絵本作家について自分なりに調べてみる
			復習	理解したことをさらに調べまとめる
第 13 回	内容	幼児教育の普及と早期化について考える	予習	早期教育について調べまとめておく
			復習	理解したことをまとめる
第 14 回	内容	日本の学校や園の今後のあり方について考える	予習	自分の理想とする園や学校像についてまとめる
			復習	興味をもったことについて調べまとめる
第 15 回	内容	まとめ	予習	今まで理解したことをまとめておく
			復習	興味をもったことについてさらに調べまとめる

予習に要する学習時間：概ね６０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね６０分を目安とする。

課題へのフィードバック	数回にわたって小エッセイを課し、小テストや中間テストを実施するなどして、学生の理解度を把握していこうと思います。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　50　%)、レポート・課題（　30　%)、授業態度【発言の頻度等】(　20　%)
教科書	特に指定はしません。
参考文献	授業中に必要に応じて適宜、紹介していきます。
補足事項	日本社会に渦巻くさまざまな問題について、主体的に貪欲に調べ、ニュースや新聞に触れるようにしてほしいと思います。

科　目　名	教育方法・技術論	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	こまきね　たけし 駒木根　剛
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12203	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面　・（遠隔）・　その他（　　）
授業の内容	幼児が成長するなかで育むべき資質や能力を身につけられるよう、周囲がどのように働きかけるとよいか、指導方法を学ぶと共に指導の立案について検討する。
到達目標	１．身体、言葉、表現、科学や算数的理解など幼児が学ぶべき領域や内容について理解している。 ２．１を幼児が身につけるために具体的な指導方法について理解している。 ３．総合学習やICT（情報通信技術）教育の内容について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　１、３、４　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	子どもの特徴を脳の仕組みや心理学の視点から理解する。	予習	シラバスをよく読むこと。
			復習	子どもの特長について教科書を読み返す。
第２回	内容	子どもの身近な環境を取りあげ、幼児の発達を促すための環境指導法について学ぶ。	予習	子どもの環境とは何か調べる。
			復習	自ら環境指導法について再度考える。
第３回	内容	造形表現の特質と課題を理解し、造形表現の指導方法について学ぶ。	予習	造形表現の特質と課題について調べる。
			復習	自ら造形表現や指導法について再度考える。
第４回	内容	子どもの発達に伴う身体表現について理解するとともに、子どもの表現を引き出す指導方法について学ぶ。	予習	身体表現について調べる。
			復習	子どもの表現を引き出す指導方法を考える。
第５回	内容	新しい時代を生きるための音楽表現や幼児の感性について理解し、指導法を学ぶ。	予習	幼児の感性とは何か調べる。
			復習	新しい時代の音楽表現ついて再度考える。
第６回	内容	幼児期に発達する言葉の能力、現代における言葉の習得および発達の課題について理解する。	予習	幼児期の言葉の発達について調べる。
			復習	言葉の習得および発達の課題を読み返す。
第７回	内容	幼児の算数的活動の内容について理解し、発達に応じた算数的理解を促すための指導法について学ぶ。	予習	幼児の算数的活動について調べる。
			復習	算数的理解を促す指導法について考える。
第８回	内容	幼児教育における科学の指導の必要性と小学校教育への橋渡し（連携）について学ぶ。	予習	幼児教育における科学とは何か調べる。
			復習	小学校教育への連携の意義を読み返す。
第９回	内容	総合学習の理論と実践について学び、指導法を立案し、その立案した指導法をひとに発表できるものに仕上げる。	予習	これまでの指導法について読み返す。
			復習	自ら総合学習の指導法について再度考える。
第10回	内容	ICT教育の内容について学び、支援や指導の方法について立案し、立案した指導法を発表できるものに仕上げる。	予習	ICT教育とは何か調べる。
			復習	自らICT教育の指導法について再度考える。
第11回	内容	外国諸国の他文化を取り入れたICT保育および教育について学ぶ。	予習	他文化保育とは何か調べる。
			復習	他文化保育についての自らの考えをまとめる。
第12回	内容	発達の気になる子ども、障害を抱える子どもへの教育や支援の方法（インクルーシブ教育）について学ぶ。	予習	インクルーシブ教育とは何か調べる。
			復習	インクルーシブ教育について考えをまとめる。
第13回	内容	児童虐待について学び、虐待を受けた子どもへの支援方法について学ぶ。	予習	児童虐待の現状について調べる。
			復習	虐待を受けた子どもへの支援について考える。
第14回	内容	幼稚園、保育園、小学校教育の連携の必要性を学び、連携の方法について学ぶ。	予習	小学校教育への連携の意義について調べる。
			復習	小学校教育との連携の方法について考える。
第15回	内容	保育者として幼児教育の方法と技術をどのように捉えるか検討し、検討した指導法を発表できるものに仕上げる。	予習	これまでの理論や指導法について読み返す。
			復習	保育者として幼児教育の方法と技術についての重要箇所をまとめる。

予習に要する学習時間：概ね　３０　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　４５　分を目安とする。

課題へのフィードバック	Google classroomから行います。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（　５０　%）、授業態度【動画視聴後の感想や意見】（　５０　%）
教科書	『実践につながる　新しい幼児教育の方法と技術』（大浦賢治 編著、野津直樹 編著、ミネルヴァ書房、2020年）
参考文献	『ICTを使って保育を豊かに　ワクワクがつながる＆広がる28の実践』（秋田喜代美・宮田まり子・野澤祥子編著、中央法規出版、2022年）
注意事項	授業ノートを作成することをもとめます。ルーズリーフよりも、針金等が入っていないキャンパスノートを使用することを推奨します。

科　目　名	教育相談	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	みよし　ちから 三好　力
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12203	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（　　）
授業の内容	幼稚園や学校における教育相談は，心理学の専門家や一部の教師が担うものではなく，学級運営と同じように全ての教師が担当する教育活動の一環として位置づけられている。本講義では，教育相談の理論，技術，キンダー（スクール）カウンセラーの位置づけなどについて概説し，幼稚園や学校（教育現場）における教育相談の役割を理解することを目的とする。
到達目標	１．教育現場での生徒指導上の問題に応じ，適切に対応できる。 ２．カウンセリングの基本的な理論と態度技術を身につけている。 ３．集団指導に有益な心理的技術について理解している。 ４．教育相談における保護者や地域との連携と関わり，キンダー（スクール）カウンセラー等との連携を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1，3　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーションとガイダンス：教育相談とは何か	予習	教育相談についてのイメージを膨らませる
			復習	教育相談の日本における位置づけを整理する
第２回	内容	子どもを支えるために必要な教師の資質とカウンセリングマインド	予習	教師の資質について考えておく
			復習	カウンセリングマインドを整理する
第３回	内容	子ども理解のための心理学――理論と実際の双方向からの多面的理解：教育相談のための発達心理学的基礎知識	予習	子ども家庭支援の心理学などのノートを確認
			復習	発達理論に基づき各世代について理解整理する
第４回	内容	子ども理解のための心理学――理論と実際の双方向からの多面的理解：教育相談のための臨床心理学的基礎知識	予習	臨床心理学を漠然とで良いので下調べしておく
			復習	臨床心理学の有用な技法を整理しておく
第５回	内容	発達障害をめぐる諸問題	予習	発達障害について下調べしておく
			復習	学修した後のギャップを整理しておく
第６回	内容	アセスメント――多面的に子どもを理解する視点と方法	予習	子どもに利用するアセスメントツールを調べる
			復習	アセスメントについての自分の考えをまとめる
第７回	内容	心理テスト体験実習	予習	心理テストについて調べる
			復習	測定されたものについて詳しく調べる
第８回	内容	カウンセリング――信頼関係を築き，子どもを援助する方法	予習	カウンセリングについて下調べしておく
			復習	カウンセリング技法について整理する
第９回	内容	コンサルテーション――よりよい指導・援助のための協働	予習	コンサルテーションとは何かを調べる
			復習	コンサルテーションにおける連携を整理する
第 10 回	内容	ソーシャルスキル教育やストレスマネジメント教育	予習	自分のストレスマネジメントについて整理する
			復習	ＳＳＴについて整理する
第 11 回	内容	教育相談を成立させる現実条件（目標の立て方や進め方）	予習	事前に配布プリントを読み込んでおく
			復習	教育相談の目標設定について整理する
第 12 回	内容	学級経営と学校のリスクマネージメント	予習	学校や園のリスクについて考えておく
			復習	多くのリスクについて整理しておく
第 13 回	内容	「チーム学校」にみる支援体制（他職種連携）、保幼少連携	予習	保幼小連携について大切なことを考えておく
			復習	他職種連携と保幼小連携について整理する
第 14 回	内容	相談事例の検討：いじめ、不登校・不登園、非行などを扱いグループディスカッションを行う	予習	事前に配布するプリントを読み込んでおく
			復習	ディスカッションした内容をまとめておく
第 15 回	内容	相談事例の検討：対人コミュニケーションの問題、発達障害を伴う問題などを扱いグループディスカッションを行う	予習	事前に配布するプリントを読み込んでおく
			復習	ディスカッションした内容をまとめておく

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題や小テストのフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（100%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【　　】（　　%）
教科書	使用しない
参考文献	絶対役立つ教育相談:学校現場の今に向き合う　藤田哲也他　2017　ミネルヴァ書房 教師のための教育相談の技術　　吉田圭吾　2007　金子書房　　ほか
補足事項	毎回小テストや課題を行う。その他、特別教材として別途 500 円（予価）を授業中に集金します。

科　目　名	教育相談	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	いまみず　ゆたか 今水　豊
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12203	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（　　）
授業の内容	教育相談は、家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助を行う実践活動である。もちろんその有用性は保育園においても同様である。授業ではまず援助の前提となる子どもの発達の総まとめをする。次に子どもに起こりうる問題と相談場面の実際を紹介していく。
到達目標	1. 発達を多角的にとらえることができる 2. 発達の知識と臨床心理学的な知識を援助活動に活かすことができる 3. 相談に必要な臨床心理学的な見立てについて理解している
学位授与方針	幼児教育学科（　3.5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	Ⅰ 教育相談とは何か　①相談の必要性	予習	相談やカウンセリングについて考える
			復習	教育相談の意義を理解する
第２回	内容	Ⅰ 教育相談とは何か　②相談のながれ 相談の体験グループワーク	予習	相談場面を想像する
			復習	相談のパターンを理解する
第３回	内容	Ⅱ 子どもの発達の特徴 ①発達の表の作成 （身体・運動・言語の発達）	予習	左記の子どもの発達について考える
			復習	表を通して発達の特徴を理解する
第４回	内容	Ⅱ 子どもの発達の特徴 ②発達の表の作成 （認知・親子関係の発達）	予習	左記の子どもの発達について考える
			復習	表を通して認知の発達を理解する
第５回	内容	Ⅱ 子どもの発達の特徴 ③発達の表の作成 （親子関係の発達）	予習	母子関係の発達について考える
			復習	表を通して人間関係の発達を理解する
第６回	内容	Ⅱ 子どもの発達の特徴 ④発達の表の作成 （社会心理的発達）	予習	身体から親子関係までの発達を把握する
			復習	表を通じて子どもの発達を多角的に理解する
第７回	内容	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　①発達障害の実際	予習	発達障害の記事や話題を調べる
			復習	発達障害の実際を理解する
第８回	内容	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　②特別支援教育	予習	義務教育の支援について調べる
			復習	義務教育の支援を把握する
第９回	内容	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　③養育者の実際	予習	養育者の苦労を考える
			復習	障害受容について理解する
第 10 回	内容	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　④虐待	予習	虐待の記事や話題を調べる
			復習	虐待の心理的影響を把握する
第 11 回	内容	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　⑤大震災と PTSD	予習	東日本大震災当時を思い起こす
			復習	PTSD について理解する
第 12 回	内容	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　⑥心のケアの実際	予習	震災が子どもに及ぼす影響を考える
			復習	子どもの反応と対応を理解し、その時に備える
第 13 回	内容	Ⅳ 相談の実際　①教育相談の意義	予習	連携する相談機関を調べる
			復習	教育相談の利点を理解する
第 14 回	内容	Ⅳ 相談の実際　②遊戯療法	予習	遊戯療法について調べる
			復習	遊戯療法の利点を理解する
第 15 回	内容	Ⅳ 相談の実際　③教育相談の実践	予習	上記授業の総復習
			復習	子どもの見立てについて理解する

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	わからない内容や疑問に思うことは、授業後質問して理解すること。 テスト・レポートについては、実施後に答え合わせ、解説、紹介等のフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（ 50% ）、レポート・課題（ 30% ）、作品・発表（　%）、実技（　%）、授業態度【積極的参加】（ 20% ）
教科書	とくになし
参考文献	都度紹介する
補足事項	教育相談では、保護者の相談ごとに耳を傾け、その心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも、授業をしっかり聞き理解するという構えを求める。

科　目　名	保育・教職実践演習(幼稚園)	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	おおくま　まるはし 大熊・丸橋　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12204	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	これまでの教育に関する科目および教職に関する科目の学修や実習経験を踏まえ、保育士・幼稚園教諭として必要な学びを振り返り、将来の教職生活のために自己課題を見つける。 尚、学生が主体的に学ぶことを基本とし、これまで履修してきた科目や実習とのつながりを理解し、保育を総合的に捉えることができるよう演習を展開する。
到達目標	幼児教育学科のディプロマポリシーに照らして、本演習を通して保育士・幼稚園教諭として必要な以下の資質能力を身につけている。 １．　幼児教育学・保育学の知識と技能をしっかりと習得している。 ２．　コミュニケーション能力があり、周囲の人と協調することができる。 ３．子どもを取り巻く環境や社会問題を理解し、自ら課題を見つけ取り組むことができる。 ４．自然と生命を大切にする心をもち、それを子どもに伝えることができる。 ５．自分を生き生きと表現し、他者の表現を受け入れることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　１．２．３．４．５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	保育・教職実践演習の授業の進め方について これまでの学修の振り返り	予習	この授業についてシラバスを読んでおく。
			復習	授業の概要をまとめる。
第２回	内容	保育者の役割・職務内容・子どもに対する責任等について (1)講義・レポート	予習	保育者の役割・職務内容について調べる。
			復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。
第３回	内容	保育者の役割・職務内容・子どもに対する責任等について (2)グループワーク	予習	グループワークに必要な情報をまとめる。
			復習	グループワークの内容をまとめる。
第４回	内容	学級経営、学級経営案の作成について（講義・レポート）	予習	学級経営について調べてくる。
			復習	授業内容を振り返り、レポートを書く。
第５回	内容	子ども理解の方法と実際について （講義・グループワーク・レポート）	予習	子ども理解の方法について調べる。
			復習	授業を振り返り、レポートを書く。
第６回	内容	組織の一員としての自覚（講義・レポート）	予習	組織で協働することについて調べる。
			復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。
第７回	内容	保護者や地域の関係者との人間関係の構築について （グループワーク・ロールプレイ）	予習	保護者や地域関係者との交流について調べる。
			復習	グループワーク・ロールプレイを振り返り、まとめる。
第８回	内容	幼稚園・保育園の安全管理について （講義・グループワーク）	予習	実習園での安全管理について調べる。
			復習	授業を振り返り、まとめる。
第９回	内容	子どもを取り巻く環境、子育てに関する社会問題について （講義・レポート）	予習	子どもを巡る社会問題について調べる。
			復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。
第 10 回	内容	感性と認識についてのフィールドワーク（自然保育実習）	予習	幼児の感性について調べる。
			復習	自然保育実習を振り返り、レポートを書く。
第 11 回	内容	保育内容と保育方法について（グループワーク）	予習	保育内容と保育方法について調べる。
			復習	グループワークを振り返り、まとめる。
第 12 回	内容	保育における活動を計画する。(グループワーク)	予習	保育における様々な活動を調べる。
			復習	話し合った計画についてまとめる。
第 13 回	内容	保育における活動を実践する。(ロールプレイ)	予習	グループでの計画を実践するための材料を準備し、方法を調べる。
			復習	実践したことを振り返り、まとめる。
第 14 回	内容	保育者の専門性について（グループワーク・レポート）	予習	保育者の専門性について確認する。
			復習	グループワークの内容をまとめる。
第 15 回	内容	授業全体の振り返り・資質能力の確認	予習	学科のディプロマポリシーを読み、自己課題を考える。
			復習	授業全体を振り返り、自己課題をまとめる。

予習に要する学習時間：概ね　15 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	各回の担当者が課題への取り組みまたは発表後に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（　30　%)、作品・発表（　40　%)、授業態度【積極的参加】(　30　%)

教科書	各担当教科の指示による
参考文献	なし
補足事項	オムニバス形式での授業（幼児教育学科全専任教員で担当）。各回の授業担当教員が異なるため、欠席回数の把握に注意すること。

科　目　名	保育所実習Ⅰ	単 位 数	2	授業時間数	９０	担当教員	おぐち　せき 小口・関
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12108	授業形態	実習	実務経験	有		

授　業　の 内　　容	これまでに講義、演習で学んだ内容を基礎として、保育所保育や子ども、保育所の機能・役割、保育士の職務内容について、実際の保育の場で観察・参加実習をすることで理解を深める。実習中は課題を明確にし、日誌へ記録し考察をする。 保育所実習のうち保育所実習Ⅰは前期実習となる。
到 達 目 標	1. 保育所の１日の流れを理解している。 2. 保育所の役割や機能について理解している。 3. 保育士の職務内容を理解している。 4. 観察、参加実習を通して子どもとの関わりを通して子どもを理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　２、５　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）
授 業 計 画	第１回 実習施設について理解する 第２回 保育所における一日の流れを学ぶ 第３回 観察と記録により子どもを理解する 第４回 子どもの生活と遊びについて学ぶ 第５回 子どもの発達過程を理解し援助や関わり方を学ぶ 第６回 保育計画や発達過程に応じた保育内容を学ぶ 第７回 保育の環境について学ぶ 第８回 安全への配慮について学ぶ 第９回 保育者の個々の子どもへの対応について学ぶ 第 10 回 保育士の業務内容や役割分担、連携方法について学ぶ 第 11 回 保育士の役割と職業倫理について学ぶ 第 12 回 反省会を通し実習を振り返る
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：実習（８０％）、レポート・課題（１０％）、日誌等書類作成（１０％）
教科書	
参考文献	『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』（厚生労働省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説　平成３０年３月』（厚生労働省、フレーベル館）
補足事項	実習関係書類の提出遅延、実習中の怠惰等があった場合は本学「実習派遣規制」により実習の中止等があり得るので注意すること。

科　目　名	施設実習	単 位 数	2	授業時間数	９０	担当教員	しのはら　みよし 志濃原・三好
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12204	授業形態	実習	実務経験	有		

授　業　の 内　　容	施設実習を通して、施設の役割や機能、日々の生活の展開、利用者の理解と関係の形成、保育者としての職務内容等について実際的に学習する。 保育士証を取得するため、保育実習（必修）の中に施設実習を行なうことが定められており、保育に関する講義や演習で学んできた内容を児童福祉施設、障害者支援施設等で実践するものである。
到 達 目 標	1.居住型及び通所型児童福祉施設等の利用者の生活が理解している。 2.居住型及び通所型児童福祉施設等の保育士の役割について理解している。 3. 居住型及び通所型児童福祉施設等の機能が理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（ 1，2，3 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）
授 業 計 画	１．実習施設の目的・機能の理解①（一日の生活の理解） ２．実習施設の目的・機能の理解②（利用児・者についての理解） ３．実習施設の人的・物的環境の理解①　（施設職員の役割・協働について） ４．実習施設の人的・物的環境の理解②　（施設の物的環境について） ５．施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得①（利用者の生活実態の把握） ６．施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得②（利用者への援助） ７．施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得③（利用者への援助のための間接業務） ８．保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解①（施設で働く保育士の役割） ９．保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解②（保育士と他職種との連携） １０．施設と地域・家庭・関係機関等との連携についての理解 １１．反省会・まとめ① １２．実習施設の役割の理解 １３．実習施設の社会的機能の理解 １４．これからの施設の在り方への考察 １５．反省会・まとめ②
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（80%）、レポート・課題（ 10%）、作品・発表（　%）、実技（　%）、授業態度【積極的参加】（ 10%）
教科書	なし
参考文献	施設種別毎の「実習園資料」（本学実習資料室のもの）等を、数多く参照すること。
補足事項	「福祉施設実習指導」で履修した内容を理解して実践すると同時に、施設の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、十分に留意すること。 　また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得ができないことになるので注意すること。

科　目　名	保育所実習Ⅱ	単 位 数	2	授業時間数	９０	担当教員	おぐち　せき　こやま 小口・関・小山
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12211	授業形態	実習	実務経験	有		

授　業　の 内　　容	具体的な実践を通して、保育所の役割や機能、保育の理解を深める。さらに、これまでの実習での学びを踏まえ、保育・子育て支援・保育の計画や記録等について実際に取り組み、理解を深める。 保育士業務内容や職業倫理について実践的な経験を通して理解し、自己の課題を明確化する。
到 達 目 標	1. 保育実習Ⅰでの保育所実習の経験を活かし実習に積極的に取り組むことができる。 2. 保育技術が向上し、保育士として乳幼児に対するより適切な保育を行うことができる。 3. 保育所の保育内容と子どもの成長や発達との関連性を理解し、実践的に保育の本質を理解している。 4. 職員間の連携・チームワークの重要性を理解している。 5. 保護者対応の仕方や保育所の地域との関わり方を具体的に理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1.2.3.4.5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）
授 業 計 画	1.保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の援助や関わり (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 (3) 関係機関や地域社会との連携 4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 5. 保育士の義務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：実習施設による評価（ 50%)、実習日誌の評価（ 30%)、個人面談等（ 20%）
教科書	なし
参考文献	なし
補足事項	実習関係書類の提出遅延、実習中の怠惰等があった場合は本学「実習派遣規制」により、実習の中止等があり得るので注意すること。

科　目　名	保育所実習指導Ⅰ	単 位 数	1	授業時間数	４０	担当教員	おぐち　せき 小口・関
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12109	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	保育所実習に必要な知識や技術を学ぶ。保育所実習の目的、内容、方法、実習施設の機能を学ぶとともに、手続書類の作成等について指導を行う。実習に対する課題を立て、事後の学習目標を明確にしていくことで今後の実習に対する意欲を高める。
到達目標	１．保育所実習の意義・目的・内容を理解している。 ２．実習の計画、実践、観察、評価の方法について理解し実践できる。 ３．事前準備として、目的を明確にした上で課題に取り組むことができる。 ４．事後指導の実習の統括と自己評価から、今後の課題と目標を明確にしている。
学位授与方針	幼児教育学科（　1,2,3,4,5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	保育所実習の意義を知る	予習	「保育施設とは」ノートにまとめる
			復習	授業内容を振り返り、ノートにまとめる
第２回	内容	保育所実習Ⅰ、Ⅱの目的を理解する	予習	保育所実習の目的を考える
			復習	授業内容を踏まえて、自分自身の実習の目的を考える
第３回	内容	保育実習Ⅰの目的を理解する	予習	事前に配布する資料を読む
			復習	前期実習の目的を考えノートにまとめる
第４回	内容	保育所前期実習参加の心得を知る	予習	実習の注意事項を考える
			復習	前期実習の心得をノートにまとめる
第５回	内容	実習手続き書類の作成指導（配当資料の作成）	予習	事前の配布資料を読む
			復習	清書をする(次回授業提出)
第６回	内容	実習手続き書類の作成指導（調査書の作成）	予習	事前の配布資料を読む
			復習	清書をする(次回授業提出)
第７回	内容	参加・観察実習の留意点を知る	予習	事前の配布資料を読む
			復習	参加・観察実習の留意点をノートにまとめる
第８回	内容	保育所の一日の流れを知る	予習	事前の配布資料を読む
			復習	保育所の一日の流れをノートにまとめる
第９回	内容	実習日誌の作成指導１ 実習開始前に必要な記入事項の説明	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	必要事項を日誌に記入する
第 10 回	内容	実習日誌の作成指導２ 実習課題の立て方	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	実習課題を考える
第 11 回	内容	実習日誌の作成指導３ 時系列記録による記録方法の理解１	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	記録方法をノートに整理する
第 12 回	内容	実習日誌の作成指導４ 時系列記録による記録方法の理解２	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	記録方法をノートに整理する
第 13 回	内容	実習日誌の作成指導５ 時系列記録による記録方法の理解３	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	記録方法をノートに整理する
第 14 回	内容	実習日誌の作成指導６ エピソード記録による記録方法の理解	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	記録方法をノートに整理する
第 15 回	内容	実習日誌の作成指導７ 振り返り等の書き方の理解	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	記録方法をノートに整理する
第 16 回	内容	部分実習指導計画案作成指導	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	指導計画案を作成する
第 17 回	内容	実習オリエンテーションについて理解する	予習	事前配布資料を読んでおく
			復習	オリエンテーションの注意事項をノートにまとめる
第 18 回	内容	持ち物、身だしなみ等、実習の諸注意について	予習	事前配布資料を読んでおく
			復習	諸注意事項をノートにまとめる
第 19 回	内容	実習の評価の観点と訪問指導を理解する	予習	事前配布資料を読んでおく
			復習	訪問指導についての必要性をノートにまとめる
第 20 回	内容	実習の総括と自己評価	予習	これまでの授業のノートを見直す
			復習	実習指導Ⅰから学んだ事をノートにまとめる

	第 21 回	内容	評価面談 1	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 22 回	内容	評価面談 2	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 23 回	内容	評価面談 3	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 24 回	内容	評価面談 4	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 25 回	内容	評価面談 5	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 26 回	内容	評価面談 6	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 27 回	内容	評価面談 7	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 28 回	内容	評価面談 8	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 29 回	内容	評価面談 9	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 30 回	内容	まとめ、日誌の返却、講評	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。				
課題へのフィードバック	授業内で課題への補足説明を行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（６０%）、授業態度【　積極的な参加　】（４０%）				
教科書	『パターンと練習問題でだれでも書けるようになる！保育実習日誌・指導案』（浅井拓久也、明治図書出版）				
参考文献	『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』（厚生労働省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説　平成３０年３月』（厚生労働省、フレーベル館）				
補足事項	小口（30 回）塩崎（30 回）小山（30 回）				

科目名	施設実習指導	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	志濃原（しのはら）・三好（みよし）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12205	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（ ）
授業の内容	この授業は、施設実習の前後に行なわれるものである。事前授業では実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容、および実習手続き書類の作成等について学習し、実習心得を身に付け、実習参加意欲の高揚を図るとともに、各自の実習課題を確立する。 実習後授業は、実習報告会の参加、実習報告書と実習アンケートの作成等を通して、自己の適性を見直し、保育者としての使命感や人権意識等を考え今後の学習課題を設定する。
到達目標	１．実習施設について理解を深めている。 ２．実習課題が設定できる。 ３．自己の適性を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（ 1，3 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション（履修上の諸注意）	予習	シラバスを確認する
			復習	履修上の諸注意を確認する
第２回	内容	施設実習の意義の理解	予習	実習の手引きを一読する
			復習	実習の手引きを確認しながら理解を深める
第３回	内容	実習施設の配当発表及び各実習施設の理解	予習	配当の確認をする
			復習	配当の施設について調べる
第４回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（乳児院）	予習	児童福祉施設の知識の復習をする
			復習	感想文を書く
第５回	内容	実習生調書の作成	予習	実習生調書下書き
			復習	実習生調書を直す
第６回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（児童養護施設）	予習	児童福祉施設の知識の復習をする
			復習	感想文を書く
第７回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害児関連施設）	予習	障害児への知識を確認する
			復習	感想文を書く
第８回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害者関連施設）	予習	障がい者福祉の知識を確認する
			復習	感想文を書く
第９回	内容	各施設への実習前訪問と諸注意	予習	実習先の概要を確認する
			復習	実習先への交通経路等の確認をする
第 10 回	内容	外部講師の話	予習	実習への心構えを考えておく
			復習	感想文を書く
第 11 回	内容	実習日誌の書き方	予習	実習日誌を一読する
			復習	日誌の記入方法等を確認する
第 12 回	内容	実習関係書類作成、細菌検査、実習課題について	予習	提出書類の記入及び準備をする
			復習	書類の確認・実習課題の整理をする
第 13 回	内容	実習に向けての諸注意	予習	実習に向けて準備を整える
			復習	諸注意の確認をする
第 14 回	内容	実習概要報告書の作成（書き方の説明）	予習	提出物・書類の確認、報告書の下書きをする
			復習	報告書の作成、実習の振り返りと自己評価
第 15 回	内容	実習概要報告ビデオの作成（オンライン）	予習	報告ビデオの作成
			復習	報告ビデオの提出
第 16 回	内容	評価面談１	予習	自己評価と省察
			復習	実習の振り返りと自己評価
第 17 回	内容	評価面談２	予習	自己評価と省察
			復習	実習の振り返りと自己評価
第 18 回	内容	評価面談３	予習	自己評価と省察
			復習	実習の振り返りと自己評価
第 19 回	内容	評価面談４	予習	自己評価と省察
			復習	実習の振り返りと自己評価

	第 20 回	内容	評価面談 5	予習	自己評価と省察
				復習	
	第 21 回	内容	評価面談 6	予習	
				復習	
	第 22 回	内容	評価面談 7	予習	
				復習	
	第 23 回	内容	評価面談 8	予習	
				復習	
	第 24 回	内容	評価面談 9	予習	
				復習	
	第 25 回	内容	実習を振り返って	予習	
				復習	
	第 26 回	内容	まとめ、日誌の返却、講評	予習	
				復習	
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	実習の評価面談、及び反省を通して、フィードバックする				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（　30%）、作品・発表（　20%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加】（　50%）				
教科書	『施設実習』（立花直樹他著者、ミネルヴァ書房）				
参考文献	『保育福祉小六法 2023 年版』（保育福祉小六法編集委員会編、みらい）				
補足事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、非行・怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられているので十分に留意すること。 ◎派遣施設が決まったら、自主的にその施設機能や利用者について予備学習を行うこと。				

科　目　名	保育所実習指導Ⅱ	単 位 数	1	授業時間数	４０	担当教員	おぐち　せき　こやま 小口・関・小山
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12212	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	保育所実習に必要な知識や技術を学ぶ。保育所実習の目的、内容、方法、実習施設の機能を学ぶとともに、手続き書類の作成等について指導を行う。 実習に対する課題を立て、無地後の学習目標を明確にしていくことで今後の実習に対する意欲を高める。
到達目標	1.保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解している。 2.実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力が身についている。 3.保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して検討できる。 4.保育士の専門性と職業倫理について理解している。 5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。
学位授与方針	幼児教育学科（　1.2.3.4.5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第１回	内容	保育所実習指導Ⅱの目的と概要 事例から学ぶ　実習事例報告・検討会	予習	シラバスを確認する
				復習	実習概要についてまとめる
	第２回	内容	保育実習の振り返り及び課題について検討する	予習	保育実習Ⅰの振り返り、反省をまとめる
				復習	事例報告をまとめ、課題をシートに記入する
	第３回	内容	実習の意義と目的の理解・実習課題の明確化	予習	保育実習Ⅱの実習課題を考える
				復習	実習課題をまとめる
	第４回	内容	部分実習・責任実習指導計画作成の準備① 模擬授業①②③の準備(グループワーク)	予習	模擬授業①②③の内容を考える・調べる
				復習	模擬授業の準備・部分実習案の作成
	第５回	内容	部分実習・責任実習指導計画作成の準備① 模擬授業①の準備(グループワーク)	予習	模擬授業①の内容を考える・調べる
				復習	模擬授業①の準備・部分実習案の作成
	第６回	内容	模擬授業①	予習	模擬授業①の準備・部分実習案の作成
				復習	模擬授業①の振り返りを行う
	第７回	内容	部分実習・責任実習指導計画作成の準備② 模擬授業②の準備(グループワーク)	予習	模擬授業②の内容を考える・調べる
				復習	模擬授業②の準備・部分実習案の作成
	第８回	内容	模擬授業②	予習	模擬授業②の準備・部分実習案の作成
				復習	模擬授業②の振り返りを行う
	第９回	内容	部分実習・責任実習指導計画作成の準備③ 模擬授業③の準備(グループワーク)	予習	模擬授業③の内容を考える・調べる
				復習	模擬授業③の準備・部分実習案の作成
	第 10 回	内容	模擬授業③	予習	模擬授業③の準備・部分実習案の作成
				復習	模擬授業③の振り返りを行う
	第 11 回	内容	保育実習Ⅱに必要な書類の準備	予習	実習に必要な書類を用意する
				復習	実習園に提出する書類を作成する
	第 12 回	内容	模擬授業④⑤の準備(グループワーク)	予習	模擬授業④⑤の内容を考える・調べる
				復習	模擬授業の準備・部分実習案の作成
	第 13 回	内容	模擬授業④	予習	指導案を確認し、模擬授業の練習を行う
				復習	模擬授業④の振り返りを行う
	第 14 回	内容	模擬授業⑤	予習	指導案を修正し、模擬授業の練習を行う
				復習	模擬授業⑤の振り返りを行う
	第 15 回	内容	実習日誌の書き方①　目的と概要	予習	保育所実習Ⅰの日誌を確認する
				復習	保育所実習Ⅱで求められていることを考える
	第 16 回	内容	実習日誌の書き方②　エピソード記録	予習	保育所実習Ⅰの日誌を確認する
				復習	エピソード記録のワークに取り組む
	第 17 回	内容	実習日誌の書き方③ エピソード記録を中心とした実習日誌の書き方	予習	保育所実習Ⅰの日誌を確認する
				復習	エピソード記録のワークに取り組む
	第 18 回	内容	実習前の心構え・実習における諸注意①	予習	心構え等をまとめる
				復習	守秘義務・マナー等の再確認　持ち物確認
	第 19 回	内容	実習前の心構え・実習における諸注意②	予習	保育実習Ⅱの課題シートを確認する
				復習	保育実習Ⅰの振り返りと保育実習Ⅱの課題の確認

	第 20 回	内容	保育所実習Ⅱを振り返る	予習	実習を振り返り、自己評価を行う
				復習	自己評価シートを記入する
	第 21 回	内容	自己評価と実習の総括　グループワーク① パワーポイント発表練習	予習	実習を振り返り、自己評価を行う
				復習	グループワークで行ったことをまとめる
	第 22 回	内容	自己評価と実習の総括　グループワーク② パワーポイント発表練習	予習	実習を振り返り、自己評価を行う
				復習	パワーポイントを作成する
	第 23 回	内容	自己評価と実習の総括　グループワーク③ パワーポイント発表練習	予習	パワーポイトを修正する
				復習	パワーポイント発表練習を行う
	第 24 回	内容	自己評価と実習の総括　発表	予習	パワーポイント発表練習を行う
				復習	発表後の感想をまとめる
	第 25 回	内容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導(評価面談等)	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて、省察する
	第 26 回	内容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導(評価面談等)	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて、省察する
	第 27 回	内容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導(評価面談等)	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて、省察する
	第 28 回	内容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導(評価面談等)	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて、省察する
	第 29 回	内容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導(評価面談等)	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて、省察する
	第 30 回	内容	まとめ　日誌の返却　　講評	予習	自己評価シートのまとめを書く
				復習	自己評価を考察する
	予習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	個人面談等で実習に関する評価を伝える。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：レポート・課題・指導案（ 50%)、発表（25 %)、授業態度【積極的参加】(25%)				
教科書	ISBN 978-4-89347-398-1『保育実習(仮題)』萌文書林　2023 年発行　　『実習の手引き』(秋草学園短期大学・実習委員会)				
参考文献	『パターンと練習問題でだれでもかけるようになる!保育実習日誌・指導案』(浅井拓久也編著、明治図書)) 『保育所保育指針』(厚生労働省、フレーベル館)				
補足事項					

科　目　名	教育実習Ⅰ	単 位 数	2	授業時間数	９０	担当教員	おおくま　しおざき 大熊・塩崎
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12105	授業形態	実習	実務経験	有		

授　業　の 内　　容	教育実習は幼稚園教諭の免許状を取得するための必修科目である。これまで学んできた学校での理論を統合的に整理し，保育の場でどのように具現化・統合化されているのかを理解する。教育実習Ⅰ（前期教育実習）では，保育活動に直接参加する前段階として，子どもや保育者の活動を見学・観察し，客観的に記録する見学・観察実習と，保育活動に加わり，体験を通して保育の営みについて学ぶ参加実習を行う
到 達 目 標	１．教育実習の意義を理解し，課題を持ち実習に臨むことができている。 ２．幼稚園の機能や活動内容を理解し，幼稚園教育の場を統合的に理解している。 ３．実習を通し，社会人としてのマナー，保育者としての使命感を認識することができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　１・２・３・４・５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）
授 業 計 画	○前期教育実習：見学・観察・参加実習 幼稚園で生活する子どもや保育者の日々の営みについて，見学・観察をする。また，子どもの実態や保育内容，保育者の職務等について理解を深める。具体的には，以下の 5 つのねらいを持ち 10 日間の実習を行う。 （1）一日の保育の流れを理解する。 （2）子どもの生活実態と活動の様子を理解する。 （3）保育者の職務内容や保育活動について理解する。 （4）保育者としての自覚・態度を確認する。 （5）今後の学習の目標や自己課題について確認する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：　実習園による評価（　50　%）日誌（　50　%）
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）
参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省）
補足事項	１．「教育実習指導Ⅰ」を履修し、準備をすると同時に実習生としてふさわしい言動を心がけること。 ２．実習関係書類の提出期限は厳守すること。 ３．「実習派遣規制」に基づき、実習の停止、中止等が行われる場合があるため注意すること。

科　目　名	教育実習Ⅱ	単 位 数	2	授業時間数	９０	担当教員	おおくま　いざわ 大 熊 ・伊澤
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12205	授業形態	実習	実務経験	有		

授　業　の 内　　容	教育実習は幼稚園教諭の免許状を取得するための必修科目である。これまで学んできた学校での理論を統合的に整理し、保育の場でどのように具現化・統合化されているのかを理解する。前期実習での学びを通し、後期実習では、幼稚園での子どもの生活や保育者の日々の営みについてさらに理解を深め、幼稚園教諭（保育者）として必要な技術を習得していく。
到 達 目 標	１．教育実習の意義を理解し、課題を持ち実習に臨むことができている。 ２．幼稚園の機能や活動内容を理解し、幼稚園教育の場を統合的に理解している。 ３．実習を通し、社会人としてのマナー、保育者としての使命感を認識することができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　1、2、3、5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）
授 業 計 画	○後期教育実習：参加・指導実習 前期実習での体験、大学で学んだ理論や技術を基に、幼稚園教育の場を統合的に理解する。また、実習生が主体となって指導する実践体験を積み重ねることにより、保育者論や指導技術の向上を図る。具体的には以下の 3 つのねらいを持ち、10 日間の実習を行う。 (1) 幼稚園の機能や活動内容を理解する。 (2) 大学で学んだ理論や技術と実践との関連性を確認する。 (3) 社会人としてのマナー、保育者としての使命感等を認識する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　実習園による評価（40%）、実習日誌評価（40%）、実習へ取り組む姿勢（20%）
教科書	『実習の手引き』(実習委員会)
参考文献	『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
補足事項	1.「教育実習指導Ⅱ」を履修し、準備をすると同時に実習生としてふさわしい言動を心がけること。 2. 実習関係書類の提出期限は厳守すること。 3.「実習派遣規制」に基づき、実習の停止、中止等が行われる場合があるため注意すること。

科　目　名	教育実習指導Ⅰ	単 位 数	1	授業時間数	６０	担当教員	おおくま　しおざき 大熊・塩崎
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12106	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	教育実習と並行して行われる授業であり、教育実習に関する事前事後の指導を行う。具体的には、教育実習の目的、幼稚園の機能、幼稚園教諭の職務内容について学ぶとともに、実習手続きに必要な書類の作成の指導を行っていく。前期教育実習の各段階における実習内容や目的、実習記録の方法、指導計画の理解と作成について学習することを目的とする。
到達目標	１．前期教育実習の事前準備として、実習の心構えを理解し、実習に必要な態度や意欲を持っている。 ２．前期教育実習の事前準備として、実習の課題を明確にしている。 ３．前期教育実習の事前事後指導を通し、後期教育実習に向けて必要な，保育者としての資質・能力を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　１．２．３　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	幼稚園教育の意義の理解	予習	幼稚園教育要領を読んでおく
			復習	配布資料を読み返す
第２回	内容	教育実習の目的の理解	予習	実習の手引きの該当部分を読んでおく
			復習	教育実習の目的についてまとめる
第３回	内容	前期教育実習の目的の理解	予習	実習の手引きの該当部分を読んでおく
			復習	実習の手引きと配布資料を読み復習する
第４回	内容	前期教育実習参加の心得	予習	実習の手引きの該当部分を読んでおく
			復習	手引き・配布資料をみながら復習をする
第５回	内容	実習配当資料作成指導① 配当資料について	予習	自分の住んでいる地域の幼稚園について調べる
			復習	授業での説明を基に、幼稚園を調べる
第６回	内容	実習配当資料作成指導② 配当資料の作成	予習	先輩の報告書を読み、自分の行きたい園を考える
			復習	配当資料の作成を行う
第７回	内容	実習内容指導① 幼稚園の一日の流れ	予習	配当資料に記入した園のディリープログラムを調べる
			復習	配布資料と自分の調べたディリープログラムを見直し幼稚園の一日の流れについて理解を深める
第８回	内容	実習内容指導② 参加･観察実習の留意点	予習	実習の手引きの教育実習部分を読み直しておく
			復習	配布資料と手引きを読み返す
第９回	内容	実習内容指導③ 実習中の心構え	予習	実習の手引きの該当部分を読んでくる
			復習	配布資料・手引きをみて自分の心構えをまとめる
第 10 回	内容	実習内容指導④ 実習中のマナー･身支度	予習	実習中のマナーや身支度について考えまとめておく
			復習	配布資料を読み返し、今から実施できることを箇条書きにまとめる
第 11 回	内容	実習内容指導⑤ 守秘義務について	予習	実習の手引きの該当部分を読んでおく
			復習	実習の手引きを読み返し守秘義務について理解する
第 12 回	内容	実習生調査書作成指導① 記入上の注意	予習	自分の長所・短所を箇条書きにしてくる
			復習	記入上の注意を読み返す
第 13 回	内容	実習生調査書作成指導② 自己評価･資格･健康状態等	予習	自分の持つ資格などを確認しておく
			復習	実習生調査書（下書き）の抱負以外を記入する
第 14 回	内容	実習生調査書作成指導③ 抱負	予習	実習への心構えや想いを整理してくる
			復習	実習への抱負を文章にしてみる
第 15 回	内容	実習生調査書作成指導④ 作成･提出	予習	実習生調査書（下書き）の抱負の見直しを行う
			復習	作成したものの見直しを行う
第 16 回	内容	実習配当発表と今後の流れについて	予習	前期の内容を復習する
			復習	自分の配当先を確認し実習園の概要を調べる
第 17 回	内容	オリエンテーションについて	予習	実習園の概要の見直し、場所などを確認しておく
			復習	オリエンテーションへの準備を行う
第 18 回	内容	教育実習日誌の作成指導① 教育実習日誌とは	予習	実習園の概要などをまとめたものに目を通しておく
			復習	配布資料を読み返す
第 19 回	内容	教育実習日誌の作成指導② 実習園の概況･環境等	予習	実習日誌の書式全体に目を通す
			復習	実習園の概況など記入できる部分を記入する

	第 20 回	内容	教育実習日誌の作成指導③ 実習課題とは	予習	前期教育実習において学びたいことを箇条書きにしておく
				復習	実習課題をまとめる
	第 21 回	内容	実習報告会	予習	先輩への質問を箇条書きにしておく
				復習	報告会の振り返りを記入する
	第 22 回	内容	教育実習日誌の作成指導④ 保育の記録:一日の流れ	予習	幼稚園の一日についての配布資料を読み返す
				復習	一日の流れについての出された課題を行う
	第 23 回	内容	教育実習日誌の作成指導⑤ 保育の記録:振り返り	予習	振り返りの書式（日誌）に目を通しておく
				復習	配布資料を読み返す
	第 24 回	内容	部分実習指導案の作成指導	予習	前期教育実習の段階について手引きや配布資料を見返しておく
				復習	部分実習指導案を作成する
	第 25 回	内容	直前指導･最終確認	予習	日誌の必要な部分を記入する
				復習	最終チェックの項目を自分で確認し実習への準備を進める
	第 26 回	内容	前期教育実習の振り返り:自己評価	予習	実習日誌を完成し実習園への提出などを行う
				復習	自分自身の評価を記入する
	第 27 回	内容	前期教育実習の振り返り:グループワーク	予習	実習の振り返りを自分の言葉でまとめておく
				復習	振り返りを共有した感想などをまとめる
	第 28 回	内容	前期教育実習評価	予習	評価面談にむけて実習の振り返りを行う
				復習	園からの評価を受け、後期への課題を考える
	第 29 回	内容	前期教育実習の総括	予習	学校への日誌提出に向け、最終確認する
				復習	これまでの振り返りを行う
	第 30 回	内容	後期教育実習に向けて	予習	後期実習に向けて主活動の内容を調べてくる
				復習	後期実習に向けて春休みの課題を行う
	予習に要する学習時間：概ね　90　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　90　分を目安とする。				
課題へのフィードバック	評価面談にて実習の評価を伝え、後期実習につなげていく。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：レポート・課題（　９０　%)、授業態度【　積極的参加　　】(　１０　%)				
教科書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』(小櫃智子他 2 名、わかば社) 『実習の手引き』(秋草学園短期大学・実習委員会)				
参考文献	『幼稚園教育要領』(文部科学省)				
補足事項	1. 実習について必要な事柄や注意事項の説明，提出書類の作成を行うので，原則として欠席は認めない。 2. 実習書類の遅延，授業態度の怠慢等は「実習派遣規制」によって禁じられており，実習派遣できなくなるので十分に留意すること。 3. 必要な資料は授業内で適宜、配布するので、毎週持参すること。				

科目名	教育実習指導Ⅱ	単位数	1	授業時間数	６０	担当教員	大熊（おおくま）・伊澤（いざわ）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12206	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（ ）
授業の内容	教育実習Ⅱと並行して行われる授業であり、後期教育実習に関する事前事後の指導を行う。具体的には、後期教育実習の目的、幼稚園の機能、幼稚園教諭の職務内容について学ぶとともに、実習手続きに必要な書類の作成の指導を行っていく。後期実習における実習内容や目的、実習記録の方法、指導計画の理解と作成について学習することを目的とする。
到達目標	１．後期教育実習の事前準備として、実習の心構えを理解し、実習に必要な態度や意欲を持っている。 ２．後期教育実習の事前準備として、実習の課題を明確にしている。 ３．実習の事前事後指導を通し、保育者としての資質・能力を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（１、２、３）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画

第１回	内容	実習生調査書の書き方と記入	予習	実習生調査書への記入項目について事前に考えておく
			復習	記入内容について確認する
第２回	内容	個人情報保護について 実習課題を考える	予習	手引きの該当部分を読み込んでおく 前期実習の日誌等をもとに前期実習の振り返りを行う
			復習	個人情報保護について自身の日々の行動についての振り返りを行う 実習課題を再考する
第３回	内容	後期実習について 責任実習について	予習	手引きの該当部分を読み込んでおく
			復習	後期実習や責任実習についてのまとめを行う
第４回	内容	実習園オリエンテーションについて 実習指導案について	予習	指導案の立案について下調べをしておく
			復習	指導案を立案する意義と目的についてまとめる
第５回	内容	保育の記録の書き方のポイントについて	予習	前期実習で記入した保育の記録の仕方について振り返りを行う
			復習	前期実習で記入した保育の記録の修正点等を探る
第６回	内容	保育の記録の事例をもとにした実際の書き方について	予習	前回の授業内容をもとに基本的な保育の記録の書き方について整理をする
			復習	実習に向けての健康管理法について考える
第７回	内容	部分実習指導案について	予習	指導案の記入方法についての振り返りを行う
			復習	指導案例を作成する
第８回	内容	保育の記録と指導案の関係について	予習	保育の記録と指導案への記載内容について確認しておく
			復習	保育の記録と指導案の共通点と相違点をまとめる
第９回	内容	実習日誌のチェック お礼状の書き方	予習	実習日誌の確認を行う お礼状の書き方について調べておく
			復習	お礼状を書く練習をする
第10回	内容	実習概要報告書の作成	予習	実習の振り返りを行う
			復習	作成した実習概要報告書の確認を行う
第11回	内容	実習の振り返りを行う（1）	予習	実習の振り返りを行う
			復習	改めて実習の成果や課題をまとめる
第12回	内容	実習の振り返りを行う（2） グループワーク	予習	実習の振り返りを行う
			復習	改めて実習の成果や課題をまとめる
第13回	内容	振り返りのワーク（1）	予習	実習の振り返りを行う
			復習	課題を仕上げる
第14回	内容	振り返りのワーク（2）	予習	実習の振り返りを行う
			復習	課題を仕上げる
第15回	内容	振り返りのワーク（3）	予習	実習の振り返りを行う
			復習	課題を仕上げる
第16回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる
			復習	評価を受けて、省察する。
第17回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる
			復習	評価を受けて、省察する。
第18回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる
			復習	評価を受けて、省察する。
第19回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる
			復習	評価を受けて、省察する。

	予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。
課題へのフィードバック	個別面談にて実習に関する評価を伝える。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（60%）、授業態度【　主体的取組　】(40%)
教科書	『実習の手引き』(実習委員会)
参考文献	『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
補足事項	1. 実習について必要な事柄や注意事項の説明、提出書類の作成を行うので、原則として欠席は認めない。 2. 実習書類の遅延、授業態度の怠慢等は「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣できなくなるので十分に留意すること。

【幼児教育学科第一部・二部】

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧

（シラバスリンク）
https://www.akikusa.ac.jp/akitan/pdf/infant1_resume/yk_syllabus_2024.pdf

	科目名	単位数	授業形態	担当教員	シラバスページ
1	保育所実習Ⅰ	2	実習	小口偉・関維子	105
2	施設実習	2	実習	志濃原亜美・三好力	106
3	保育所実習Ⅱ	2	実習	小口偉・小山玲子・関維子	107
4	教育実習Ⅰ	2	実習	大熊美佳子・塩崎みづほ	114
5	教育実習Ⅱ	2	実習	大熊美佳子・伊澤永修	115
	計	10			

注）「実務経験のある教員等による授業科目」とは、担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行っている授業科目を指す。実務経験があっても、担当する授業科目の教育内容と関わりがなく、授業に実務経験を活かしているとは言えない場合は対象とはならないことに注意すること。また、必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくとも、例えば、オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて指導を行う場合や、学外でのインターンシップや実習等を授業の中心に位置付けているなど、主として実践的教育から構成される授業科目もこれに含む。必修科目、選択科目又は自由科目の別を問わない。